

大井町地域公共交通計画

(素 案)

【 目 次 】

頁

1	計画策定の目的と位置付け	1
2	地域公共交通を取り巻く課題	2
3	地域公共交通の構築に係る基本方針	7
4	計画の目標及び実施事業	11
参考資料編		12
6	地域内公共交通に関する現況調査	12
6-1	大井町の現況把握	12
6-2	上位・関連計画の整理	18
6-3	地域公共交通の現状分析	22
7	町民の意向把握の実施	32
7-1	町民アンケート調査	32
7-2	令和元年度公共交通利用者アンケート調査	54
7-3	交通事業者・関係団体アンケート調査	58
7-4	地区別ヒアリング	61
7-5	広報による意見募集	65

1 計画策定の目的と位置付け

(1) 計画策定の目的

本町では、鉄道（ＪＲ御殿場線）、路線バス（富士急湘南バス㈱）及び高齢者や交通手段を持たない住民へのサービスとして巡回福祉バス「ふれあい悠悠」が運行している。

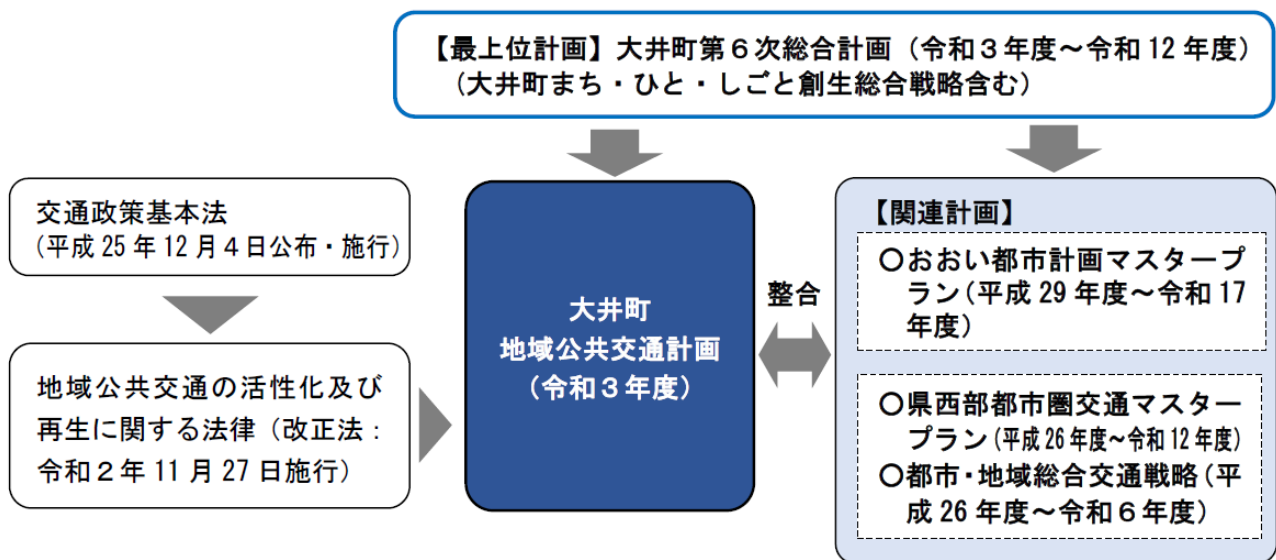
これら公共交通サービスのほか、社会福祉協議会で実施中の移送サービスなど多様な輸送資源が存在している。

人口減少や高齢化が進行する中で、相和地区における路線バスの減便や小・中学生の移動手段の確保、巡回福祉バスに代わる新たな公共交通システムの構築、さらには大井中央土地区画整理事業や未病改善拠点施設「未病バレー『BIOTOPIA』」など新たな人の流れに適応した交通網の形成などの課題を抱えている。

このことから、大井町にとって望ましい公共交通網のすがたを明らかにし、輸送資源の総動員により、地域旅客運送サービスの持続可能な提供を確保するため、「大井町地域公共交通会議」での協議を経て、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（以下「活性化再生法」という。）に規定する「大井町地域公共交通計画」を策定する。

(2) 計画の位置付け

本計画は、活性化再生法第5条に規定する法定計画として、最上位計画である「大井町第6次総合」に即し、「おおい都市計画マスタープラン」等との整合を図り、総合的なまちづくりの一環として公共交通に係る事項を位置付ける計画とする。



(3) 計画区域

本計画の区域は、大井町全域とする。ただし、広域交通圏における連携を強化・充実するため、隣接市町についても検討の対象に含める。

(4) 計画期間

本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度まで5年間とする。

なお、計画の期間内においても、今後の社会情勢などの変化や関連計画の見直しなどに適応するよう必要に応じて計画の見直し・修正を行う。

2 地域公共交通を取り巻く課題

地域特性や公共交通の現状分析に加え、町民や交通事業者等へアンケート・ヒアリングを実施し、地域公共交通を取り巻く課題について次のように整理する。

- ①高齢者・障がい者及び児童・生徒等交通弱者への対応
- ②家族等による送迎の負担の軽減
- ③公共交通同士の接続と広域アクセスの改善
- ④過度な車利用の抑制と地域の輸送資源の維持

①高齢者・障がい者及び児童・生徒等交通弱者への対応

本町の高齢者数は平成 22 年が 3,550 人に対し、令和 2 年が 4,841 人とこれまで増加していたものの、令和 7 年の目標人口は「大井町人口ビジョン（令和 2 年 11 月改訂）」によると、4,828 人と横ばい状態が予測されている。高齢化率は平成 22 年が 19.9%に対し、令和 2 年が 28.3%と増加し、令和 7 年には 28.5%と微増することが予測されており、伸び率は鈍化するものの、今後も高い水準を維持していくことが見込まれる《図 1・2 参照》。

障がい者数は平成 25 年が 661 人に対し、平成 29 年が 677 人と微増している。

町民アンケート調査では、15～19 歳や 20～29 歳、30～39 歳、70 歳以上で困り具合の割合が高くなっている。外出時に困る時の目的としては、買い物、通院、遊び・趣味・習い事等が高くなっている。外出時の行き先は高齢になるほど、町内での移動割合が高くなっている《図 3～6 参照》。

地区別ヒアリングでは、「高齢者ほど車が必要で、歩いて移動出来ないため、車を使わざるを得ない」、「今は自転車を使って、買物しているが、これから先は不安」、「高齢になると、バス停まで行くのが大変」といった意見が寄せられている。

以上のことから、高齢者・障がい者及び児童・生徒等の交通弱者が、通勤、通学、通院、買い物及び公共施設の利用等といった日常生活及び社会生活に不可欠な移動手段を確保することが必要である。

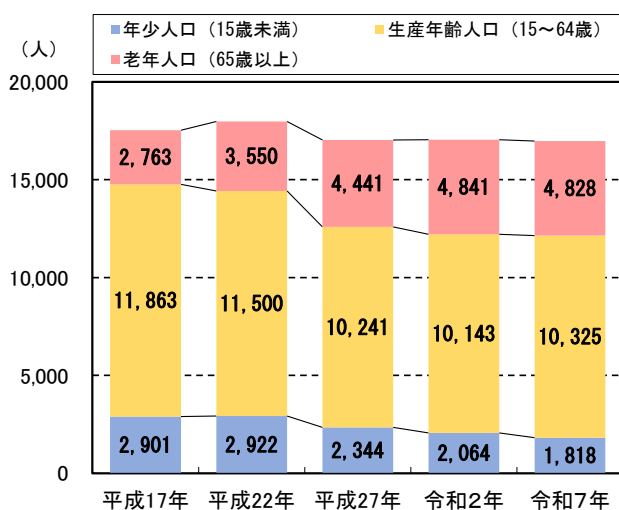


図 1：年齢3区分別人口の推移

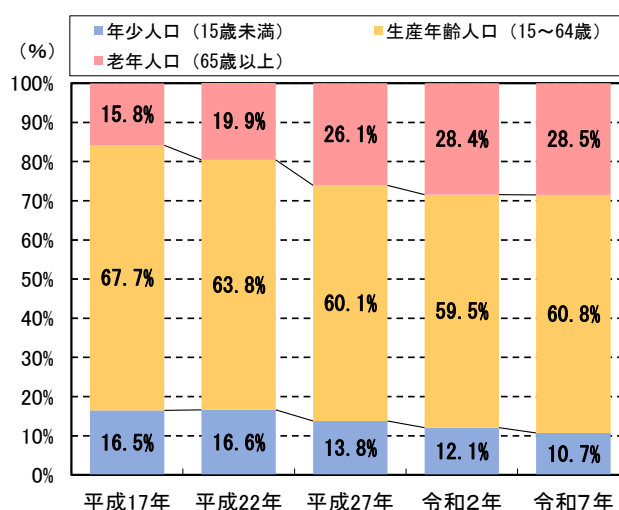


図 2：年齢3区分別構成比の推移

出典：平成 12 年～平成 27 年は国勢調査、令和 2 年は住民基本台帳（1 月 1 日現在）、令和 7 年は「大井町人口ビジョン（令和 2 年 11 月改訂）」

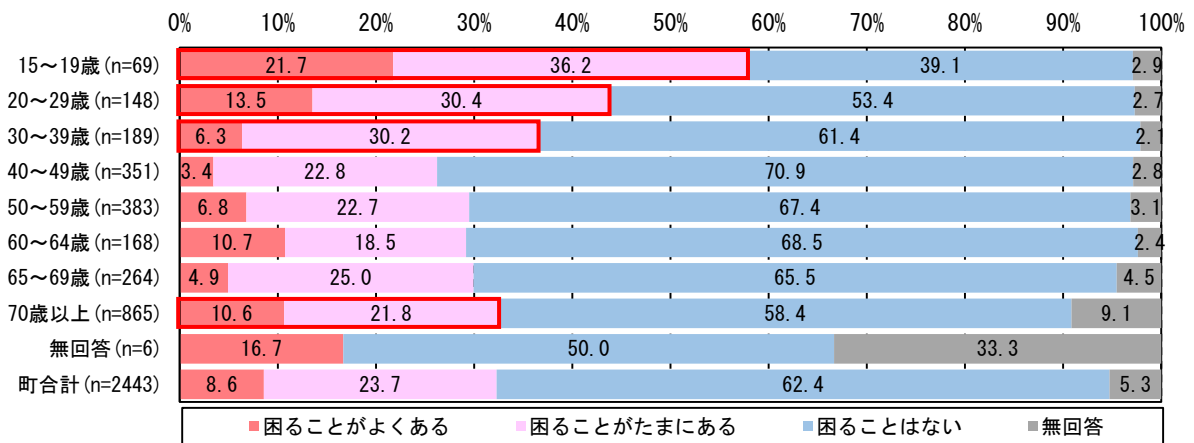


図3：年齢別外出する際の困るものの有無

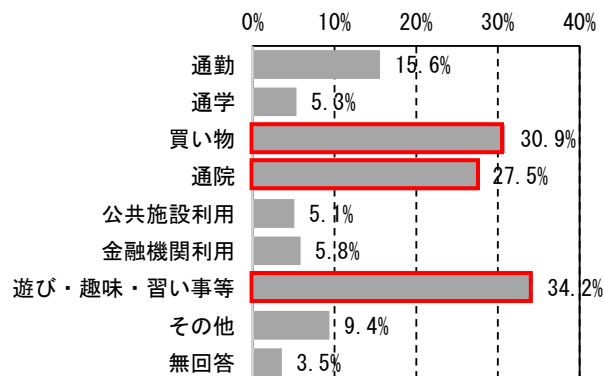


図4：外出時に困る時の目的

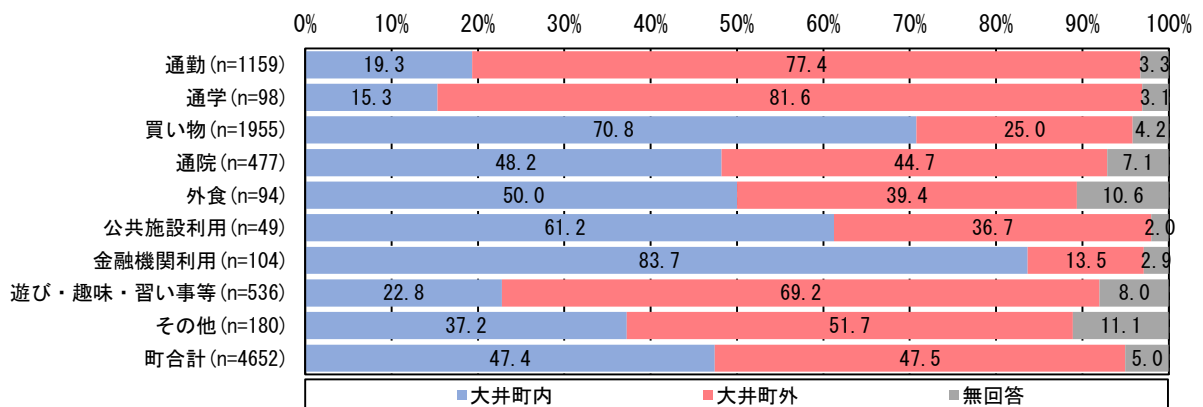


図5：外出目的別行き先

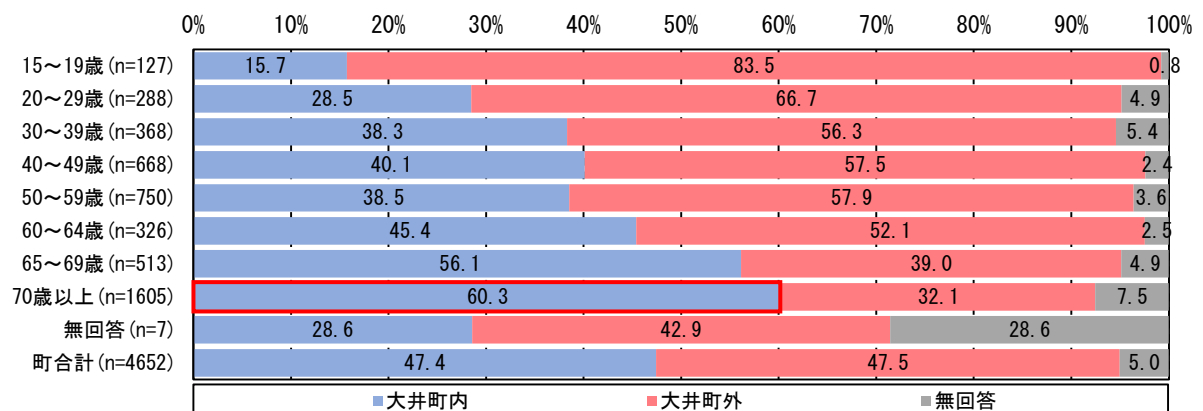


図6：年齢別行き先

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計として必ずしも100%にならない
n＝回答数

②家族等による送迎の負担の軽減

町民アンケート調査では、外出時の交通手段は「自分で車を運転」が 58.7%と最も多くなっている。

「家族等による送迎」の割合は 7.9%を占めており、年齢別に見ると、15～19 歳や 70 歳以上でその割合が他の年代と比較して高くなっている《図 7 参照》。

自動車運転免許有無別に見ると、「家族等による送迎」の割合は自動車運転免許が無い方が 25.1%、運転免許返納済の方が 41.0%と、運転免許を持っていない方で高くなっている《図 8 参照》。

以上のことから、若年層や高齢者、自動車運転免許を持っていない方といった交通弱者の移動手段を確保し、家族等による送迎の負担を軽減する必要がある。

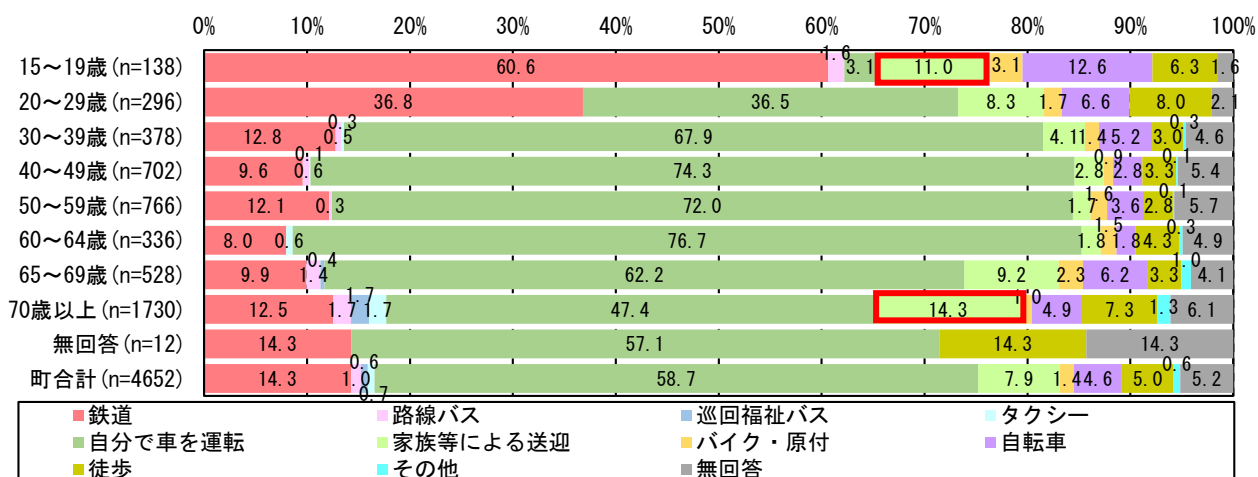


図 7：外出時の年齢別主な交通手段

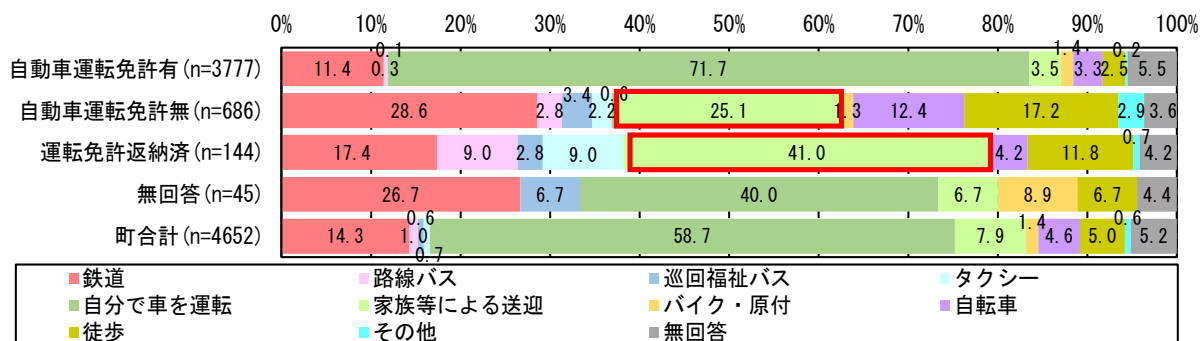


図 8：外出時の自動車運転免許有無別主な交通手段

③公共交通同士の接続と広域アクセスの改善

本町内の公共交通機関は鉄道、路線バス、巡回福祉バス、タクシー及び高速バスの他、移送サービスや民間企業送迎バスといった多様な輸送資源が運行されている。しかしながら、路線バスは新松田駅を起点としたネットワークで、町民の主な目的地である商業施設や公共施設、医療機関等は大井町役場周辺や国道 255 号沿線に立地しているため、地域によっては新松田駅での乗換えが必要となっている。また、現在、新たな住宅開発事業や都市計画道路・金子開成和田河原線等の整備が進んでいる。

町民アンケート調査では、通勤、通学、通院、遊び・趣味・習い事等で、町外への移動の割合が高く、公共交通機関が運行した場合の行き先として、第 1 位：新松田駅（1,002 件）、第 5 位：開成駅（313 件）と町外への鉄道ニーズが高くなっている。また、路線バス利用者で、他の交通機関との乗り継ぎに対する不満度が 35.5%と高くなっている《図 9、10 参照》。

令和元年度公共交通利用者アンケート調査では、路線バス利用者の最終目的地は町外（小田原市、松田町等）が約 9 割と多く、町外への移動やニーズが高いことが分かった。

以上のことから、現在運行中の公共交通機関全体の満足度を高めるため、公共交通同士の接続を強化するとともに、まちづくりの進捗に合わせた新たな移動に対応しつつ、町外への広域アクセスの改善が必要である。

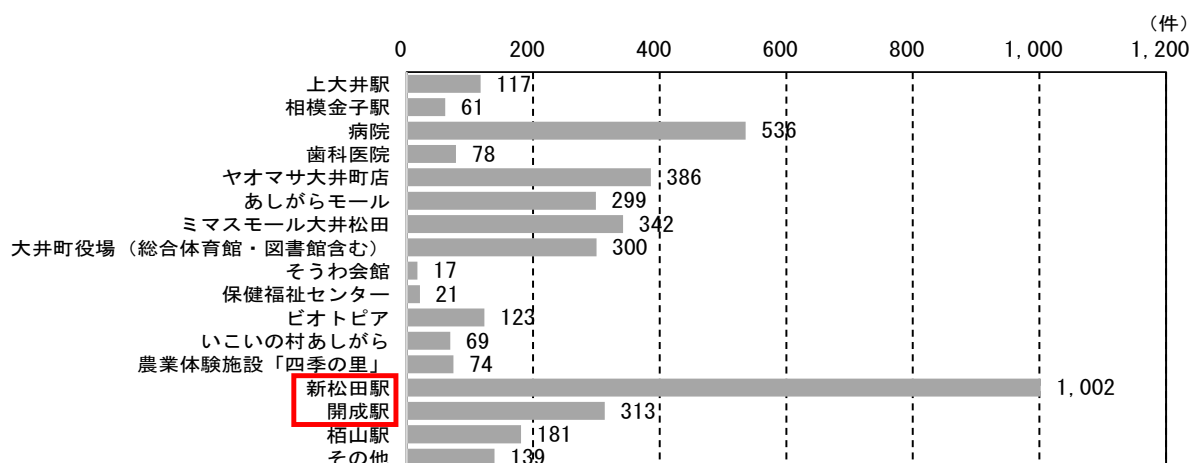


図 9：公共交通機関が運行した場合に行きたい場所

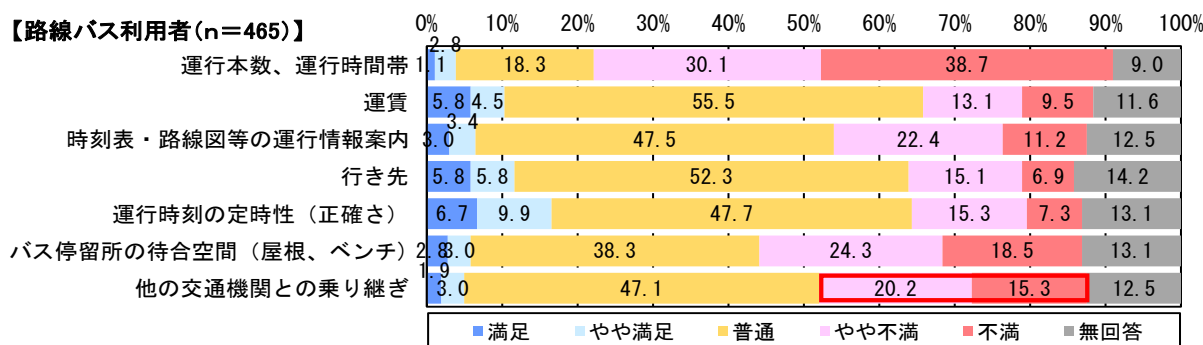


図 10：路線バスの運行サービスに対する満足度

④過度な車利用の抑制と地域の輸送資源の維持

平成 30 年東京都市圏パーソントリップ調査によると、代表交通手段分担率は、周辺 5 町と比較して、鉄道・バスは 10.7%と低く、自動車は 65%と高く、自動車依存度が高くなっている《図 11 参照》。

地区別ヒアリングでは、「将来の移動に対する不安を抱えながら、現在は車や自転車で移動している」、「今運転に対し不安だけど、仕方なく車で移動している」といった意見が寄せられている。

一方で、交通事業者アンケート調査では、路線バス、タクシー事業者でコロナ禍による業績悪化や乗務員不足（タクシー）が指摘されている。

以上のことから、過度な車利用の抑制を図りつつ、町内で運行中の多様な輸送資源や目的地となる施設（店舗、病院、観光施設等）との連携といった地域資源の総動員により、持続性の確保が必要である。

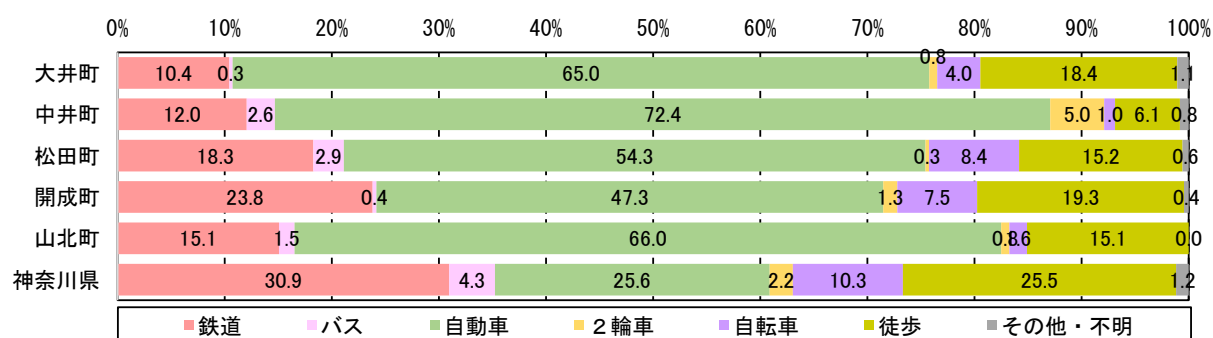


図 11：平成 30 年代表交通手段分担率（出典：東京都市圏パーソントリップ調査）

3 地域公共交通の構築に係る基本方針

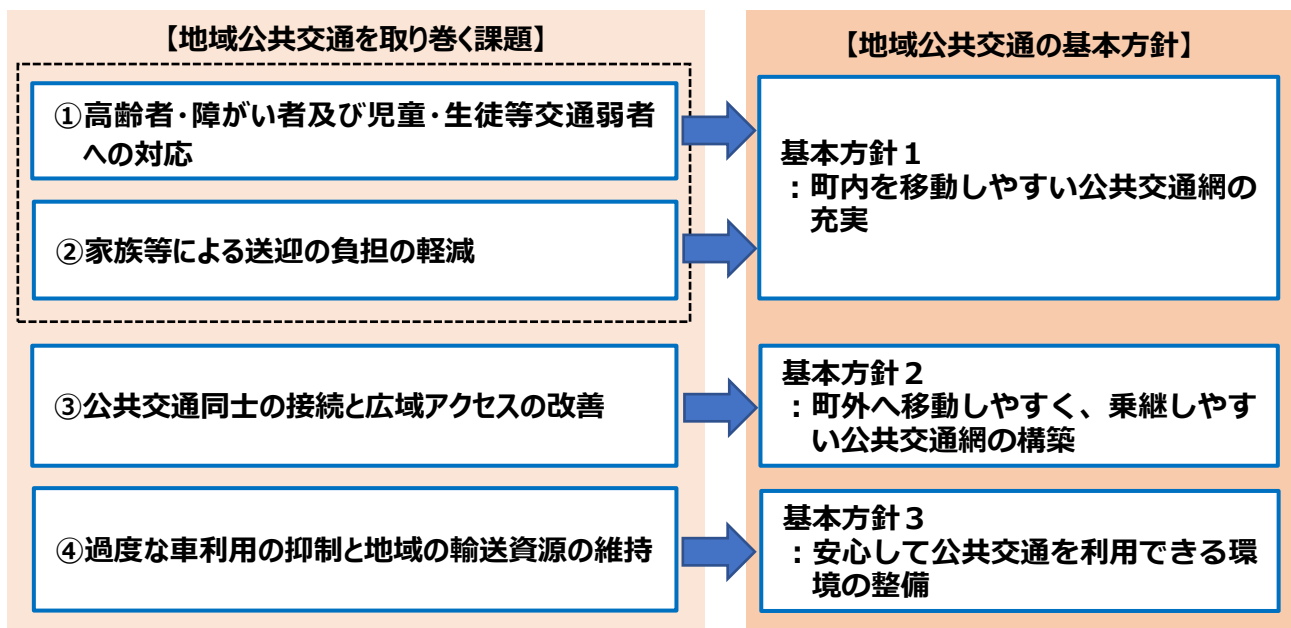
(1) 地域公共交通の構築に係る基本方針

上位計画である「大井町第6次総合計画」では、「みんなでつなぐ大井の未来」をまちづくりの目標として掲げている。

「大井町地域公共交通計画」は、上位計画がめざすまちづくりの目標の実現及び地域公共交通を取り巻く課題を解決するため、次の3つの基本方針を設定する。

【大井町における地域公共交通の基本理念】

**未来へつなごう！
みんなが気軽に利用できるまち**



基本方針①：町内を移動しやすい公共交通網の充実

- 新たな公共交通システムを導入し、既存の路線バスやタクシーとの役割分担を明確化することで、町の輸送資源の総動員を図る。
- 既存公共交通を補完するよう、社会福祉協議会で実施中の移送サービスとの連携や、地域の助け合いによる互助輸送サービスの仕組みづくりの支援体制の構築により、町内を移動しやすい公共交通網を充実する。

基本方針②：町外へ移動しやすく、乗継しやすい公共交通網の構築

- 町外へ移動可能な JR 御殿場線や高速バス、路線バスの利便性向上を図る。
- 新たな住宅開発事業や都市計画道路・金子開成和田河原線の整備といったまちづくりの進捗に合わせて、周辺自治体と連携・協力により、町外へ移動しやすい公共交通網を構築する。
- 乗継ぎに対する負担が最小限となるよう、交通結節点での乗継環境（待合環境、ダイヤ、料金、乗継案内等）の整備により、各公共交通機関同士の接続強化を図る。

基本方針③：安心して公共交通を利用できる環境の整備

- 公共交通利用に対する情報発信を行い、町民意識の醸成や、分かりにくさによる不安の解消により、利用促進を図る。
- 目的地となる施設（店舗、病院、観光施設等）との連携により、持続性を確保する。

（２）公共交通網のあり方

１）公共交通の基本的な考え方

本町の公共交通ネットワークの方向性は、既存の公共交通網を有効に活用し、次の観点から利便性向上と効率的な運行をめざした公共交通網を構築する。

- ①既存公共交通機関や補完公共交通及び新たな公共交通システムとの役割分担の明確化
- ②地域の輸送資源の組合せによる輸送効率の向上の実現
- ③交通結節点の機能強化による公共交通機関同士の相互連携の実現
- ④目的地となる施設等との連携による公共交通の実現

2) 各公共交通機関のあり方

本町の地形は丘陵部地域と平坦部地域に二分しており、目的地・外出パターンに合った直行性を追求した公共交通網では、路線長が長大となるため、利便性や効率性などの低下が懸念される。

そのため、各公共交通機関が提供するサービスの特徴を最大限に発揮し、適切な役割分担のもと緊密に連携しながら、利便性向上と効率的な運行をめざした公共交通網を構築する。

表 各公共交通機関の機能分担

分類		交通機関	位置付け・役割
幹線	広域公共交通	鉄道、高速バス	・都市間を連絡し、広域的な移動を担う交通
	地域間公共交通	路線バス	・小田原市や松田町など周辺都市の各地や、町内各地を結ぶ移動を担う交通
支線	地域内公共交通	新たな公共交通システム (現行：巡回福祉バス)	・主に地域内（一部新松田駅）の移動と交通不便地域の解消を担う交通
面的公共交通		タクシー	・ドア・ツー・ドアの少量個別輸送を担う移動手段で、個別のニーズに機動的や柔軟に対応可能な交通
補完公共交通（特定の利用者等の移動を担う交通）		移送サービス（社会福祉協議会）、互助輸送サービス、民間企業送迎バス	・病院や買物、自動車学校等特定の利用者等の移動を担う交通

3) 交通結節点のあり方

効率的で効果的な地域公共交通網を構築する上で、交通結節点は、幹線、支線、補完公共交通の接続性を高める重要な役割を担うため、情報提供、乗継ぎ負担の軽減などを考慮する必要がある。

交通結節点(町内)は、幹線と支線の乗継ぎが可能な場所で、「県西部都市圏交通マスタープラン」の公共交通ネットワーク概念図で「地域拠点」に、「おおい都市マスタープラン」の将来都市構造で「生活交流拠点」に位置付けられている「大井町役場周辺」とする。

また、広域交通結節点(町外)として、路線バスの起終点で、町民の移動やニーズが高い「新松田駅」とする。

- ①新たな公共交通システムの導入による丘陵部地域と平坦部地域、新松田駅とのアクセス強化
- ②交通結節点（大井町役場周辺、新松田駅）での機能強化
- ③周辺自治体との連携・協力による広域アクセス（新松田駅、小田原駅・国府津駅）の強化
- ④既存公共交通を補完する移送サービス、互助輸送サービスによる移動手段の確保

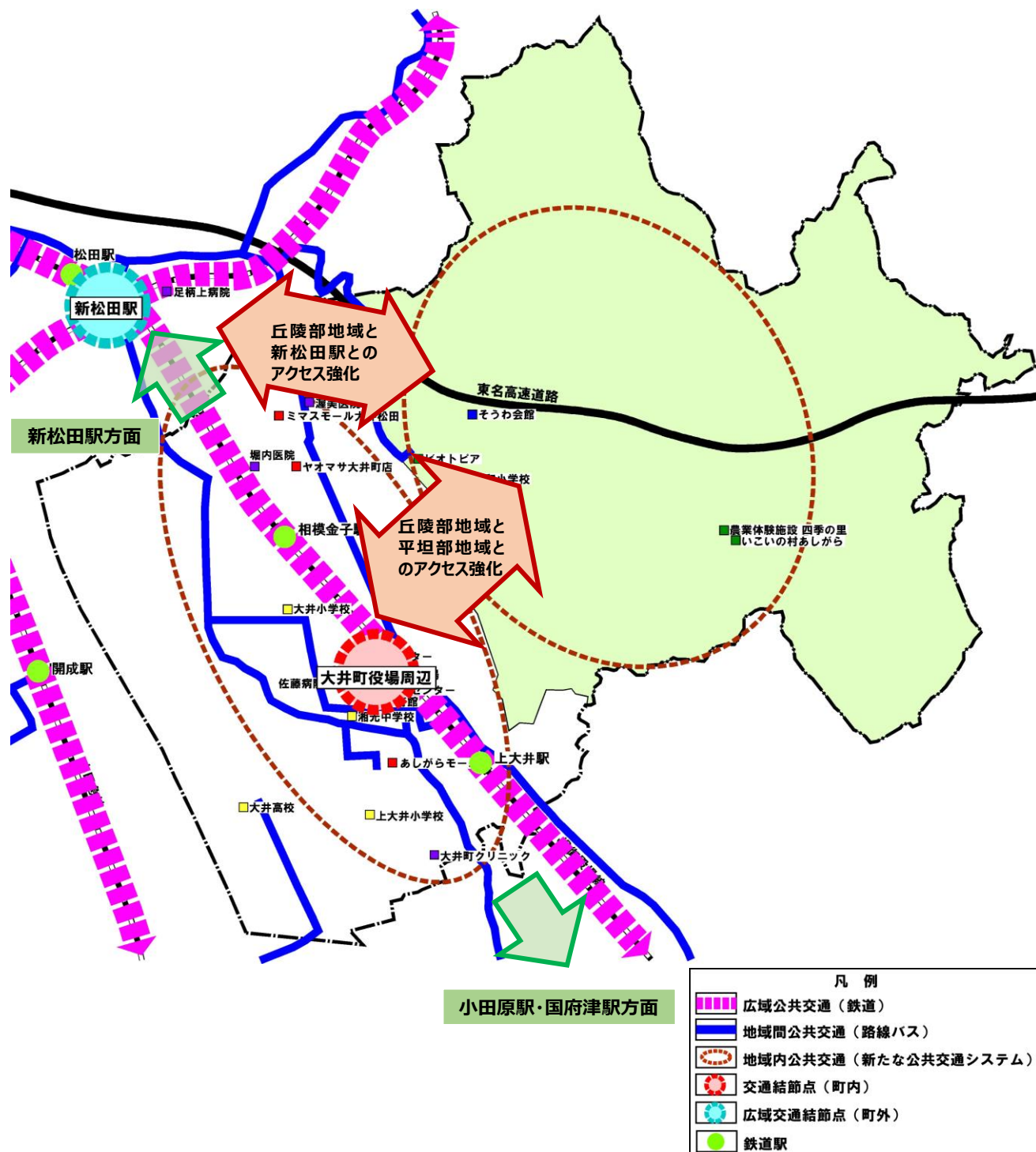


図 公共交通骨格形成イメージ図

4 計画の目標及び実施事業

資料 5 にて作成中

参考資料編

6 地域内公共交通に関する現況調査

6-1 大井町の現況把握

(1) 地形的特性

本町は、神奈川県西部、足柄上郡の東部に位置し、東西 5.62km、南北 5.18km、総面積 14.38 km²を有している。

南は小田原市、西は酒匂川を境として開成町に、北は松田町と泰野市に、東は中井町にそれぞれ接しており、横浜市から約 50km、東京都心からは約 70km の距離にある。

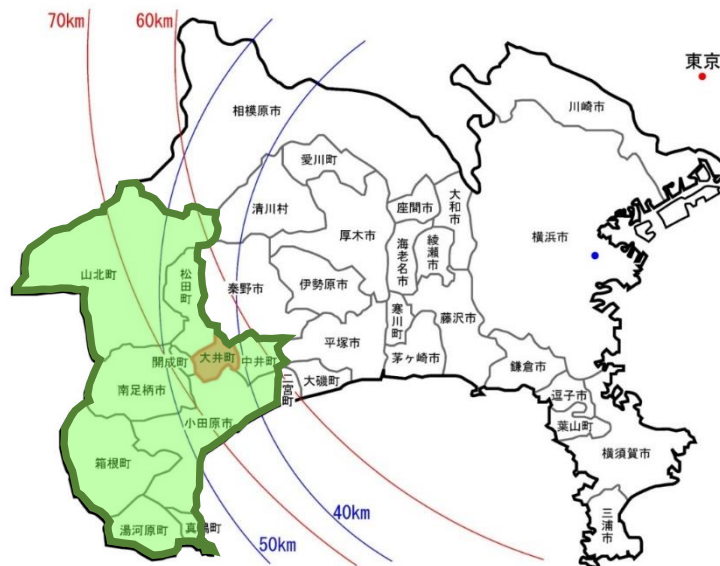


図 大井町の位置

(2) 人口動向

① 総人口・世帯数

本町の人口は、令和元年 10 月 1 日現在、17,060 人で、これまで人口は順調に伸び続けてきたが、平成 22 年以降は減少傾向に転じている。

世帯数は増加傾向にあり、令和元年の平均世帯人員は 2.62 人/世帯と、平成 12 年（3.03 人/世帯）に比べ減少し、核家族化が進行している。

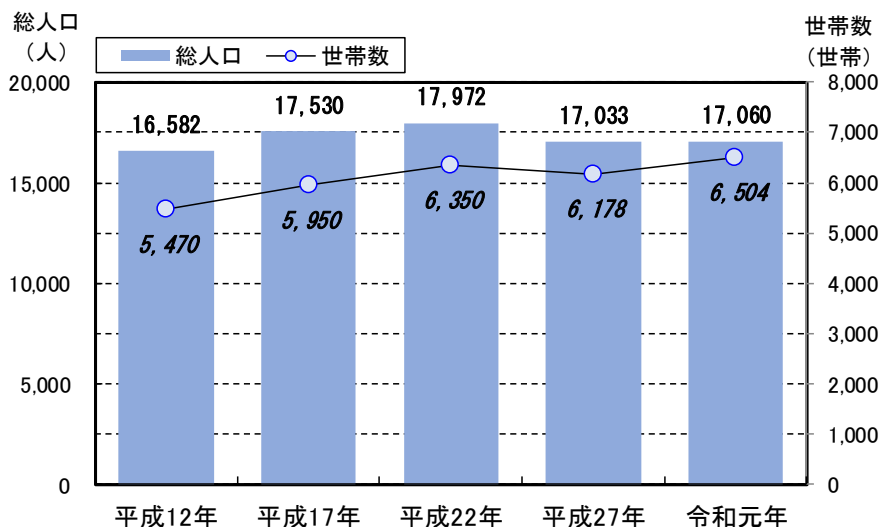


図 総人口・世帯数の推移

出典：平成 12 年～平成 27 年は国勢調査、令和元年は住民基本台帳（10 月 1 日現在）

②年齢3区分別人口

平成2年1月1日現在、年齢3区分別人口構成比は年少人口が12.1%、生産年齢人口が59.4%、老年人口が28.3%となっている。

高齢化率は平成12年が13.3%に対し、令和2年が28.3%と上昇しており、急速に高齢化が進んでいる。本町の高齢者数は平成22年が3,550人に対し、令和2年が4,841人とこれまで増加していたものの、令和7年の目標人口は「大井町人口ビジョン（令和2年11月改訂）」によると、4,828人と横ばい状態が予測されている。高齢化率は平成22年が19.9%に対し、令和2年が28.3%と増加し、令和7年には28.5%と微増することが予測されており、伸び率は鈍化するものの、今後も高い水準を維持していくことが見込まれる。

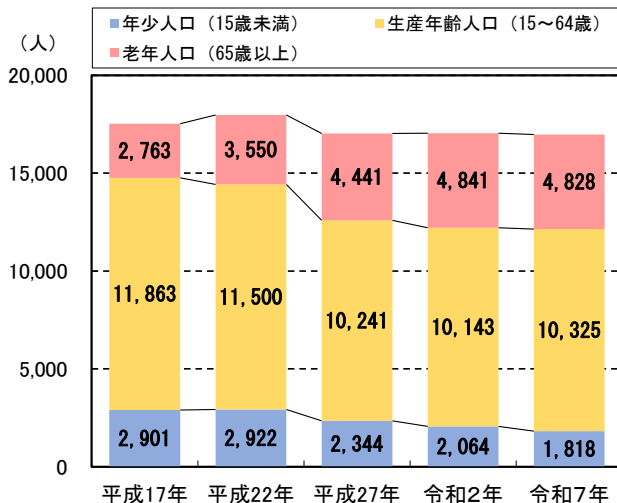


図 年齢3区分別人口の推移

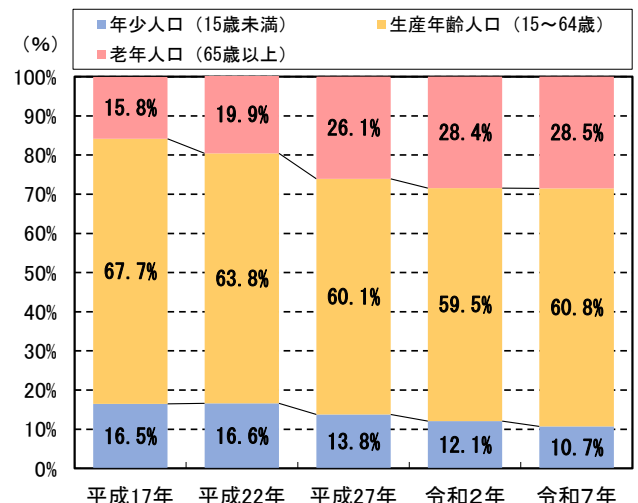


図 年齢3区分別構成比の推移

平成12年～平成27年は国勢調査、令和2年は住民基本台帳（1月1日現在）、令和7年は「大井町人口ビジョン（令和2年11月改訂）」

③地区別人口・世帯数

直近5年間の町全体の人口・世帯数の推移は、人口は横ばい、世帯数は増加している。

地区別に見ると、曾我地区で人口・世帯数が増加し、相和地区、金田地区で人口が減少し、世帯数が維持・微増している字が多い。

表 地区別町丁別人口及び世帯数の推移

		人口						世帯数					
		H27	H28	H29	H30	R元	伸び率 (R元/H27)	H27	H28	H29	H30	R元	伸び率 (R元/H27)
相和地区	篠窪	185	182	178	168	165	0.89	66	66	65	64	64	0.97
	柳	113	114	109	103	103	0.91	35	38	36	36	36	1.03
	高尾	70	70	71	69	64	0.91	20	21	22	21	20	1.00
	赤田	235	230	226	223	218	0.93	69	69	67	67	67	0.97
	山田	818	815	810	799	778	0.95	250	252	259	258	253	1.01
	小計	1,421	1,411	1,394	1,362	1,328	0.93	440	446	449	446	440	1.00
金田地区	金子	9,401	9,370	9,267	9,268	9,342	0.99	3,481	3,515	3,512	3,550	3,611	1.04
	金手	1,908	1,848	1,847	1,870	1,846	0.97	735	723	732	755	739	1.01
	小計	11,309	11,218	11,114	11,138	11,188	0.99	4,216	4,238	4,244	4,305	4,350	1.03
曾我地区	西大井	1,409	1,445	1,510	1,581	1,657	1.18	441	465	498	542	582	1.32
	上大井	2,894	2,866	2,872	2,892	2,887	1.00	1,081	1,082	1,088	1,112	1,132	1.05
	小計	4,303	4,311	4,382	4,473	4,544	1.06	1,522	1,547	1,586	1,654	1,714	1.13
町全体		17,033	16,940	16,890	16,973	17,060	1.00	6,178	6,231	6,279	6,405	6,504	1.05

出典：大井町統計要覧（企画財政課）、各年10月1日現在

(3) 主要施設分布状況

主要施設については、平坦部地域に多く立地しており、大井町役場周辺に公共施設が集積し、国道 255 号沿線に大規模店舗が立地している。丘陵部地域には、「未病」をテーマとした県西部地域の未病改善の拠点である「ビオトピア」や、そうわ会館、自然環境を活かした農業体験施設 四季の里、いこいの村あしがらといった施設が立地している。

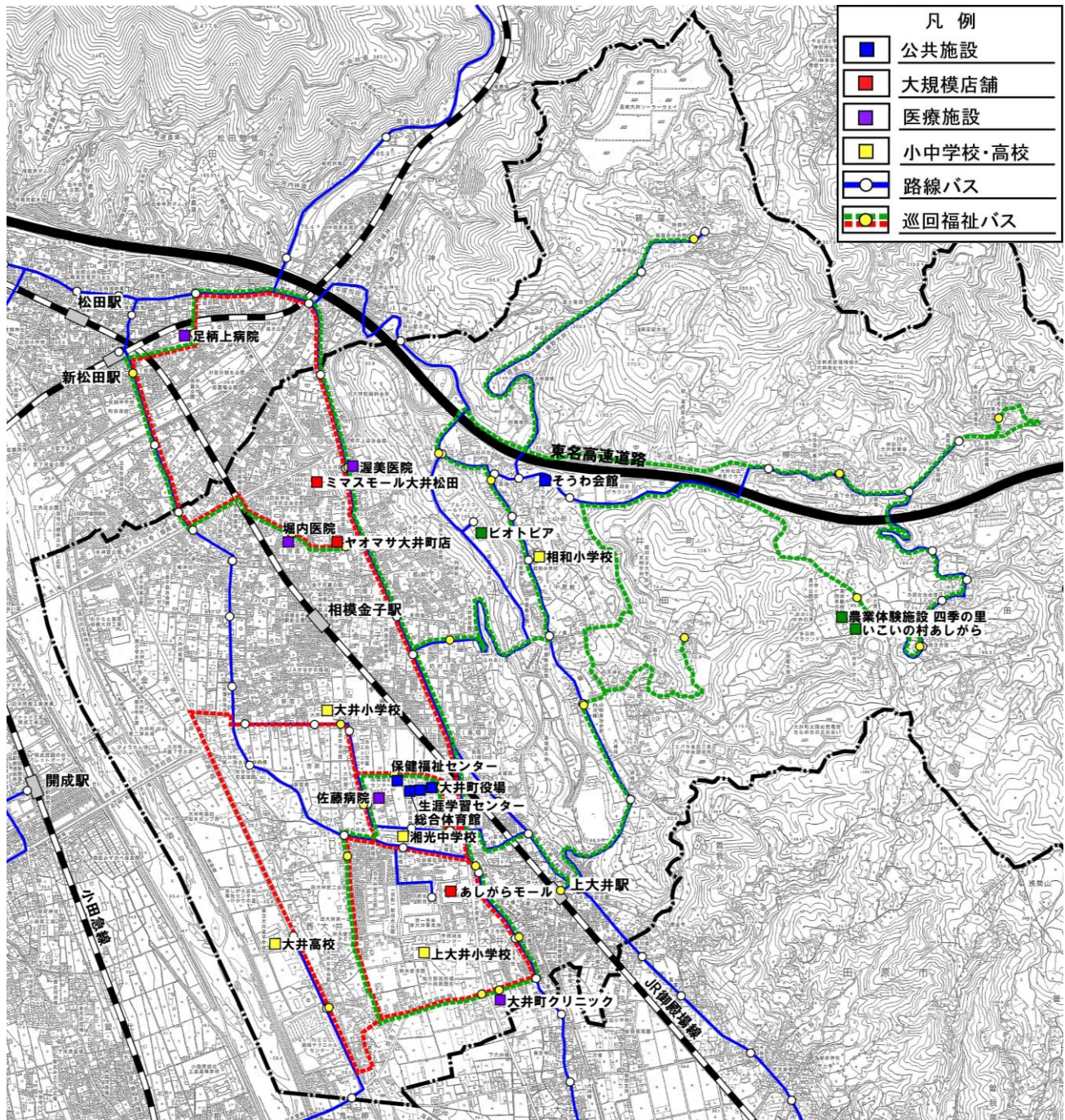


図 主要施設分布図

(4) 主な都市基盤整備の進捗状況

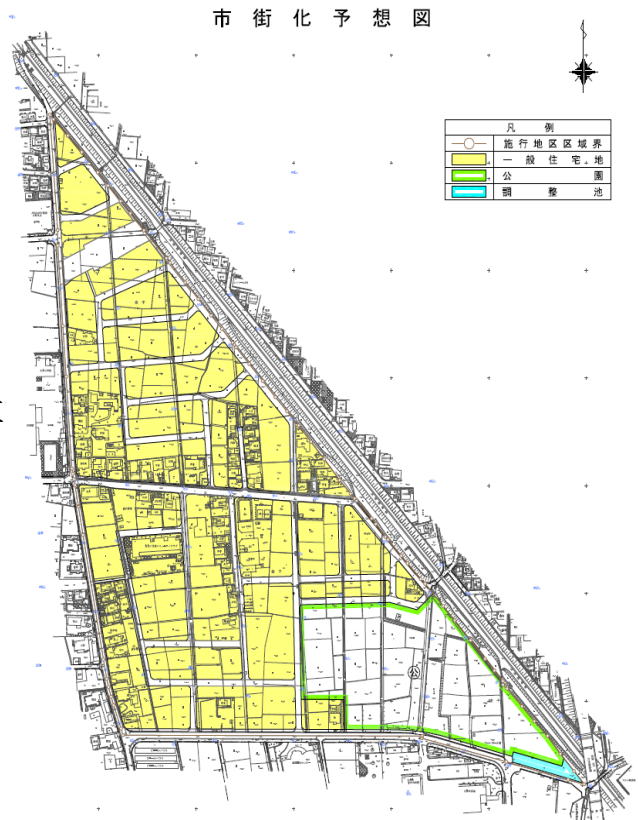
1) 大井中央土地区画整理事業

良好な住宅市街地の整備を推進するため、大井町役場北側の約 13.5ha を事業区域とする「大井中央土地区画整理事業」を実施中である。

本事業で住宅地(将来計画人口:約 1,000 人)の他、地区の南東部に公園が整備される。

○事業施行期間:平成 27 年度～令和 3 年度

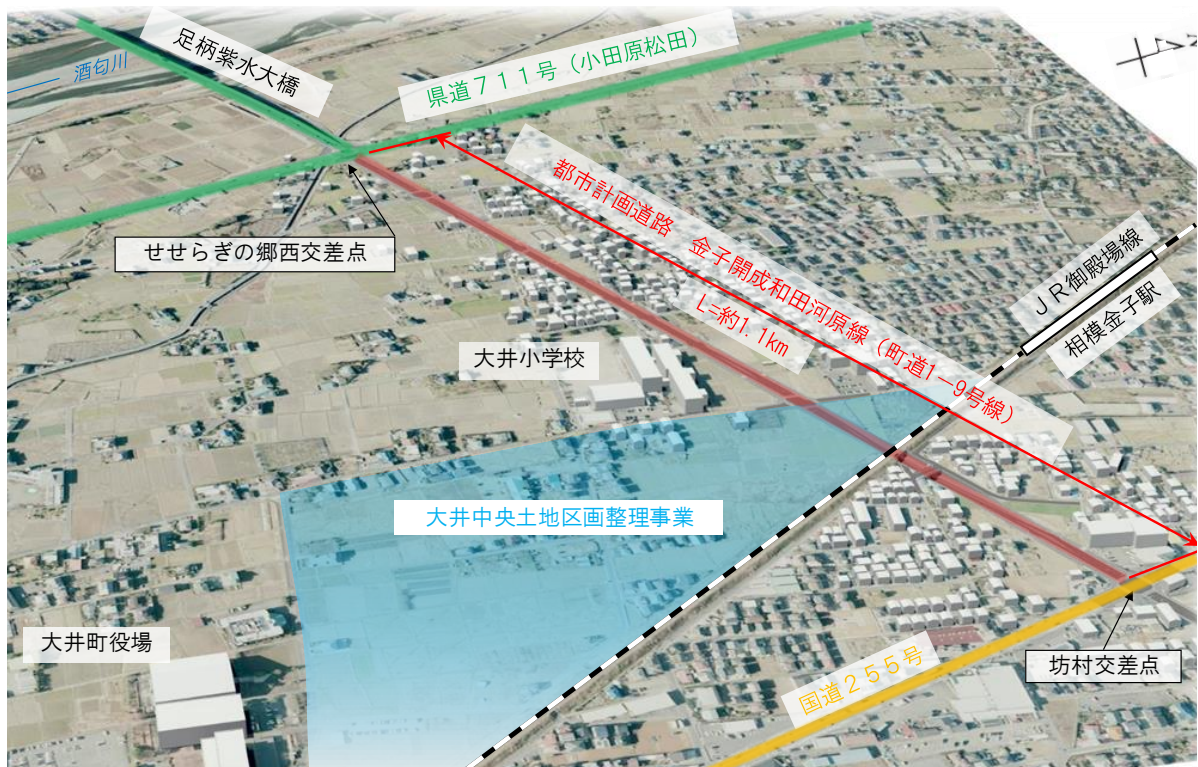
○施行面積:13.5ha(都市計画道路 0.3ha、区槽含む 2.5ha、宅地 8.3ha)



2) 都市計画道路・金子開成和田河原線

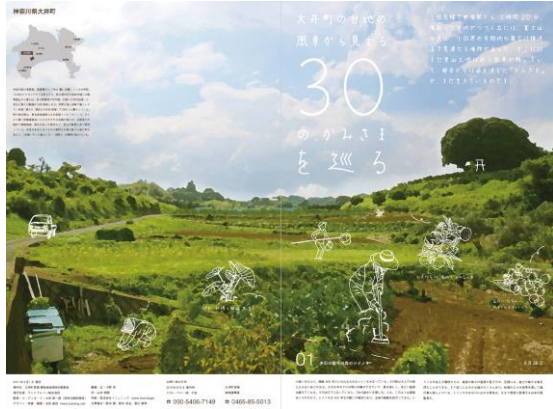
本町と開成町及び南足柄市との連携強化、町の新たな顔となる中心市街地の形成促進及び東名高速道路大井松田 I C へのアクセス向上に資するよう、金子開成和田河原線(大井町金子字高堤堰下～金手字大河原、延長:約 1,500m、車線数:2 車線、代表幅員:20m)が事業中である。

令和 2 年度以降から工事着手予定である。(施行期間: H30. 4. 16～H40. 3. 31)



3) 相和地域活性化事業

相和地域では、平成 31 年 3 月に（一社）神奈川大井の里体験観光協会を設立するなど、体験民泊を含め交流体験や農村体験プログラムなどの受入れ環境の構築や相和地域観光情報誌の発行（町民全戸配布、公共施設留置き等）など、多くの観光客を来訪するよう、今後もおおいゆめの里及び周辺の観光拠点化や交流体験事業を行う予定となっている。



▲相和地域紹介冊子「大井町の台地の風景から見える 30 のかみさまを巡る」

(5) 交通手段特性

1) 通勤・通学流動

平成 27 年国勢調査によると、大井町に常住する就業者は 8,314 人、通学者は 997 人となっており、そのうち、就業者の 31.4%、通学者の 17.4%は町内で通勤・通学しており、市外は小田原市や秦野市、開成町等へ通勤・通学している。

一方、本町内で就業する人は 6,365 人、通学する人は 503 人となっており、小田原市や秦野市等からの通勤・通学となっている。

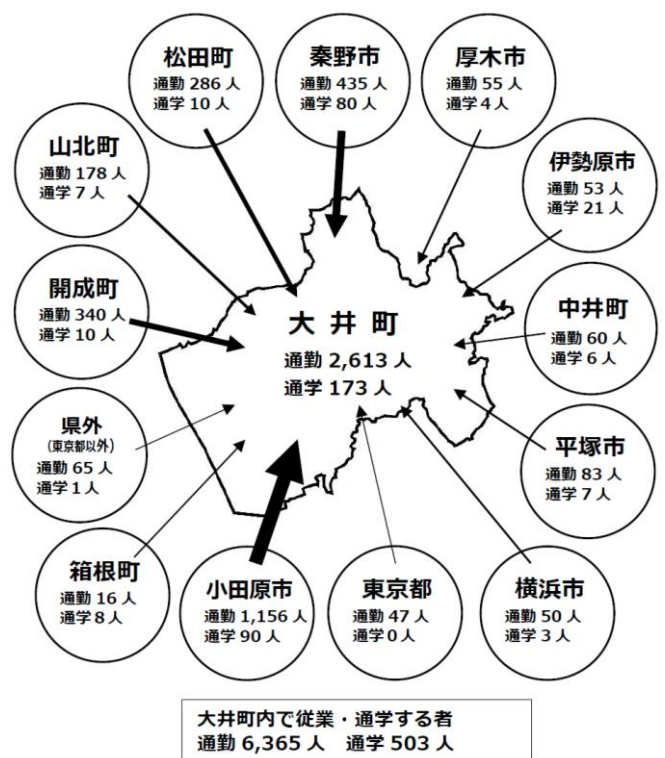
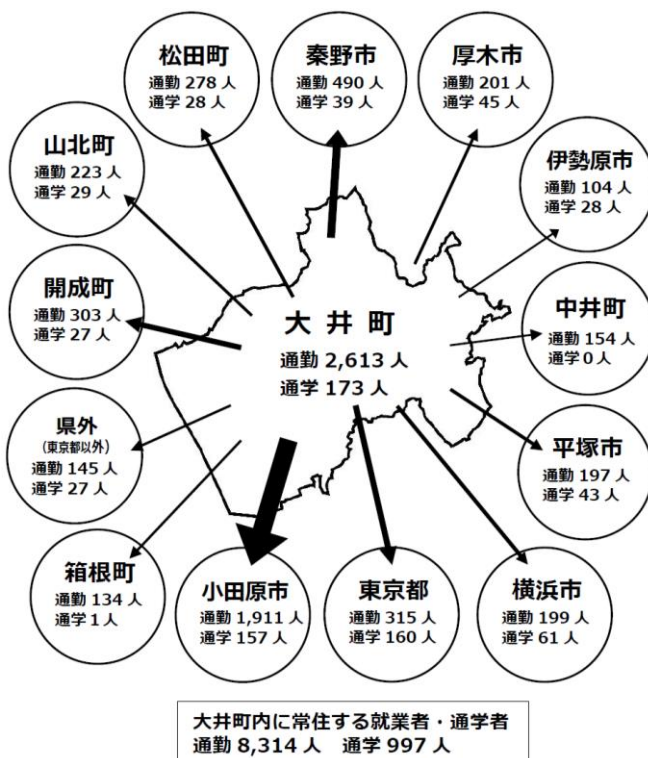


図 大井町から従業地別の通勤通学者の人数

図 大井町への常住地別の通勤通学者の人数

※「通勤」は 15 歳以上通勤者、「通学」は 15 歳以上通学者の人数を指している。 出典：平成 27 年国勢調査

2) 東京都市圏パーソントリップ調査による交通手段特性

①代表交通手段

本町の代表交通手段分担率（平成 30 年）は、自動車分担率が 65.0%で最も多く、足柄上郡内の町と比較して、鉄道（10.4%）、バス（0.3%）といった公共交通の割合が低い。

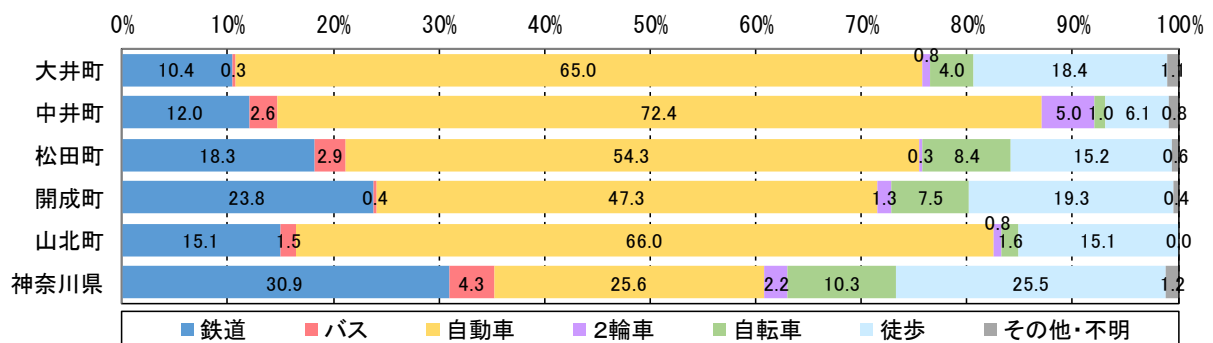


図 平成 30 年・代表交通手段別分担率（全目的、発生集中交通量）

②駅端末交通手段

上大井駅と相模金子駅の端末交通手段分担率は、自転車、徒歩のみとなっている。

大井町周辺の鉄道駅の端末交通手段分担率は、松田駅が路線バス・コミュニティバスと自転車、新松田駅が徒歩と乗用車、開成駅と栢山駅が徒歩の割合が多い。

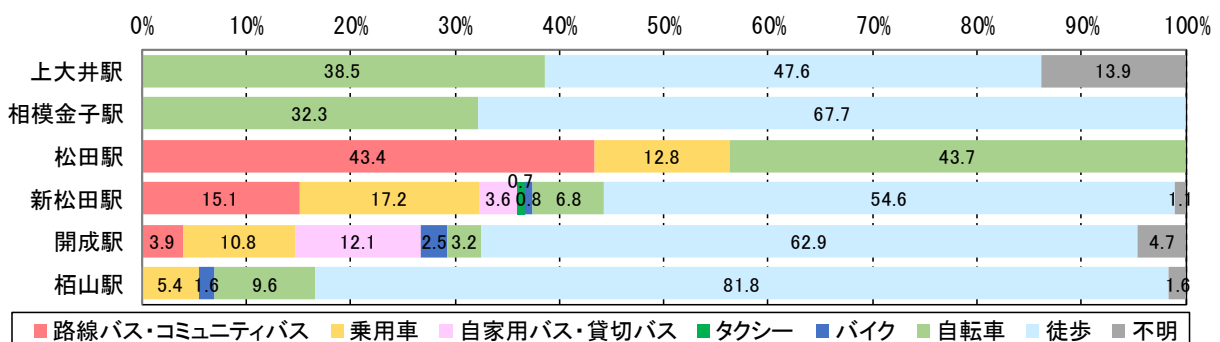
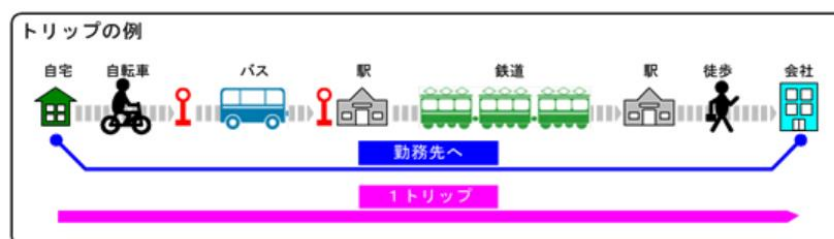


図 平成 30 年・端末交通手段分担率

※トリップ：人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップといい、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数える。

※代表交通手段と端末交通手段：1つのトリップの中で、幾つかの交通手段を乗り換えた場合、そのトリップの中の主な交通手段を代表交通手段、出発地・目的地と代表交通手段をつなぐ交通手段を端末交通手段という。主な交通手段の集計上の優先順位は、鉄道→バス→自動車→2輪車、徒歩の順としている。下図の場合、鉄道が代表交通手段で、自宅から〇〇駅までは端末交通手段（バス）、△△駅から××バス停までは端末交通手段（徒歩）となる。



6-2 上位・関連計画の整理

(1) 県西部都市圏交通マスタープラン 都市・地域総合交通戦略（平成26年10月）

【目標年次】 交通マスタープラン：令和12年、都市・地域総合交通戦略：令和7年

【将来都市像】 拠点内・拠点間の連携を支え、過度に自動車に依存しない交通体系の実現

【交通体系整備の方針】

○交流・活力を促進する交通の実現

：広域交流・地域内連携促進の基盤づくり、観光を支援する交通環境づくり

○安全・安心な交通の実現

：誰もが動きやすい交通環境づくり、安全・安心な交通環境づくり

○環境にやさしい交通の実現：環境保全を支援する交通環境づくり

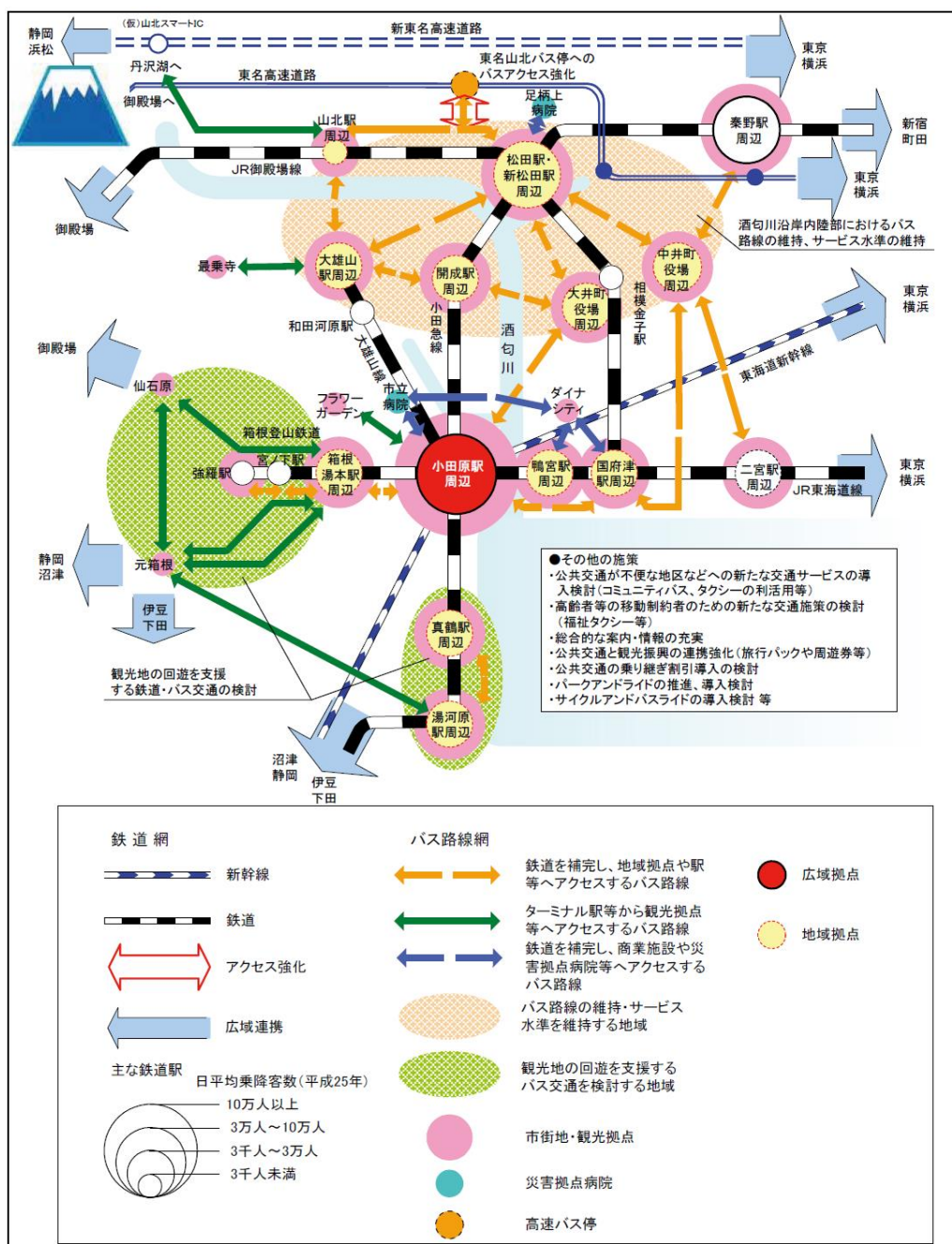


図 公共交通ネットワーク概念図

(2) 大井町第6次総合計画（令和3年3月）

【まちづくりの目標】 『みんなでつなぐ 大井の未来』

【目標人口】 令和7年度：約17,000人 令和12年度：約16,900人

【まちづくりの方針】

- ①地域がつながり地域で育むまち
- ②みんな笑顔になれるまち
- ③みんなで取り組む安全・安心のまち
- ④将来を見据えた社会基盤と環境のバランスがとれたまち
- ⑤地域の特性を活かした産業による交流が活発なまち
- ⑥計画を実現できるまち

【施策別計画（地域公共交通に関する部分）】

《施策の方向性》

町民が生活交通として、便利かつ快適に公共交通機関を利用できるよう、「大井町地域公共交通会議」を中心に地域の関係者と協議し町の実情に即した持続可能な公共交通ネットワークの形成に努める。また、誰もが利用しやすい環境を整え、公共交通の利用促進を図る。

○持続可能な公共交通ネットワークの形成

公共交通全般について、現状の把握及び課題の抽出を行い、公共交通施策のマスタープランとなる地域公共交通計画を策定し、定期的な点検・評価を実施することにより、事業を効果的・効率的に進め、持続可能な公共交通ネットワークの形成に努める。

また、計画を策定するにあたり、まちづくりと一体となった計画とし、広域的な視点も含めて基本方針や目標を定め、その実現に必要な事業・実施主体を整理し、実施していく。

○公共交通の利便性向上と利用促進

公共交通の利便性向上に向けた施策を進め、自家用車から公共交通への利用転換を促進するとともに、ＪＲ御殿場線における交通系ＩＣカードの跨り問題への要望活動などを沿線自治体と協力し、継続して行う。

また、ＪＲ御殿場線上大井駅及び相模金子駅前駐輪場の適正管理と利用者のマナー向上を図るとともに、駅やバス停周辺の環境整備を推進する。

《施策の目標》

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和7年度）
町運行バス（福祉バス含む）の利用者数	4,581人	4,600人
大井町を走る路線バス運行数の維持	132本	132本
駅前駐輪場の適正管理（放置車両の整理）	1回	1回

(3) 大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年2月改訂）

【対象期間】 平成27年度～令和2年度

【基本目標】

- 安定した雇用環境を創出する
- 新しい人の流れをつくる
- 結婚・妊娠・出産・子育て支援と地域で子どもを育む環境を整備する
- 夢おい未来をめざし活力にみちたまちをつくる

《数値目標》 指標：大井町が住みよいと感じる割合

…現状値 57.3%（平成26年）→目標値 64.7%（令和元年）

《基本的方向》

- 協働のまちづくりに取り組む
- 恵まれた自然環境や歴史・文化を継承し、将来にわたって安全・安心で住み心地のよいまちづくりに取り組む

【具体的な施策（公共交通の利便性の向上）】

《重要業績評価指標（KPI）》 主な通勤・通学手段が電車・バスの割合

…現状値 20.7%（平成26年）→目標値 22.5%（令和2年）

- 鉄道の利便性向上に資する要望活動の継続
- 新たな市街地開発、企業の動向等を踏まえ、相和地域を中心とした路線バスをはじめとする公共交通のあり方についての検討
- JR御殿場線相模金子駅周辺の歩行者通路整備の推進

(4) おおい都市マスタープラン（平成28年3月）

【将来都市像】

：町民とともに活力を創造し、ひかり輝くまち おおい

【基本目標】

- 誰もが暮らしやすい、人にやさしいまちづくり
- 防災・防犯体制を整備し、安全で安心して生活できるまちづくり
- 地域の特性を活かした、活力にあふれ交流を生み出すまちづくり
- 豊かな自然環境や田園景観と調和した、環境と共生するまちづくり
- 多様な主体が連携・協働した、町民の自治によるまちづくり

【将来人口】

：16,400人（令和17年）

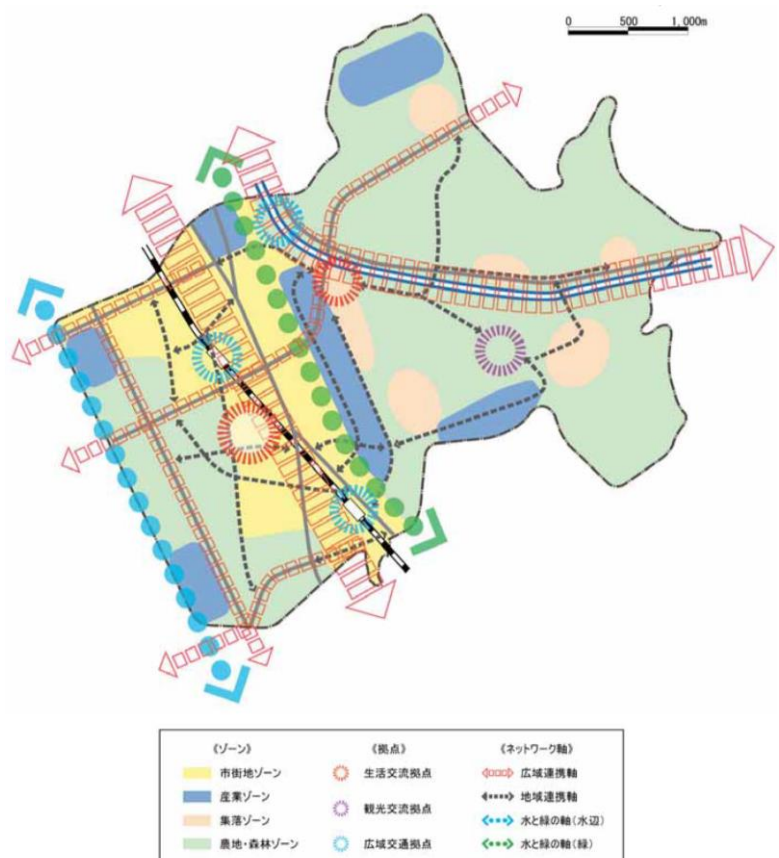


図 将来都市構造図



【都市施設等の整備方針（公共交通の利便性の向上）】

J R 御殿場線上大井駅及び相模金子駅は、町の玄関口である広域的な交通拠点として、交通結節機能の強化と利便性の向上に努める。また、県西地域内の交通拠点へのアクセス性の向上について、周辺市町と連携して取り組む。

併せて、公共交通機関である J R 御殿場線や路線バスの輸送力並びに連絡性の向上を周辺市町と連携して働きかける。特に、J R 御殿場線の I C カードの導入について、沿線市町とともに強く要望し、利便性の向上に努める。

また、鉄道との連絡性を確保したコミュニティバスの運行により、日常生活を支えるとともに、地域間の交流促進を図る。

【健康・福祉のまちづくりの方針（公共交通の利便性の向上）】

利便性の高い公共交通の実現に向けて、交通事業者と連携しながら、運行サービスの向上に向けた取組みを進める。また、鉄道駅やバス停等の交通拠点とその周辺の環境整備により、公共交通の利用促進に努める。

交通手段のない高齢者などの移動・外出の支援を行うため、役場や公共施設、医療機関等を巡回するバスを運行するとともに、コミュニティバスへの移行を検討する。



【平坦部地域】

J R 御殿場線上大井駅及び相模金子駅は、町の玄関口である広域的な交通拠点として、交通結節機能の強化と利便性の向上に努めるとともに、利用者数や利用形態の変化に応じて、駅前広場等の整備を検討する。

併せて、県西地域の広域的な交流促進を図るため、周辺市町と連携して鉄道及びバス事業者と輸送力向上並びに連絡性向上を要望する。

鉄道との連絡性を確保したコミュニティバスの運行により、交通利便性の向上と地域間の交流促進を図る。



【丘陵部地域】

路線バスの運行本数が少ないため、町民の需要に応じた運行計画の実施についてバス事業者と協議を進める。

また、鉄道との連絡性を確保したコミュニティバスの運行により、公共交通を補完することで、高齢者等の交通利便性を確保するとともに、集落間や平坦部地域との交流促進を図る。

6-3 地域公共交通の現状分析

(1) 鉄道

本町内の鉄道は、ＪＲ御殿場線の上大井駅及び相模金子駅があり、平成 30 年度の年間乗車人員は上大井駅が 178,832 人/年、相模金子駅が 168,329 人/年で、両駅とも年々増加傾向となっており、直近 5 年間の伸び率は 1.07 倍と増加している。

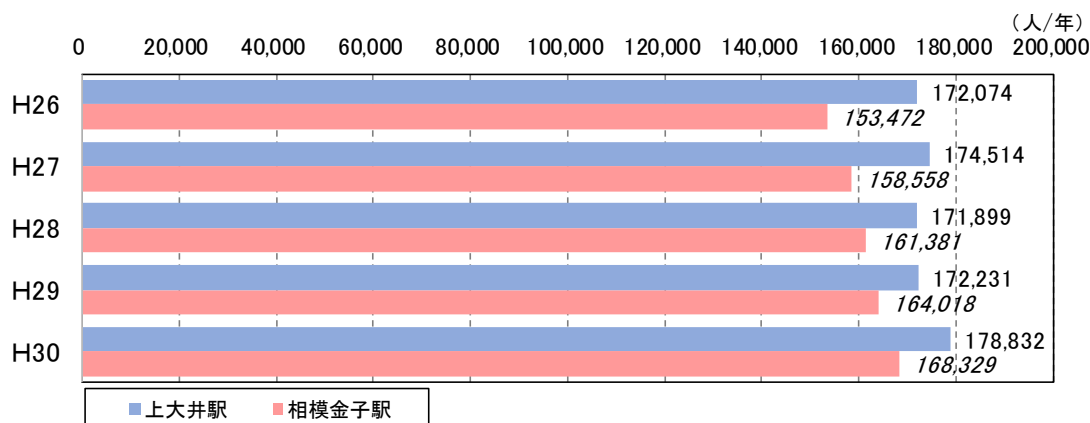


図 上大井駅及び相模金子駅の年間乗車人員の推移

出典：大井町令和元年度統計要覧

(2) 路線バス

1) 運行便数

路線バスは、富士急湘南バス(株)により、新松田駅や国府津駅・小田原駅・ダイナシティ等を起終点に 19 系統が運行している。

運行便数は新松田駅～第一生命新大井事業所、新松田駅～金手～小田原駅間で、平日で一定の便数が確保されているものの、土日祝は運行していない系統が多い。

なお、篠窪地区の小・中学生の通学の移動手段を確保するため、路線バスへ補助（平成 31 年度：1,614 千円）し、運行を維持している。

また、児童生徒援助事業費として、相和地区から通学する中学生にバス通学費（片道運賃×1/2×通学日数）を補助している。

表 相和地区路線バス確保対策事業の利用実績

	起点	経由	終点	往復	運行回数	年間乗車人員			1 便平均乗車人員		
						H29	H30	H31	H29	H30	H31
①	新松田駅	湘光中グランド前	いこいの村	往路	2	1,946	1,758	1,187	4.2	3.8	2.6
②	新松田駅	湘光中グランド前	いこいの村	復路	1	4,868	4,890	3,199	20.0	20.0	13.3
③	いこいの村	篠窪	湘光中グランド前	往路	1	544	884	488	2.9	4.6	2.8
④	東庭	篠窪	いこいの村	往路	1	274	192	36	1.5	1.1	0.2
合計						7,632	7,724	4,910	7.2	7.2	4.8

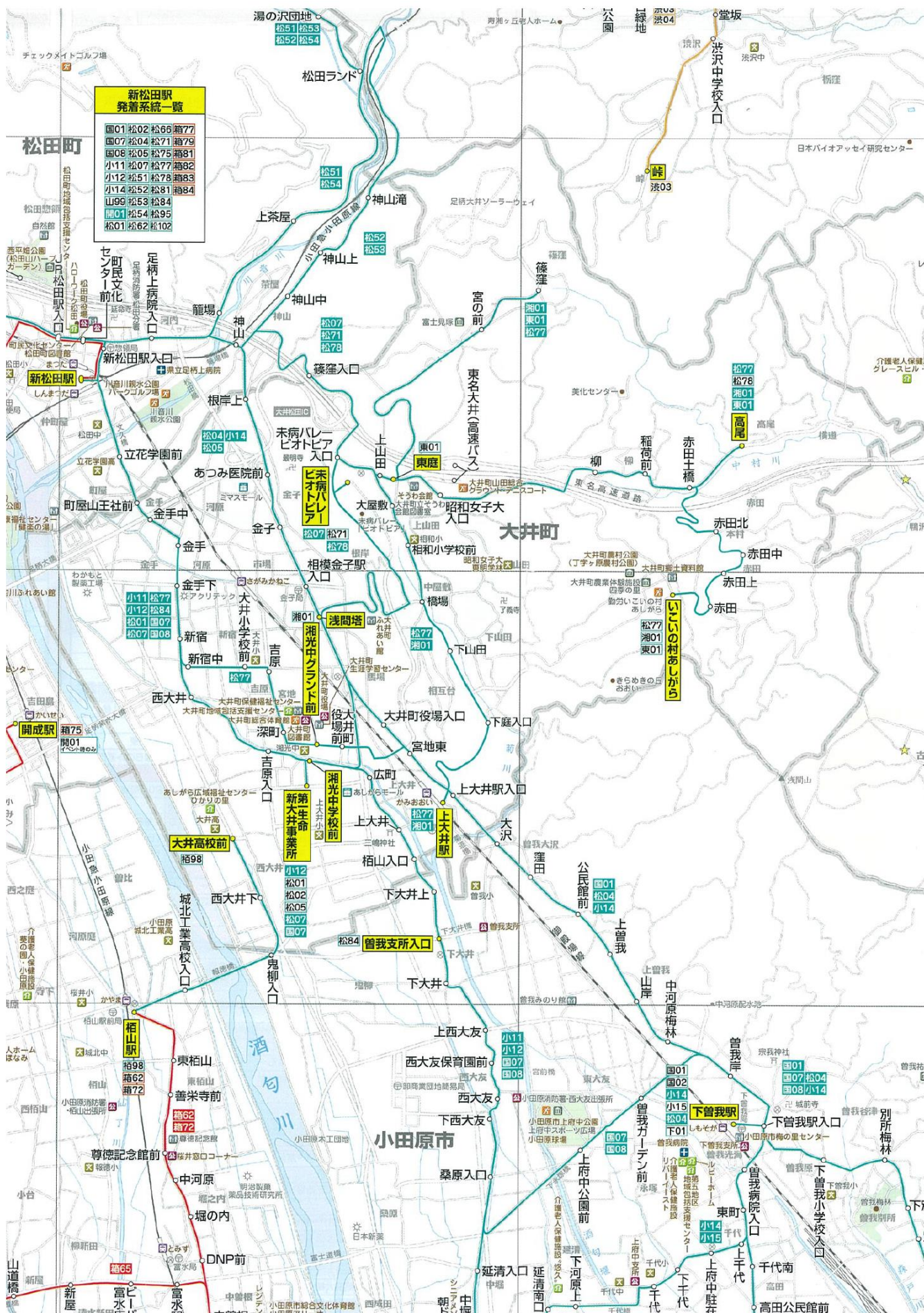


表 系統別運行本数

系統No	起点	経由地	終点	平日			土日祝		
				往路	復路	平均	往路	復路	平均
松01	新松田駅	(急行)	第一生命新大井事業所	5	0	2.5	—	—	—
松02	新松田駅	金手	第一生命新大井事業所	8	7	7.5	—	—	—
松04	新松田駅	根岸上・金子・上大井駅入口	ダイナシティ	2	3	2.5	2	2	2.0
松05	新松田駅	金子・浅間塔	第一生命新大井事業所	2	0	1.0	—	—	—
松07	新松田駅	神山・ビオトピア・第一生命新大井事業所	新松田駅	0	1	0.5	—	—	—
松71	新松田駅	神山	ビオトピア	4	5	4.5	6	6	6.0
松77	新松田駅	湘光中グランド前・上大井駅・篠窪・高尾	いこいの村あしがら	2	0	1.0	—	—	—
松78	新松田駅	神山・未病バレービオトピア	高尾	1	1	1.0	—	—	—
松84	下大井中	金手	新松田駅	0	1	0.5	—	—	—
小11	新松田駅	金手・西大友	小田原駅	3	3	3.0	—	—	—
小12	新松田駅	金手・第一生命新大井事業所	小田原駅	7	6	6.5	6	6	6.0
小14	新松田駅	神山・下曽我駅	小田原駅	7	6	6.5	4	4	4.0
国07	新松田駅	金手・第一生命新大井事業所	国府津駅	3	6	4.5	—	—	—
国08	新松田駅	金手・西大友・下曽我駅入口	国府津駅	2	1	1.5	—	—	—
湘01	いこいの村あしがら	高尾・篠窪・東庭・上大井駅	湘光中グランド前	1	0	0.5	—	—	—
東01	東庭	篠窪・高尾	いこいの村あしがら	1	0	0.5	—	—	—
栢98	栢山駅		大井高校	2	0	1.0	—	—	—

2) 公共交通空白地域

「バスサービスハンドブック（土木学会）」によると、無理なく歩ける距離は健常者で300m、高齢者で100mとされている。

相模金子駅周辺や以北（金子）や上大井駅周辺などで人口、高齢者数が多いものの、これら地域は概ね公共交通の利用圏域となっているなど、ネットワークとしては概ねカバーされているが、金手など一部地域で公共交通空白地域が存在している。

表 抵抗を感じない距離

条件	一般的な人 歩行速度 80m/分	高齢者等 歩行速度 40m/分
90%の人が抵抗感なし（約3.5分）	300m	100m
大きな荷物がある（約2分）	150m	80m

出典：バスサービスハンドブック（土木学会）

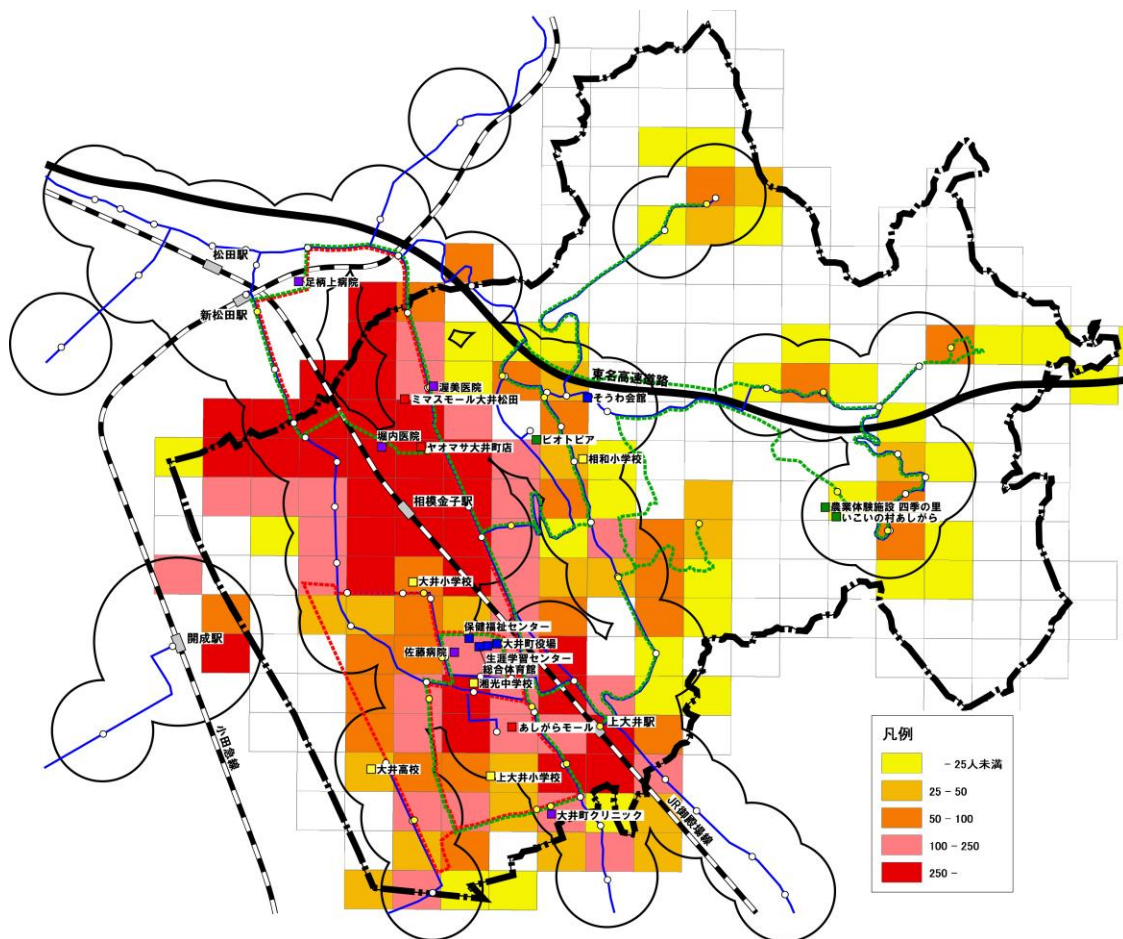


図 公共交通利用圏域×人口 250mメッシュ

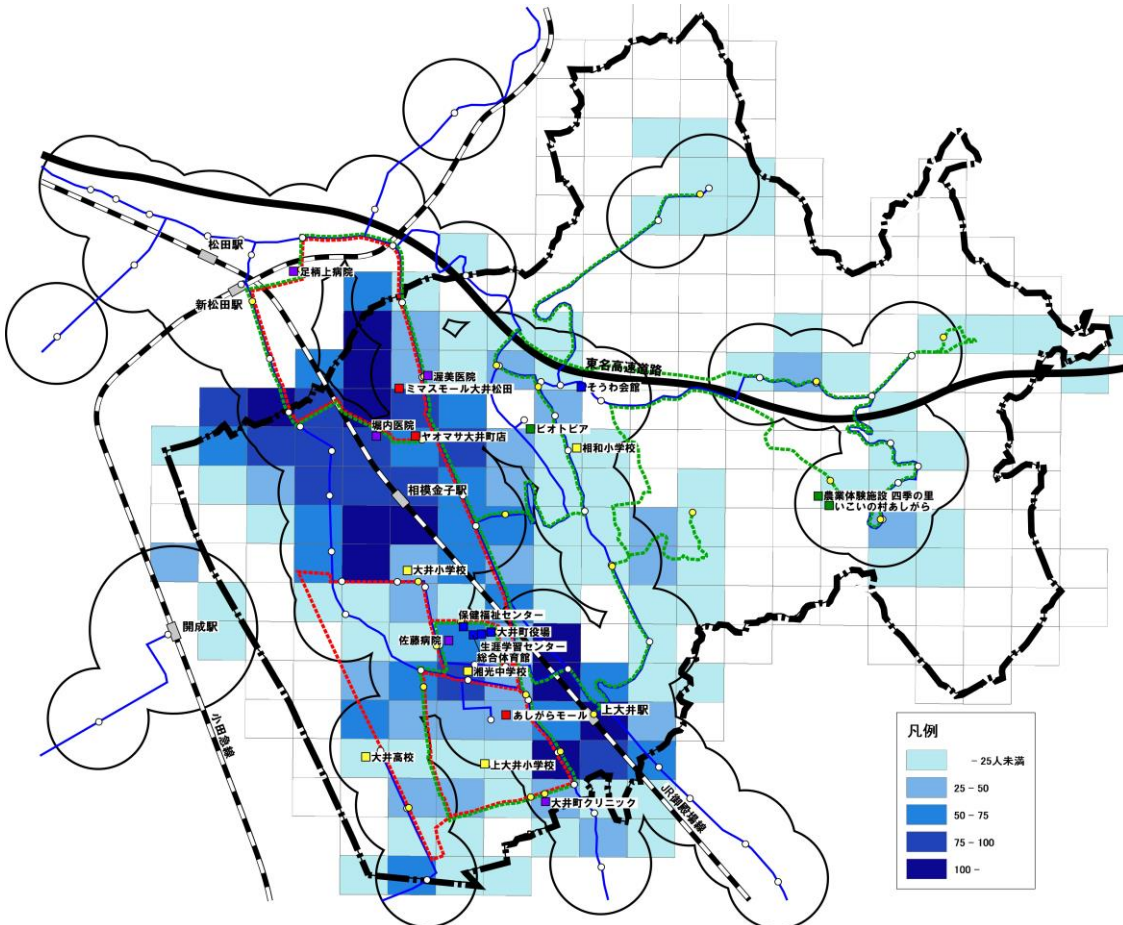


図 公共交通利用圏域×高齢者数 250mメッシュ

(3) 巡回福祉バス「ふれあい悠悠」

1) 運行概要

巡回福祉バス「ふれあい悠悠」は、高齢者や、交通手段を持たない町民の方の外出や移動を支援するために、町全域を網羅するように運行している。



表 巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の運行サービス

運行日	週3日（月曜日、火曜日、金曜日） ※祝祭日、年末年始は運休
運行ダイヤ	《里山コース》 往路…8:00 発・14:10 発、復路…10:40 発・15:40 発 《せせらぎコース》 往路…9:30 発、復路…13:00 発
料金	無料

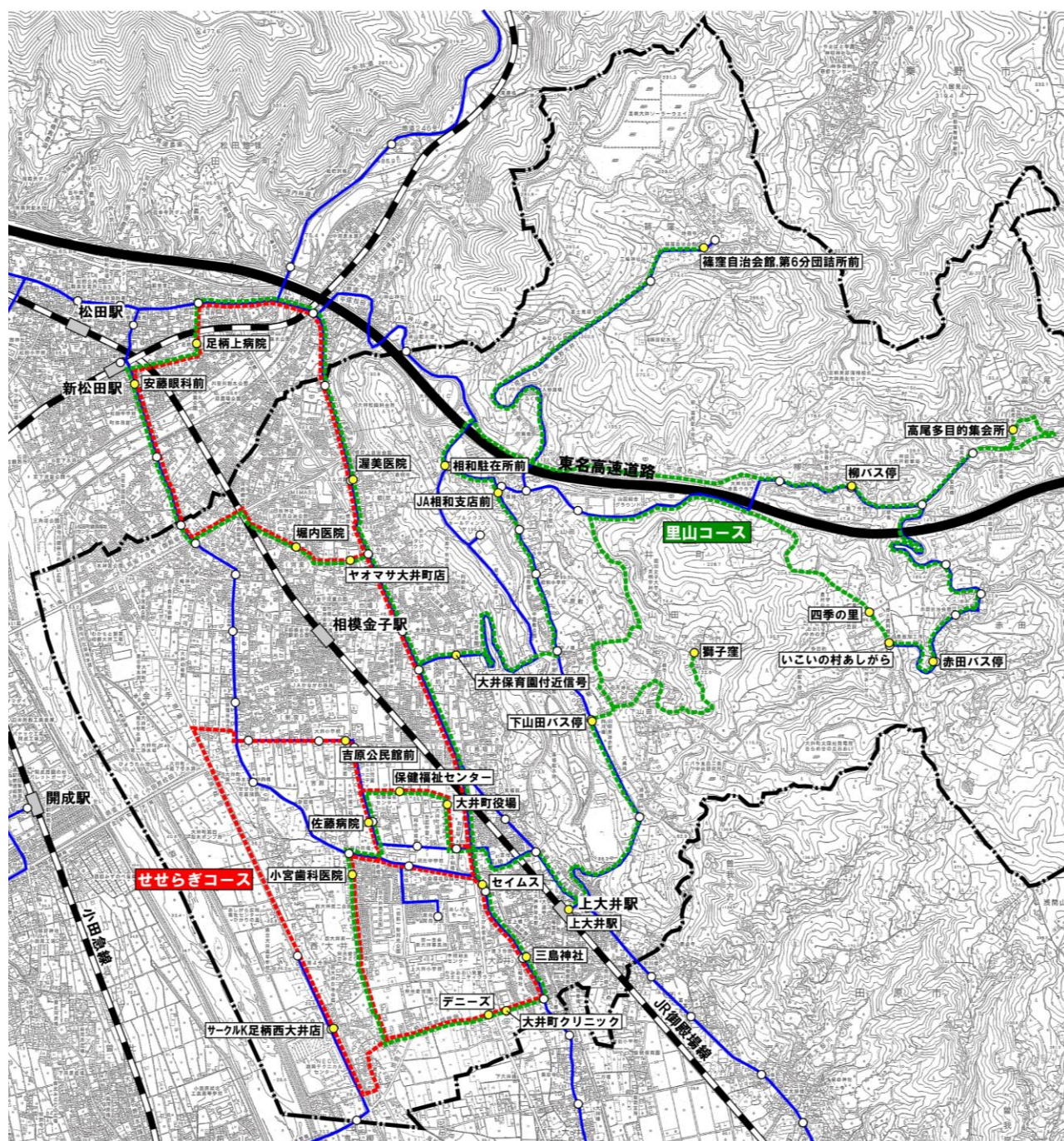


図 巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の運行ルート図

里山コース・往路（月・火・金）

大井町役場	8:00	14:10
上大井駅	8:05	14:15
下山田バス停	8:09	14:19
獅子窪	8:15	14:25
農業体験施設「四季の里」	8:21	14:31
いこいの村あしがら	8:22	14:32
赤田バス停	8:23	14:33
高尾多目的集会所	8:30	14:40
柳バス停	8:33	14:43
篠窪自治会館、第6分団詰所前	8:38	14:48
相和駐在所前	8:42	14:52
J A 相和支店前	8:43	14:53
大井保育園付近信号	8:47	14:57
渥美医院	8:51	15:01
足柄上病院	8:59	—
安藤眼科前	9:00	—
堀内医院	9:03	15:05
ヤオマサ大井町店	9:05	15:07
大井町クリニック	9:12	15:14
小宮歯科医院	9:17	15:19
佐藤病院	9:18	15:20
保健福祉センター	9:19	15:21
大井町役場	9:20	15:22

里山コース・復路（月・火・金）

大井町役場	10:40	15:40
保健福祉センター	10:41	15:41
佐藤病院	10:42	15:42
小宮歯科医院	10:43	15:43
大井町クリニック	10:48	15:48
ヤオマサ大井町店※	10:55	15:57
堀内医院※	10:57	15:55
安藤眼科前	11:00	—
足柄上病院	11:04	—
渥美医院	11:09	16:01
大井保育園付近信号	11:13	16:05
J A 相和支店前	11:17	16:09
相和駐在所前	11:18	16:10
篠窪自治会館、第6分団詰所前	11:22	16:14
柳バス停	11:27	16:19
高尾多目的集会所	11:30	16:21
赤田バス停	11:37	16:28
いこいの村あしがら	11:38	16:29
農業体験施設「四季の里」	11:39	16:30
獅子窪	11:45	16:36
下山田バス停	11:51	16:42
上大井駅	11:55	16:46
大井町役場	12:00	16:51

※15：40発の便はヤオマサと堀内医院の停車順が逆になります

せせらぎコース・往路（月・火・金）

大井町役場	9:30
吉原公民館前	9:33
サークルK 足柄西大井店（縦貫道沿い）	9:38
デニーズ（県道側）	9:41
大井町クリニック	9:43
三島神社	9:45
セイムス	9:46
ヤオマサ大井町店	9:52
堀内医院	9:54
安藤眼科	9:58
足柄上病院	10:03
渥美医院	10:10
佐藤病院	10:20
大井町役場	10:22

せせらぎコース・往路（月・火・金）

大井町役場	13:00
佐藤病院	13:02
渥美医院	13:12
足柄上病院	13:22
安藤眼科	13:24
堀内医院	13:28
ヤオマサ大井町店	13:30
セイムス	13:36
三島神社	13:37
大井町クリニック	13:39
デニーズ（県道側）	13:41
サークルK 足柄西大井店（縦貫道沿い）	13:44
吉原公民館前	13:49
大井町役場	13:52

2) 利用実績

巡回福祉バスの令和元年度利用者数は4,581人/年で、里山コースが4,104人/年、せせらぎコースが477人/年となっており、直近5年間の推移を見ると、里山コースではほぼ横ばい、せせらぎコースで大きく減少している。

1日平均利用者数の推移を見ると、平成27年度が38.4人/日に対し、令和元年度が32.7人/日と5.7人/日減少している。

令和元年度の運行経費（借上料＋運転委託料＋燃料費）は3,925千円となっている。

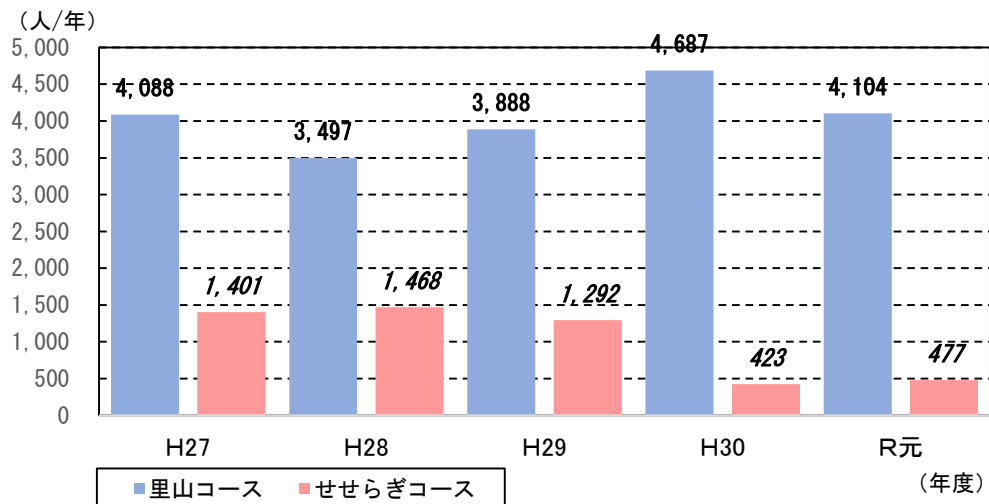


図 巡回福祉バスの年度別コース別利用者数

表 巡回福祉バスの年度別ダイヤ別利用者数

(単位：人)

			H27	H28	H29	H30	R元	
里山コース	往路	8：00発	1,782	1,551	1,732	1,859	1,586	
		14：10発	634	378	395	667	695	
	復路	10：40発	1,524	1,390	1,544	1,629	1,372	
		15：40発	148	178	217	532	451	
	小計			4,088	3,497	3,888	4,687	4,104
せせらぎコース	往路	9：30発	715	781	754	279	231	
	復路	13：00発	686	687	538	144	246	
	小計			1,401	1,468	1,292	423	477
合計				5,489	4,965	5,180	5,110	4,581

表 巡回福祉バスの曜日別年度別利用者数

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	年間 (人/年)	日平均 (人/日)	年間 (人/年)	日平均 (人/日)	年間 (人/年)	日平均 (人/日)	年間 (人/年)	日平均 (人/日)	年間 (人/年)	日平均 (人/日)
月曜日	1,405	31.9	1,247	27.1	1,478	31.4	1,421	33.0	1,285	30.6
火曜日	1,995	41.6	1,712	34.2	1,910	36.7	1,840	36.1	1,646	33.6
金曜日	2,089	41.0	2,006	40.1	1,791	37.3	1,849	37.7	1,650	33.7
合計	5,489	38.4	4,965	34.0	5,179	35.2	5,110	35.7	4,581	32.7

令和元年度のダイヤ別 1 便平均利用者数は、里山コースの往路・8:00 発が 11.3 人/便と最も多く、せせらぎコースの往路・復路ともに 2 人/便未満と少ない。

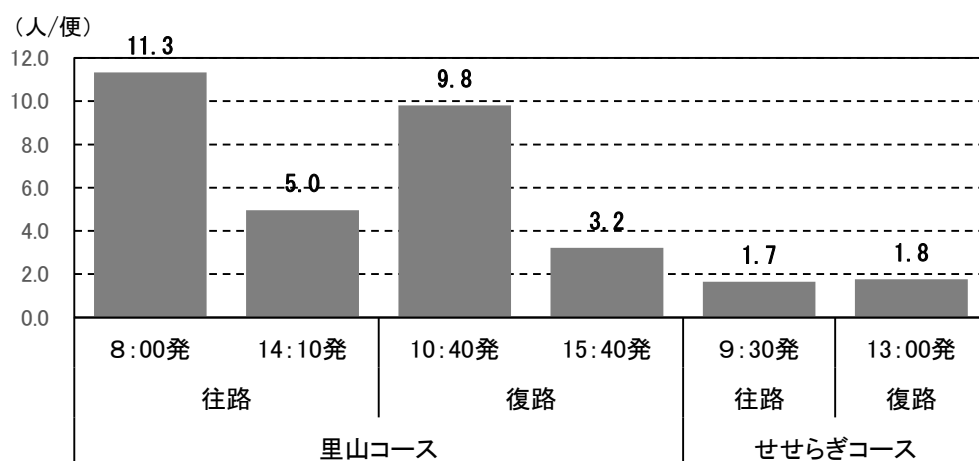


図 巡回福祉バスのダイヤ別 1 便平均利用者数（令和元年度）

（４）一般タクシー

町内にタクシー営業所はなく、大井町内が営業エリアのタクシー会社は、3 社が運行中である。

表 タクシー事業者の概要

会社名	所在地	車両保有台数		
			福祉車両	福祉車両
松田合同自動車(株)	松田町松田惣領 1887-1	29 台	0 台	1 台
小田原報徳自動車(株)	小田原市浜町 1-6-8	72 台	0 台	0 台
箱根登山ハイヤー(株)	小田原市板橋 102-3	78 台	0 台	0 台

出典：一般社団法人神奈川県タクシー協会ホームページ

（５）高速バス

東名高速道路を運行する新宿・箱根線、東名ハイウェイバス、箱根桃源台・御殿場～羽田空港線及び御殿場・箱根桃源台～羽田空港線が小田急箱根高速バス、JR バス関東(株)及び京浜急行バス(株)により運行中で、東名バスストップで乗降可能となっており、山田グラウンド横に高速バス専用駐車場（無料）が整備されている。



（６）社会福祉協議会の移送サービス他

１）移送サービス事業

公共交通機関（バス、タクシーなど）の利用が困難な高齢者及び重度障がい者（登録制）を対象に、病院への通院、入退院、または施設への入退所の際の送迎を行っている。

○活動日時…平日の８時３０分～１７時

○料金…自宅から目的地までの往復の距離が５km未満まで４００円。以降５km超過につき２００円加算。

○運転手…ボランティア対応



２）移動販売車「くるまっくん」

令和２年５月から松田町で取り組んでいる「移動販売車」の空き時間を活用し、大井町でテスト販売が開始した。

○実施日…２週間に１日（水曜日）

※相和地区方面と金田・曽我地区方面交互に実施

○販売拠点

- ・相和地区方面…篠窪、柳、高尾、赤田、上山田、下山田、中屋敷
- ・金田・曽我地区方面…上大井、馬場、西大井、新宿、金手



３）買物ツアー

買物ツアーは毎週木曜日に期間限定で、自宅付近から町内のスーパー（ヤオマサ大井町店、ヤオマサあしがらモール店）まで運行しており、自宅運転手は登録ボランティアが行っている。

(7) 民間企業送迎バス

1) いこいの村あしがら

いこいの村あしがらでは、新松田駅から無料送迎バスを運行している。

○送迎時間…14：30、15：15、16：00

※前日までに予約が必要。受付時間は9：00～18：00

○運行車両：マイクロバス2台、ワンボックスカー1台



2) 松田自動車学校

松田自動車学校では、上大井エリアを始め、8方面で無料送迎バスを運行している。

○運行車両：ワンボックスカー2台

(上大井・西大友方面)

	2号車	2号車
学校発	※①15：50	※②19：10
新松田駅北口	15：55	19：15
カインズホーム	16：05	19：25
新鮮館おだわら	16：12	—
大井高校	16：20	—
立花学園	16：25	—
新松田駅北口	16：30	—
学校着	16：35	—

※①印は定時営業時（16：40まで）はカインズホームまでの送りのみの運行

※②印は送りのみ運行。かつ日・祝日、第二・第四土曜日の定時営業時（16：40まで）は運休。



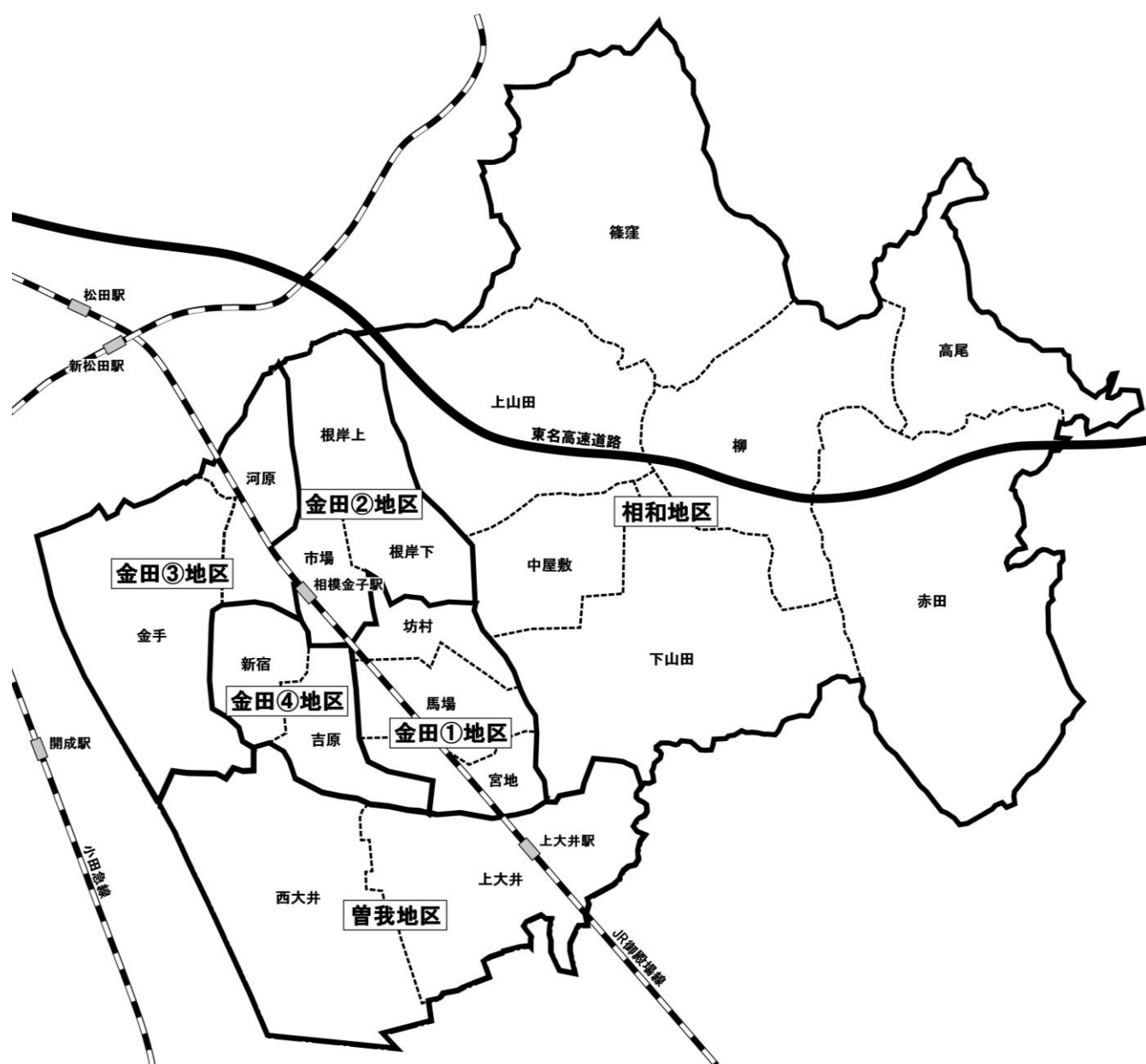
7 町民の意向把握の実施

7-1 町民アンケート調査

公共交通に関する利用状況や利用意向、将来の方向性などについて把握し、これからの公共交通のあり方を検討する上での基礎資料とするために、町民アンケート調査を行った。

調査対象者	《相和地域》：全世帯 499 世帯 《金田地域・曾我地域》：15 歳以上の町民 1, 500 世帯（住民基本台帳による無作為抽出）																																																																																																						
調査方法	《相和地域》：自治会配布、郵送回収 《金田地域・曾我地域》：郵送配布、郵送回収 ※世帯主票 1 票と個人票（15 歳以上） 2 票を同封 ※調査期間…令和 2 年 10 月 1 日（木） 発送～10 月 11 日（日） 締切																																																																																																						
調査項目	①世帯属性：住まい（自治会）、世帯構成、自動車保有台数、よく利用するバス停又は駅までの徒歩での所要時間 ②回答者の属性 ：性別、年齢、職業、自動車運転免許有無、自動車所有状況、外出する際の制約状況 ③日常の外出行動（普段の外出目的で多いもの 2 つ） ：外出目的、行き先、外出頻度、主な交通手段、移動時刻 ④日常の移動のしやすさ ：外出する時に交通手段が無くて困ることの有無とその目的、行き先、対応方法 ⑤鉄道（ＪＲ御殿場線）の利用実態：利用頻度、利用目的、利用しない理由 ⑥路線バスの利用実態と意識・要望 ：利用頻度、利用目的、利用しない理由、運行サービスに対する満足度 ⑦タクシーの利用実態：利用頻度、利用目的、利用しない理由 ⑧巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の今後のあり方 ：認知度、利用頻度、利用しない理由、新たな公共交通システムの輸送形態、支払い上限運賃 ⑨公共交通の利用意向 ：行きたい場所、利用目的、利用頻度、利用時間帯 ⑩効果的な公共交通の利用促進策																																																																																																						
回収状況	回収票数…世帯主票：1, 125 票（回収率：56.3％）、個人票：2, 443 票 <table><tr><th>地区区分</th><th>自治会</th><th>世帯票数</th><th>個人票数</th><th>地区区分</th><th>自治会</th><th>世帯票数</th><th>個人票数</th></tr><tr><td rowspan="3">金田①地区</td><td>馬場</td><td>43</td><td>96</td><td rowspan="7">相和地区</td><td>篠窪</td><td>46</td><td>94</td></tr><tr><td>宮地</td><td>41</td><td>92</td><td>柳</td><td>18</td><td>45</td></tr><tr><td>坊村</td><td>33</td><td>64</td><td>高尾</td><td>15</td><td>39</td></tr><tr><td rowspan="3">金田②地区</td><td>根岸上</td><td>45</td><td>94</td><td>赤田</td><td>32</td><td>74</td></tr><tr><td>根岸下</td><td>53</td><td>121</td><td>上山田</td><td>52</td><td>128</td></tr><tr><td>市場</td><td>79</td><td>167</td><td>中屋敷</td><td>31</td><td>69</td></tr><tr><td rowspan="2">金田③地区</td><td>河原</td><td>97</td><td>208</td><td>下山田</td><td>65</td><td>142</td></tr><tr><td>金手</td><td>108</td><td>237</td><td>地区無回答</td><td>29</td><td>29</td><td>45</td><td>45</td></tr><tr><td rowspan="2">金田④地区</td><td>新宿</td><td>86</td><td>185</td><td>町合計</td><td colspan="2">1, 125</td><td colspan="2">2, 443</td></tr><tr><td>吉原</td><td>14</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">曾我地区</td><td>西大井</td><td>85</td><td>187</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>上大井</td><td>153</td><td>325</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>										地区区分	自治会	世帯票数	個人票数	地区区分	自治会	世帯票数	個人票数	金田①地区	馬場	43	96	相和地区	篠窪	46	94	宮地	41	92	柳	18	45	坊村	33	64	高尾	15	39	金田②地区	根岸上	45	94	赤田	32	74	根岸下	53	121	上山田	52	128	市場	79	167	中屋敷	31	69	金田③地区	河原	97	208	下山田	65	142	金手	108	237	地区無回答	29	29	45	45	金田④地区	新宿	86	185	町合計	1, 125		2, 443		吉原	14	31					曾我地区	西大井	85	187					上大井	153	325				
地区区分	自治会	世帯票数	個人票数	地区区分	自治会	世帯票数	個人票数																																																																																																
金田①地区	馬場	43	96	相和地区	篠窪	46	94																																																																																																
	宮地	41	92		柳	18	45																																																																																																
	坊村	33	64		高尾	15	39																																																																																																
金田②地区	根岸上	45	94		赤田	32	74																																																																																																
	根岸下	53	121		上山田	52	128																																																																																																
	市場	79	167		中屋敷	31	69																																																																																																
金田③地区	河原	97	208		下山田	65	142																																																																																																
	金手	108	237	地区無回答	29	29	45	45																																																																																															
金田④地区	新宿	86	185	町合計	1, 125		2, 443																																																																																																
	吉原	14	31																																																																																																				
曾我地区	西大井	85	187																																																																																																				
	上大井	153	325																																																																																																				

(参考) 地域区分図



【町民アンケート調査のまとめ】

※調査対象者…相和地域：全世帯 499 世帯、金田・曾我地域：15 歳以上 1,500 世帯

回収票数…世帯主票：1,125 票（回収率：56.3%）、個人票：2,443 票

（１）世帯の属性

○世帯構成は「２世帯同居（45.9%）」、「夫婦のみ（29.5%）」が多く、自動車を２台以上保有している世帯が 56.3%と多い。

○よく利用するバス停又は駅までの徒歩での所要時間は「５分未満」が 27.3%と多く、15 分未満が 63.7%を占めている。

（２）回答者の属性

○回答者の年齢は 60 歳以上が 53.1%を占めており、職業は「会社員・公務員（29.0%）」、「無職（年金生活含む）（27.1%）」が多い。

○自動車運転免許証は「ある」が 80.4%を占めており、自動車の所有状況は自分専用＋家族供用が 82.2%で、持っていない方が 16.1%となっている。

（３）日常の外出行動

○外出時の行き先は、買い物、公共施設利用及び金融機関利用で外出する際が「大井町内」が、通勤、通学及び遊び・趣味・習い事等で「大井町外」が多い。

○外出頻度は、通勤、通学目的が「週に５日以上」、買い物、公共施設利用、遊び・趣味・習い事等目的が「週に１～２日」、外食、金融機関利用目的が「月に２～３日」、通院目的が「月に１日」が多い。

○主な利用交通手段は、通学目的以外で「自分の車で運転」する方が多いものの、通院、外食目的で外出する際、「家族等による送迎」の割合が約２割と高い。「家族等による送迎」と回答した割合は 15～19 歳と 70 歳以上や、自動車運転免許を持っていない方（返納済含む）でその割合が高い。

（４）移動のしやすさ

○外出時に「困ることがよくある」と「困ることがたまにある」と回答した方の合計は 32.3%となっており、15～19 歳や 20～29 歳と若年層や、自動車運転免許を持っていない方でその割合が高い。

○買い物や通院で外出する際に困り具合の割合が高く、困っている時は「家族、友人などに送迎してもらう」と回答した方が 50.6%と多い。

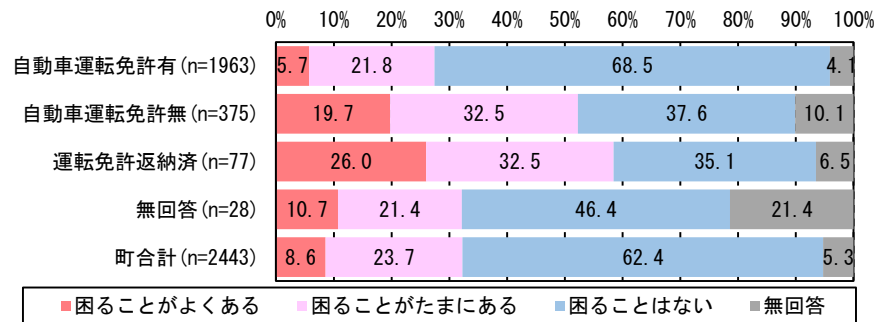


図 外出する際の困ることの有無（自動車運転免許有無別）

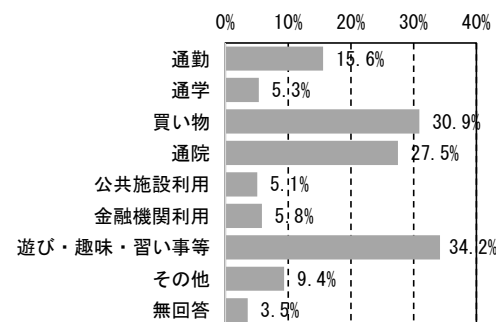


図 外出時に困る時の目的（n＝789）

（５）鉄道（JR 御殿場線）の利用実態

○鉄道の利用頻度は、49.6%の方が利用しており、「年に数日程度（31.8%）」と低頻度の利用割合が多く、その利用目的は、「遊び・趣味・習い事等（44.5%）」が多い。

（６）路線バスの利用実態と意識

○路線バスの利用頻度は利用している方が約２割となっており、「年に数日程度」が 12.6%と多い。利用目的は、「遊び・趣味・習い事等（35.2%）」、「通院（17.8%）」、「通勤（14.8%）」の順で多い。

○運行サービスに対する満足度（利用者）は、特に「運行本数、運行時間帯」や「バス停留所の待合空間（屋根、ベンチ）」で不満度が多い。

（７）タクシーの利用実態

○タクシーの利用頻度は、約４割の方が利用しており、「年に数日程度」が 31.8%と低頻度の利用割合が多く、利用目的は「遊び・趣味・習い事等（46.6%）」が多い。

（８）巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の利用実態と意識・要望

○巡回福祉バスの認知度は、「知っていた」方が 35.2%で、相和地区で認知度が高く、「存在は知っていたが運行内容は知らなかった」、「存在すら知らなかった」と回答した人は 62.9%と多い。

○巡回福祉バスの利用頻度は、約１割の方が利用しており、相和地区でその割合がやや高い。

○新たな公共交通システムの希望する輸送形態は、「運行ルート・ダイヤを定めた定時定路線型交通（巡回福祉バスと同様）【Ａタイプ】（45.1%）」、「運行エリア内で予約があった乗降ポイントを巡回するデマンド型交通・区域運行型【Ｃタイプ】（25.1%）」が多い。

（９）公共交通の利用意向

○買い物や通院などの目的地へ直接移動できるバスなどの公共交通機関が運行した場合の行きたい場所は、「新松田駅（1,002 件）」、「病院（536 件）」及び「ヤオマサ大井町店（386 件）」の順で多い。

○利用目的は「買い物（34.6%）」、「遊び・趣味・習い事等（23.5%）」、「通院（17.4%）」が多い。

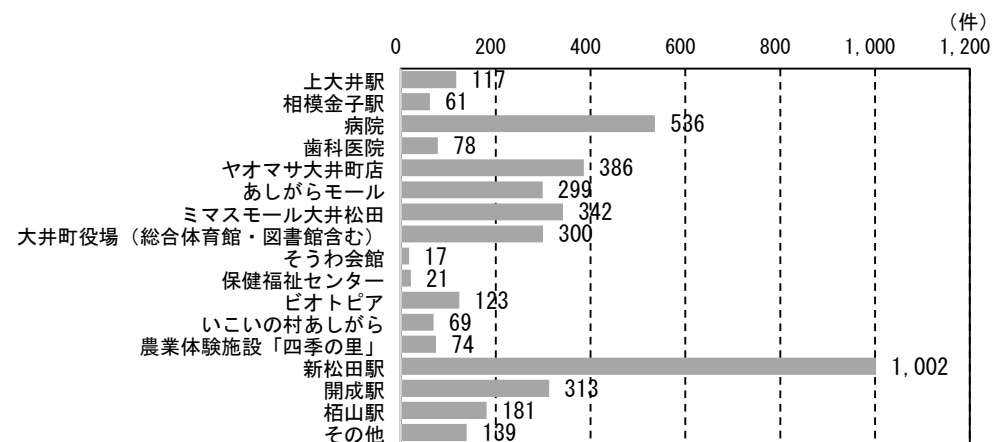


図 行きたい場所

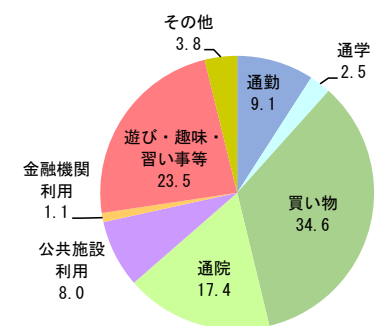


図 利用目的

（10）公共交通の利用促進方策

- ・第１位：路線バスや巡回福祉バスなどのルートや時刻表などを掲載した公共交通マップの作成・配布（51.7%）
- ・第２位：自動車運転免許証返納者への公共交通割引制度などの拡充（40.1%）
- ・第３位：商業施設などと連携した公共交通割引チケットなどの発行（28.4%）

(1) 世帯の属性

世帯構成は「2世帯同居 (45.9%)」、「夫婦のみ (29.5%)」が多い。

自動車保有台数は「2台」が37.1%と多く、2台以上の世帯が56.3%を占めている。

よく利用するバス停又は駅までの徒歩での所要時間は「5分未満」が27.3%と多く、15分未満が63.7%を占めており、地区別に見ると、相和地区で「30分以上」の割合が20.8%と高い。

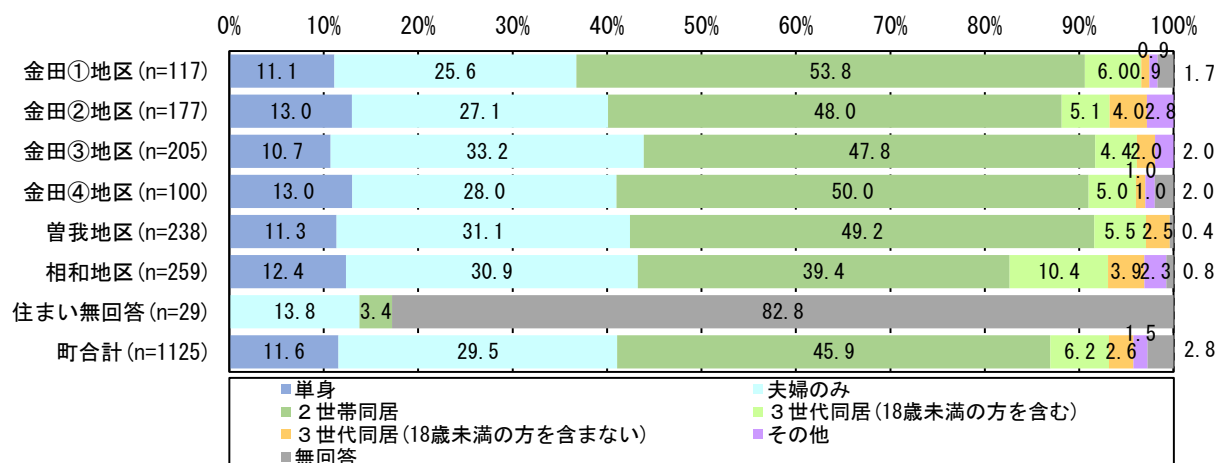


図 世帯構成

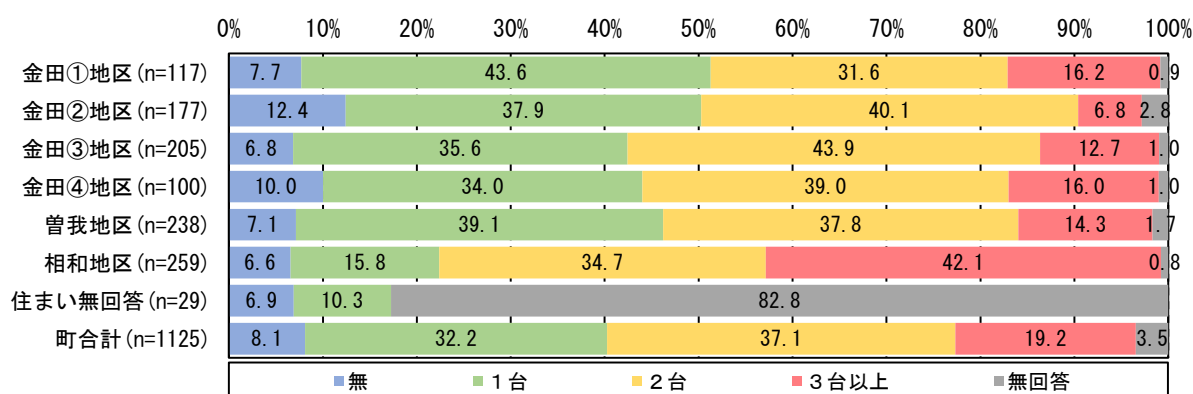


図 自動車保有台数

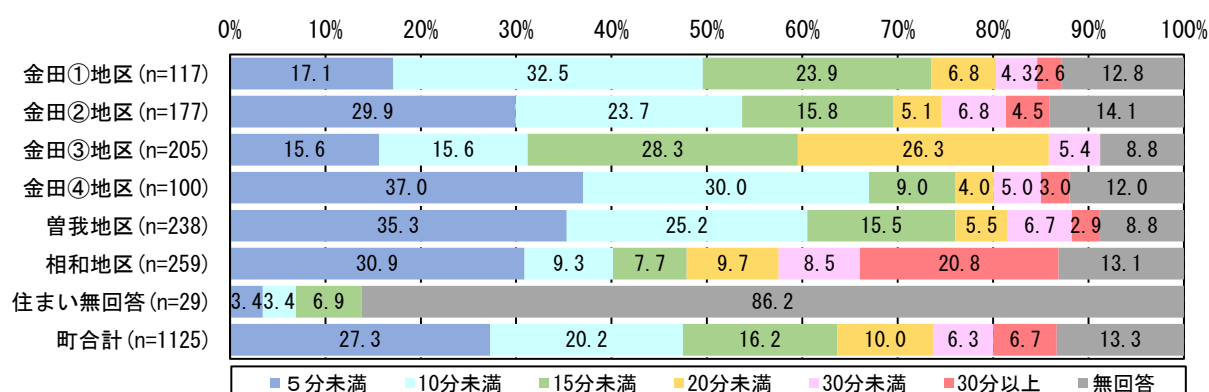


図 自動車保有台数

(2) 回答者の属性

回答者の性別は「男性」、「女性」とも同程度で、年齢は60歳以上が53.1%を占めている。

職種は「会社員・公務員等（29.0%）」、「無職（年金生活含む）（27.1%）」が多い。

自動車運転免許証有無は、「ある」が80.4%、「ない」が15.3%、「運転免許証返納済」が3.2%となっており、自動車の所有状況は「自分専用の自動車がある」が54.4%と最も多く、「家族共用の自動車がある」方が28.1%、「持っていない」方が16.1%を占めている。

外出する際の制約状況は、「ひとりで外出できる」が91.3%と最も多く、年齢別に見ると、70歳以上の方でその割合が82.5%と、「家族等の送迎で外出できる」、「介護サービスを利用し外出できる」、「外出できない」の割合が17.1%と高い。

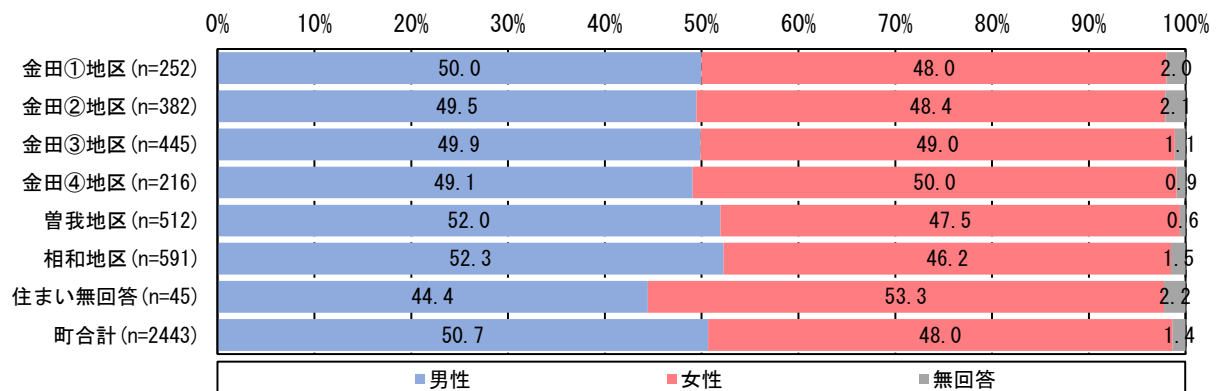


図 性別

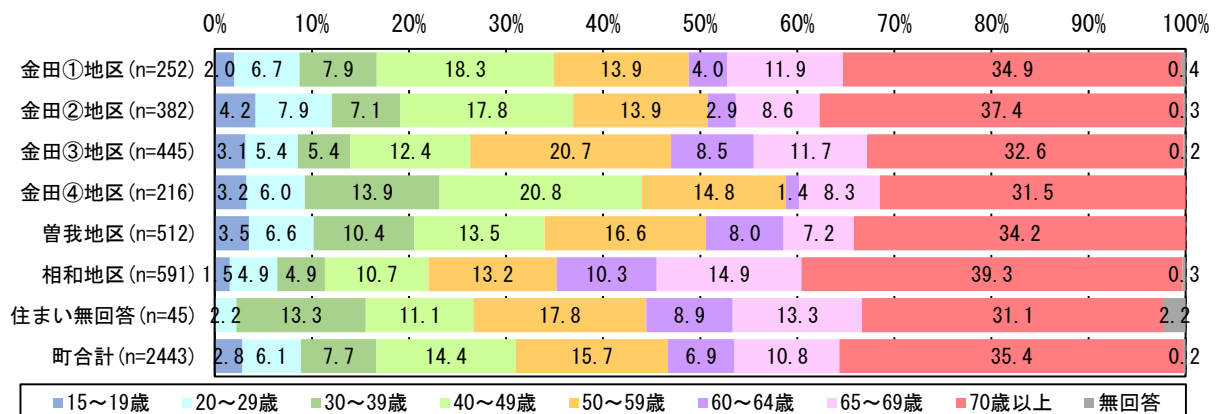


図 年齢

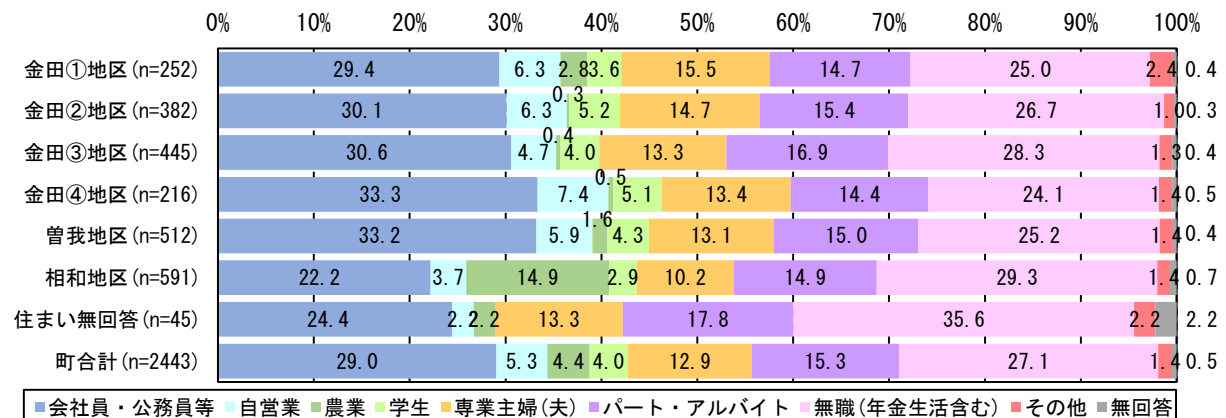


図 職業

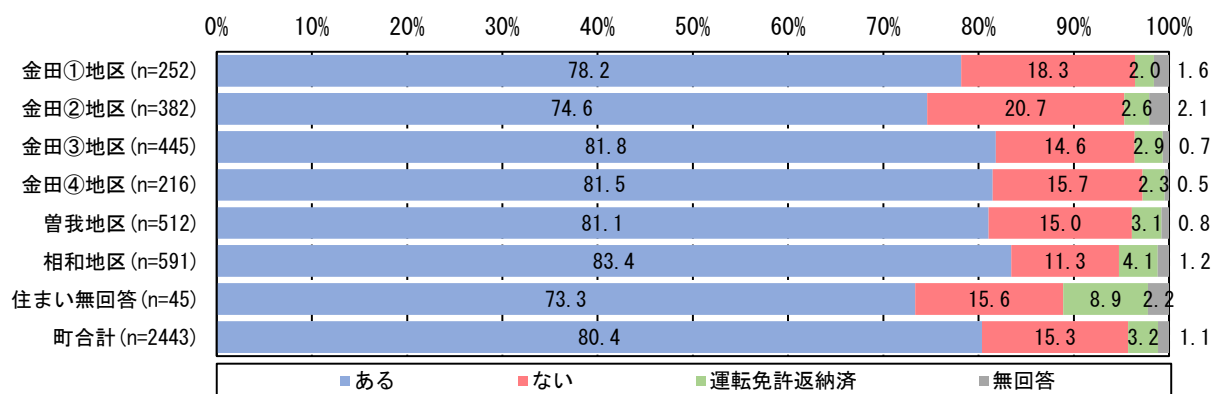


図 自動車運転免許証有無

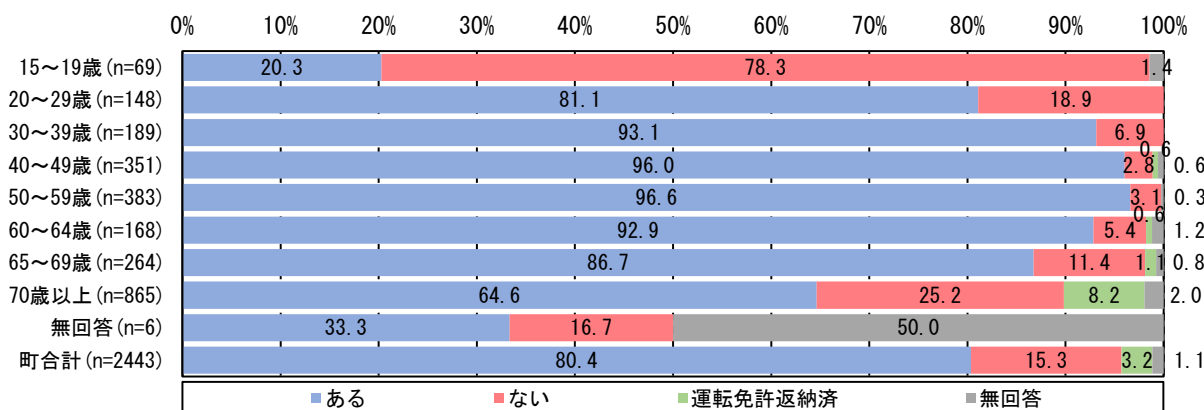


図 自動車運転免許証有無（年齢別）

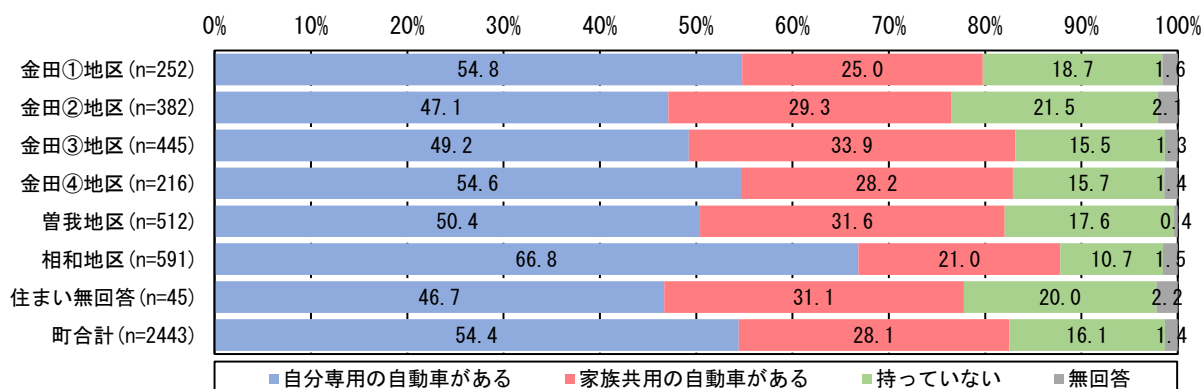


図 自動車の所有状況

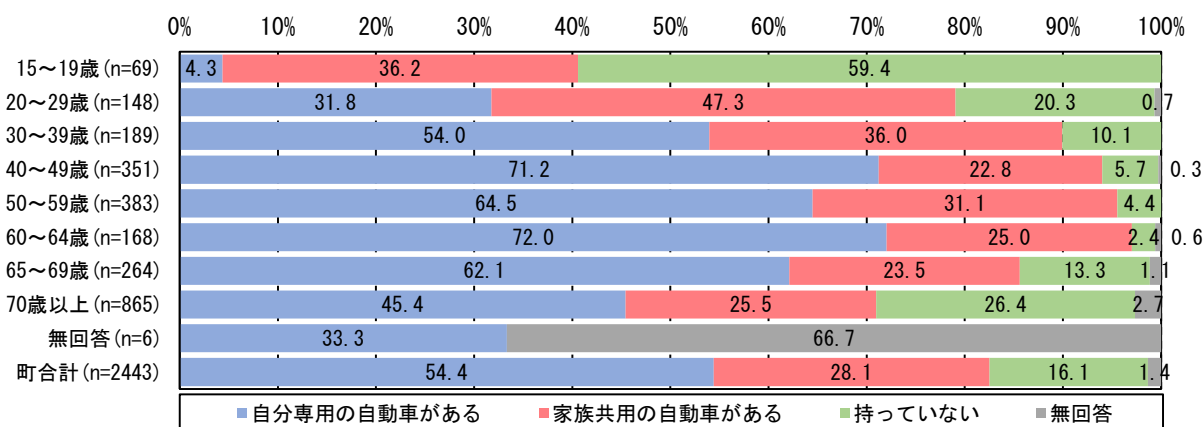


図 自動車の所有状況（年齢別）

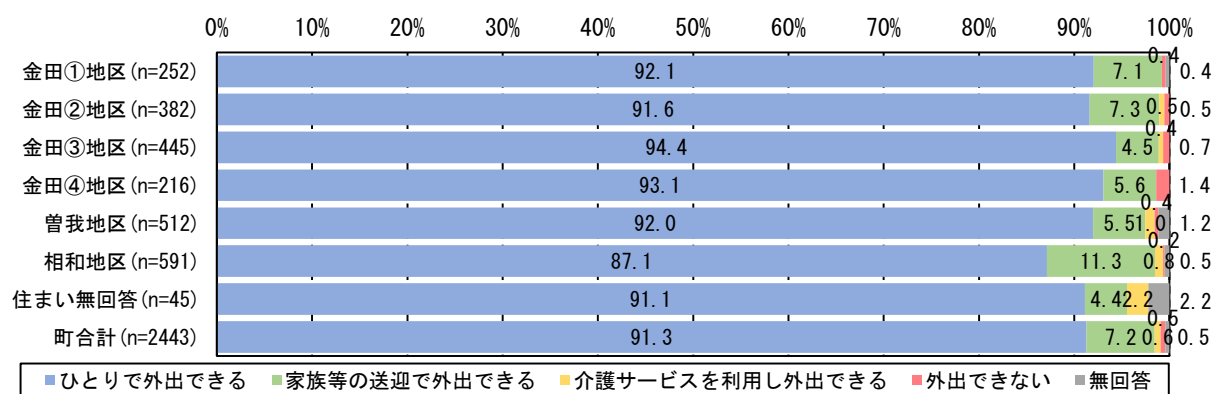


図 外出する際の制約状況

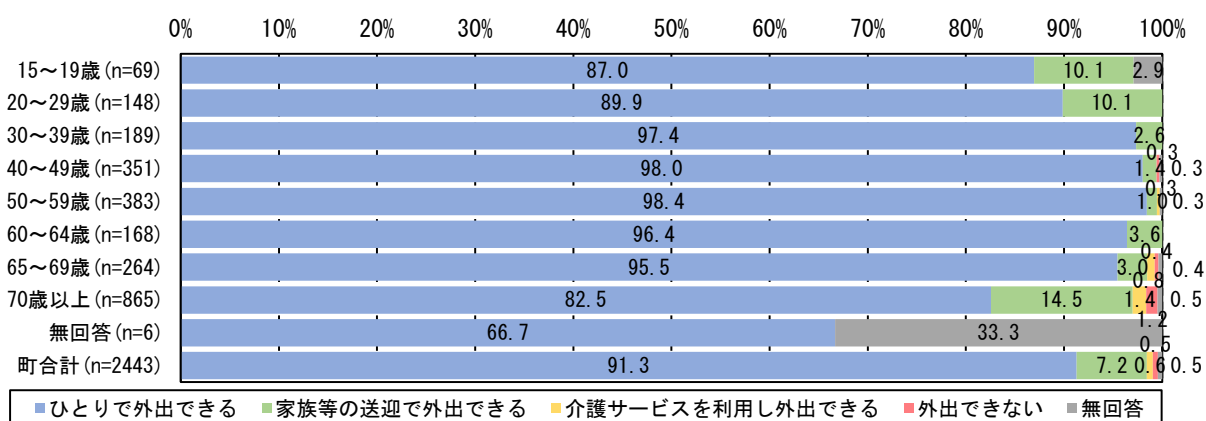


図 外出する際の制約状況（年齢別）

(3) 日常の外出行動

普段、「買い物（42.0%）」、「通勤（24.9%）」目的で外出する方が多く、70歳以上では「買い物（46.7%）」に次いで「通院（22.4%）」が多い。

外出時の行き先は、買い物、公共施設利用及び金融機関利用で外出する際に「大井町内」が、通勤、通学及び遊び・趣味・習い事等で「大井町外」が多く、年齢別に見ると、高齢になる程、「大井町内」の割合が高い。

外出目的ごとに外出頻度を見ると、通勤、通学目的が「週に5日以上」、買い物、公共施設利用、遊び・趣味・習い事等目的が「週に1～2日」、外食、金融機関利用目的が「月に2～3日」、通院目的が「月に1日」が多い。

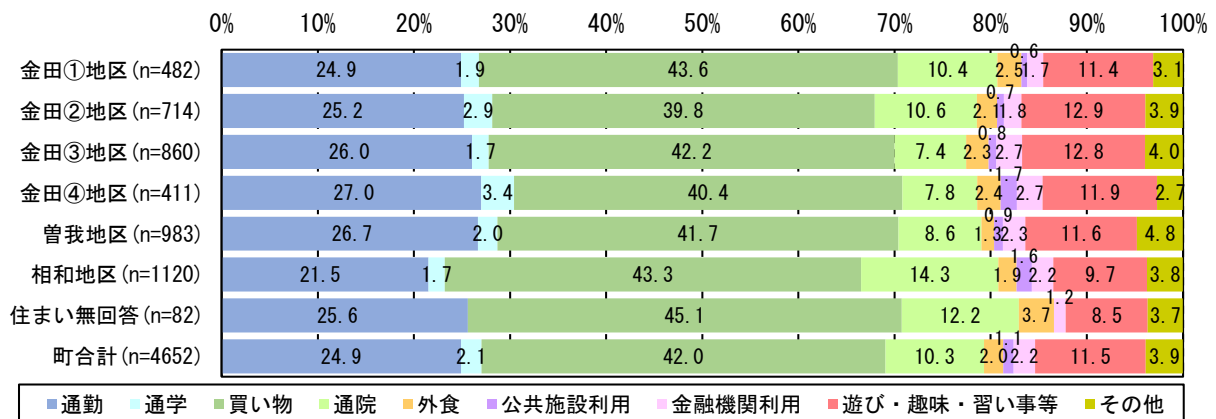


図 外出目的

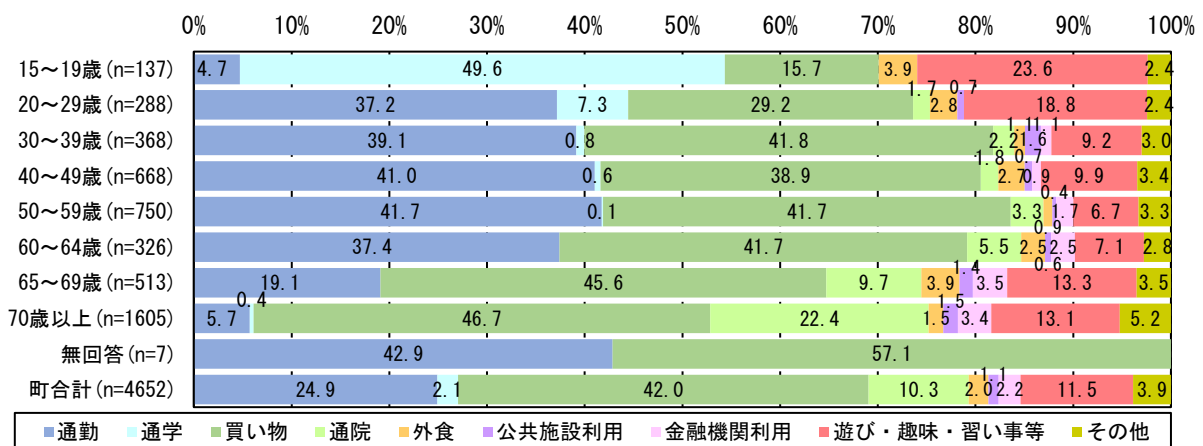


図 外出目的（年齢別）

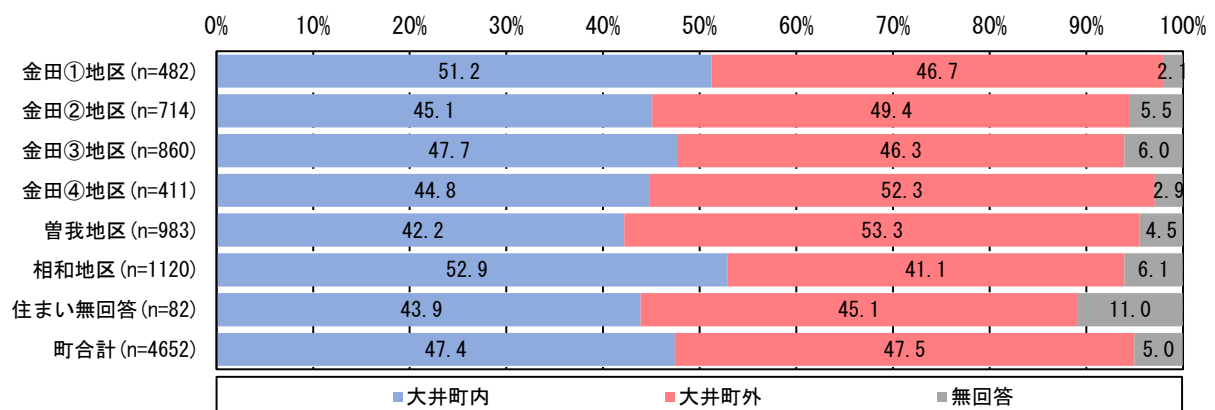


図 行き先

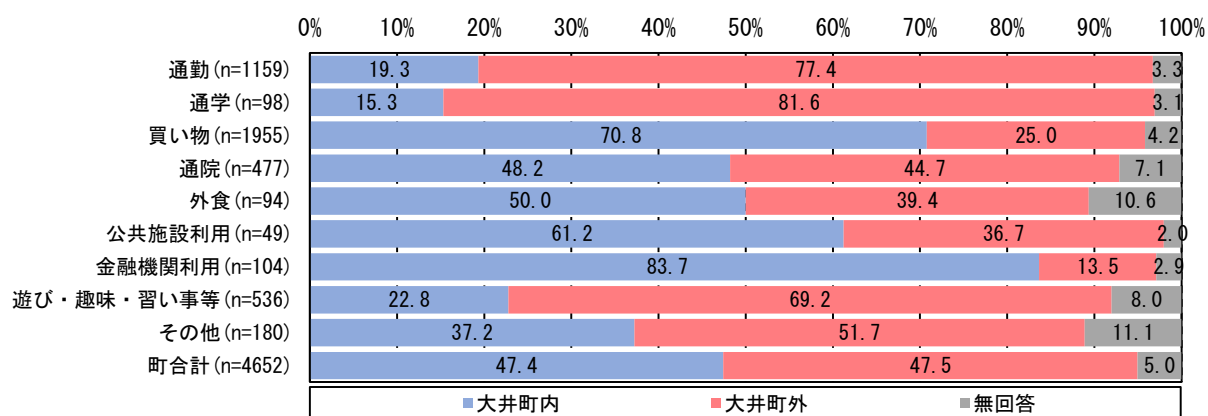


図 行き先（外出目的別）

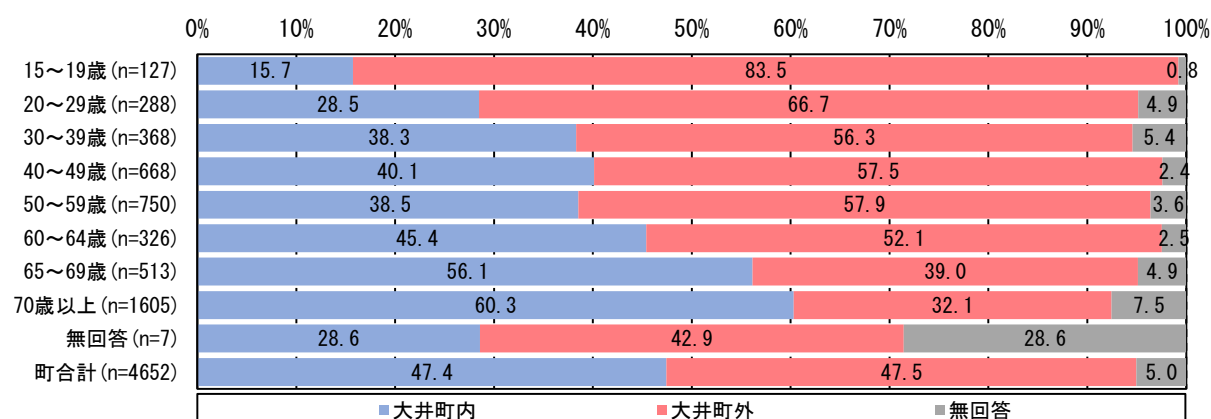


図 行き先（年齢別）

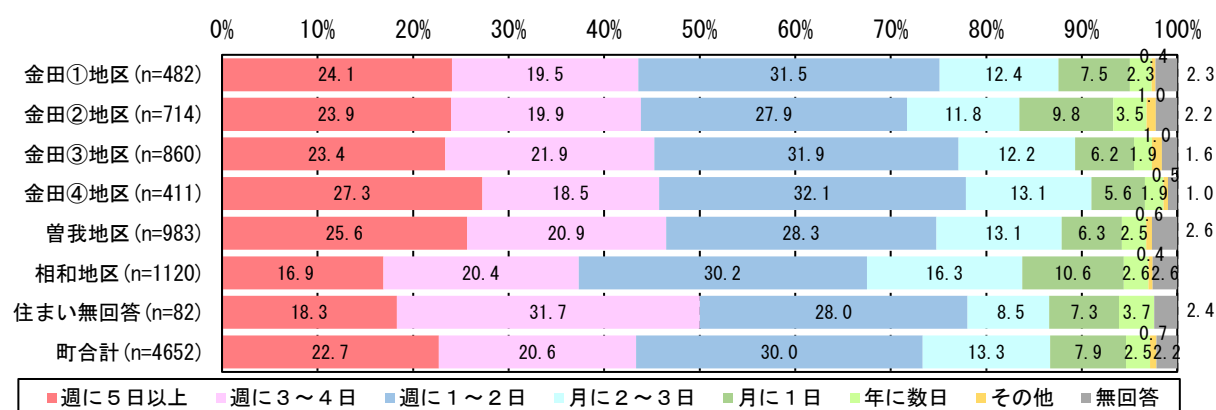


図 外出頻度

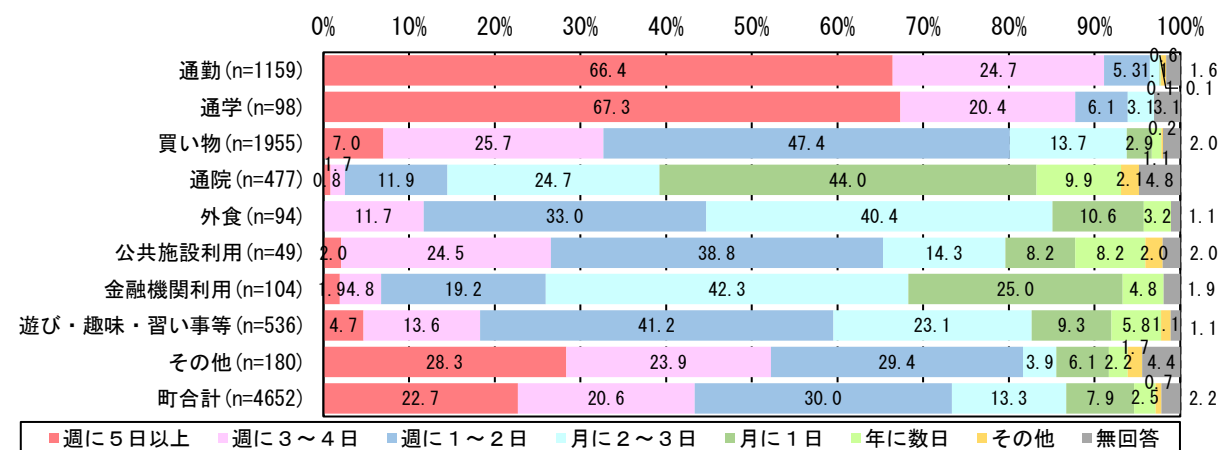


図 外出頻度（外出目的別）

外出目的ごとに主な利用交通手段を見ると、通学目的以外で「自分の車で運転」する方が多いものの、通院、外食目的で外出する際、「家族等による送迎」の割合が約2割と高い。年齢別に見ると、「家族等による送迎」と回答した割合は15～19歳と70歳以上が、自動車運転免許有無別に見ると、免許を持っていない方（返納済含む）でその割合が高い。

鉄道利用者の利用する鉄道は、金田③地区（河原、金手）と金田④地区（新宿、吉原）、相和地区で「小田急電鉄」が、金田①地区（馬場、宮地、坊村）と金田②地区（根岸上、根岸下、市場）、曾我地区で「JR 御殿場線」の割合が高い。

駅までの交通手段は、15～19歳で「家族等による送迎」と「自転車」が多いものの、それ以外の年代は「徒歩」が最も多い。

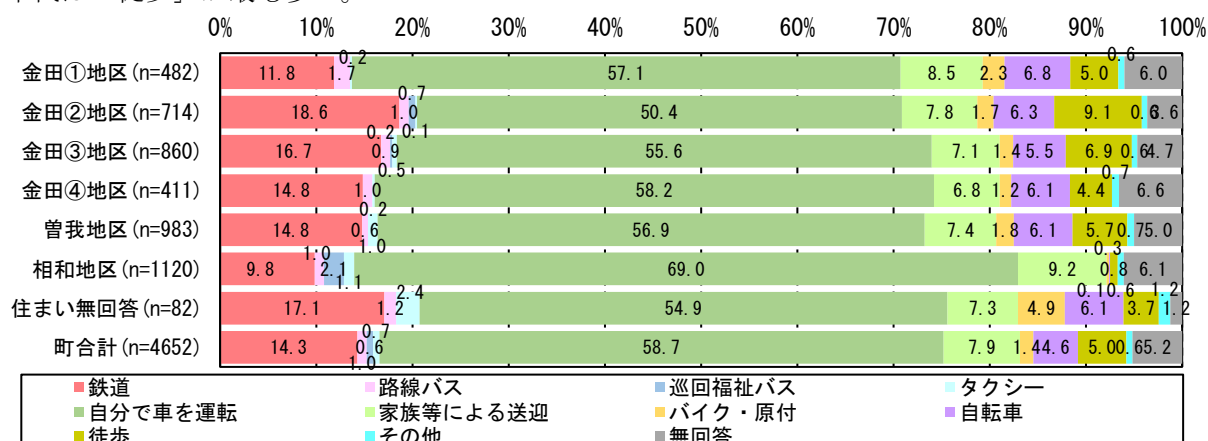


図 主な交通手段

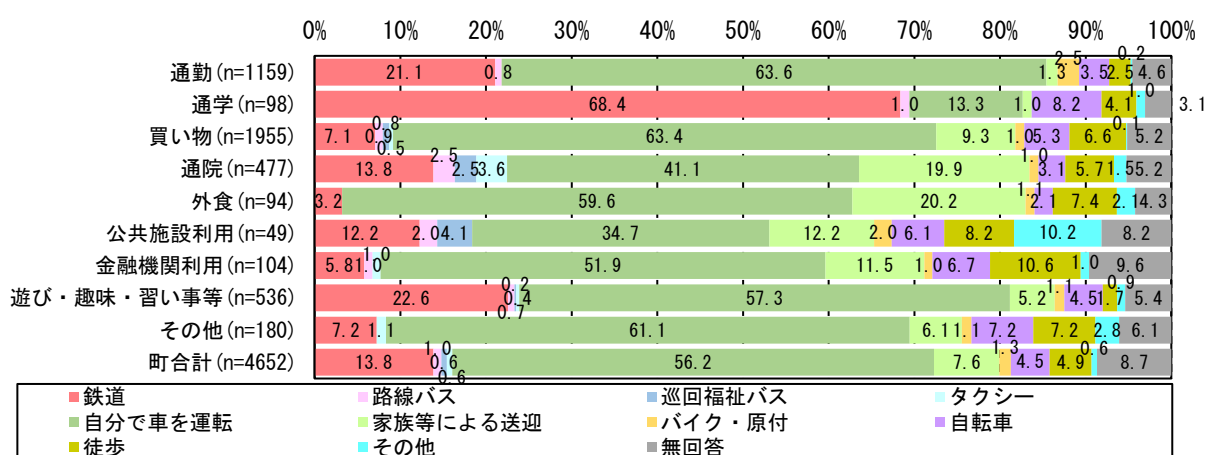


図 主な交通手段（外出目的別）

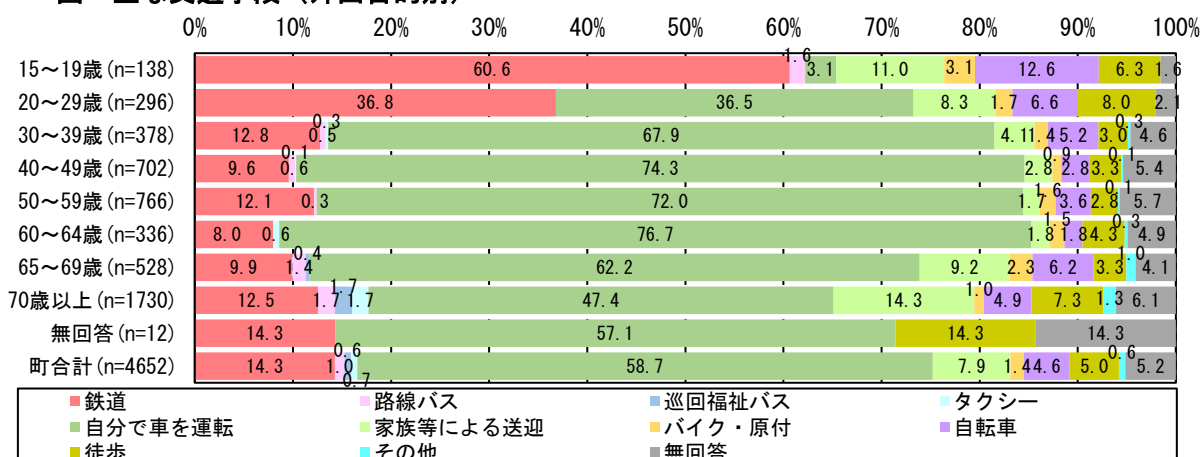


図 主な交通手段（年齢別）

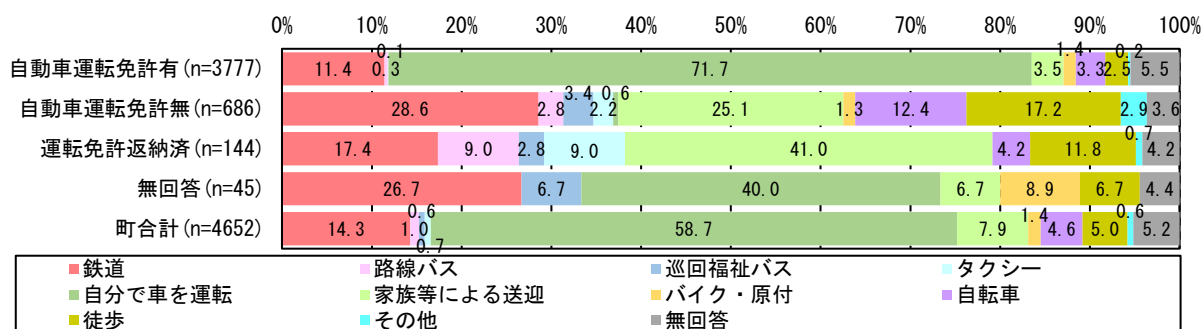


図 主な交通手段（自動車運転免許有無別）

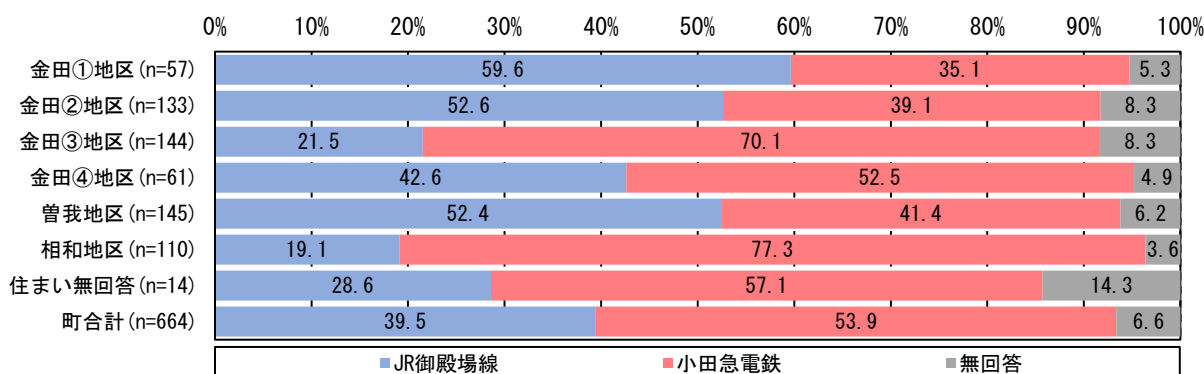


図 利用する鉄道路線（鉄道と回答した方のみ）

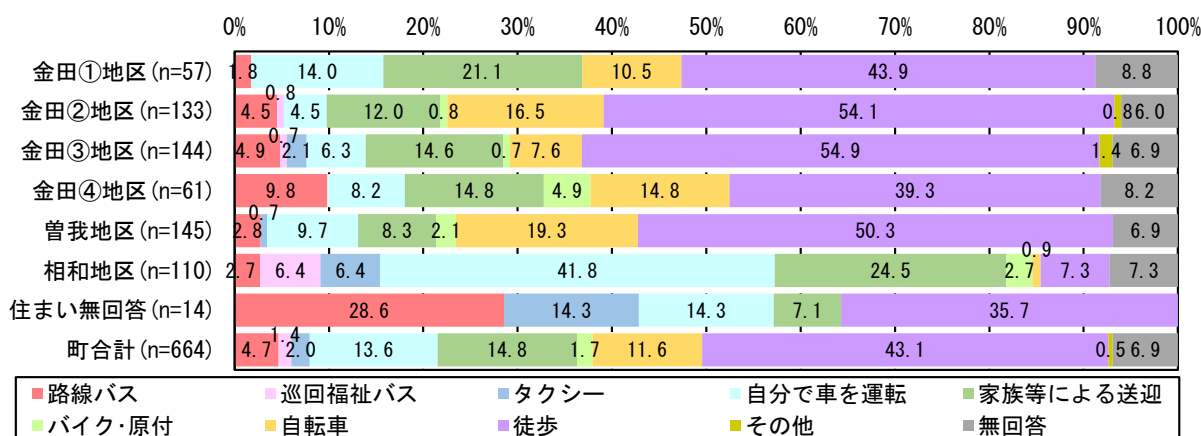


図 駅までの交通手段（鉄道と回答した方のみ）

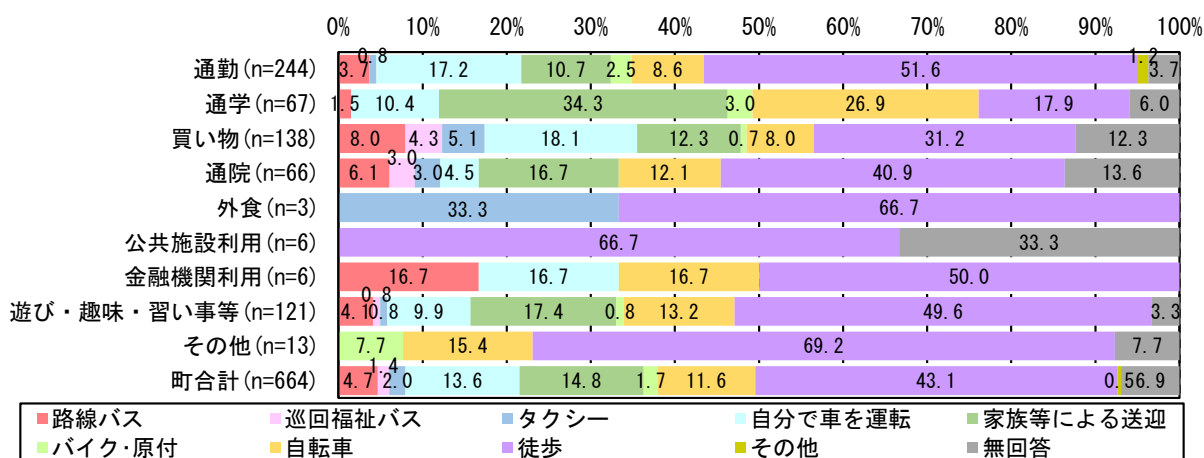


図 駅までの交通手段（利用目的別）

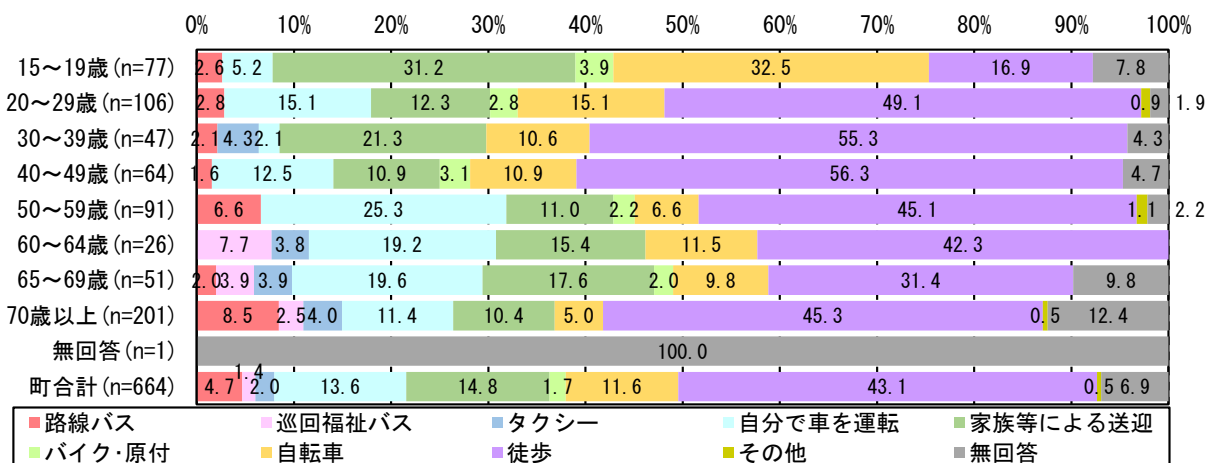


図 駅までの交通手段（利用目的別）

移動時刻は、高齢者の外出目的が多い買い物、通院目的に着目すると、買い物目的は10時台に出発し、11~12時台に帰宅する方が、通院目的は8~10時台に出発し、11~12時台に帰宅する方が多く、午前中の割合が高い。

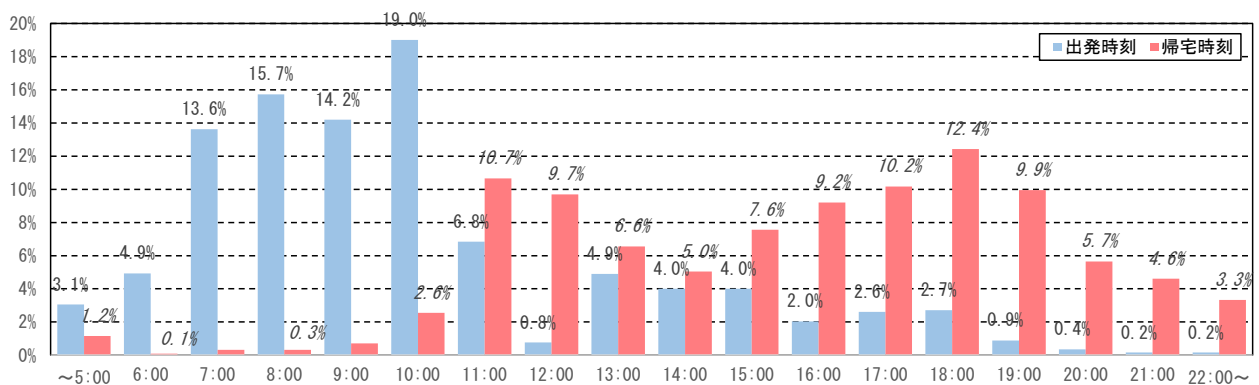


図 移動時刻

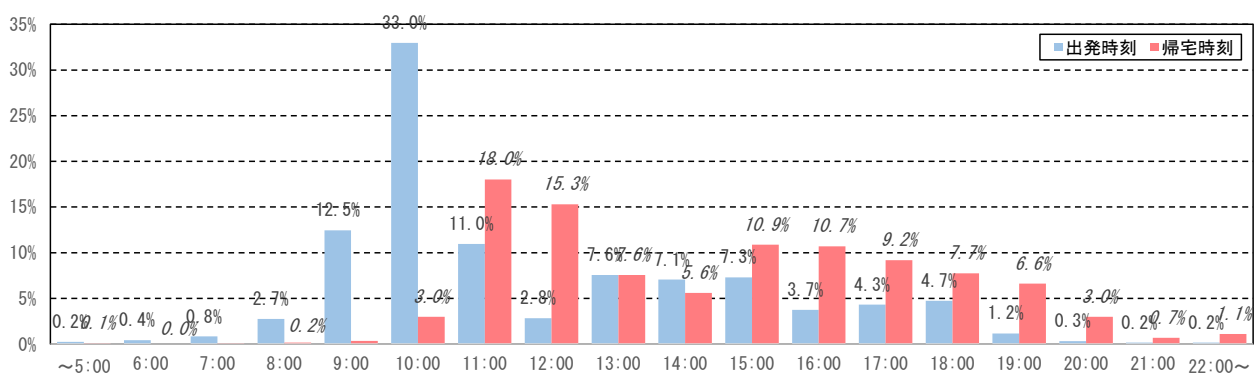


図 移動時刻（買い物目的）

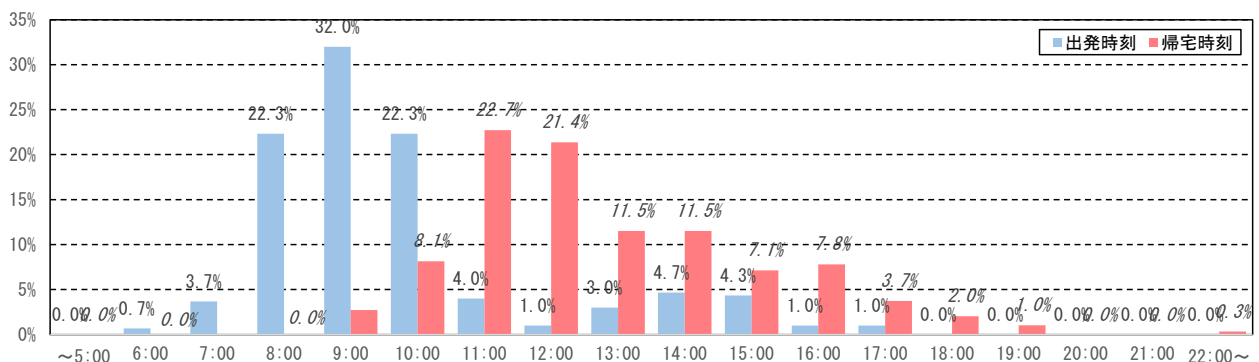


図 移動時刻（通院目的）

(4) 日常の移動のしやすさ

1) 困り具合

外出時に「困ることがよくある」と「困ることがたまにある」と回答した方の合計は32.3%となっており、年齢別に見ると、15～19歳や20～29歳と若年層でその割合が高い。

自動車運転免許有無別に見ると、「自動車運転免許無」方や「運転免許返納済」方で困り具合の割合が高い。

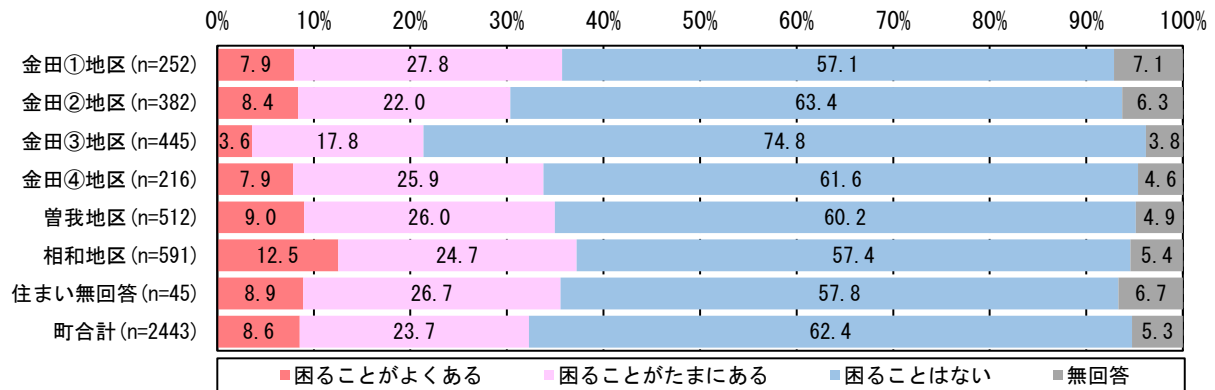


図 外出する際の困るものの有無

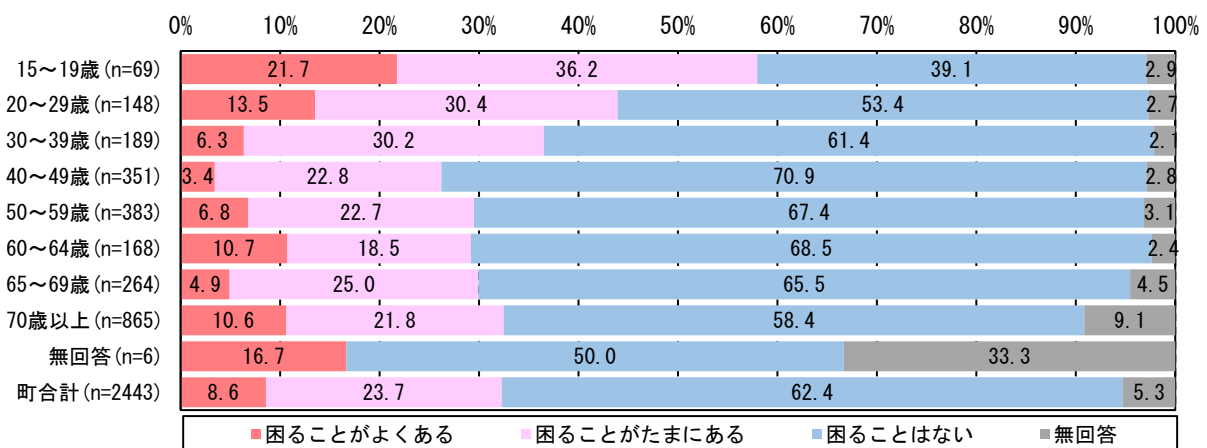


図 外出する際の困るものの有無（年齢別）

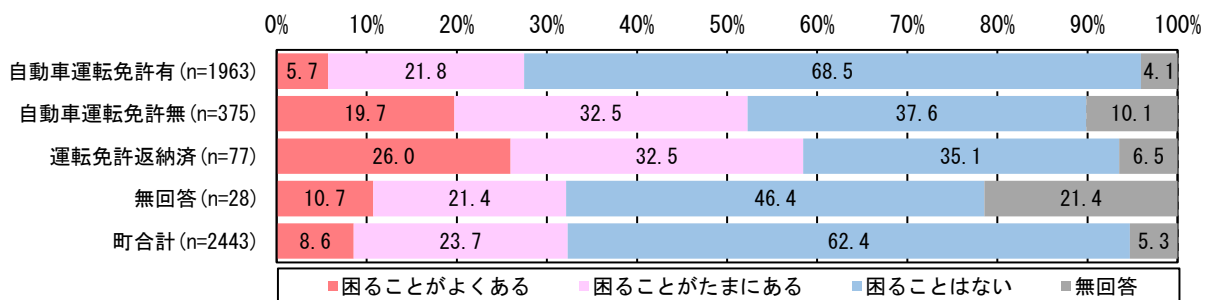


図 外出する際の困るものの有無（自動車運転免許有無別）

2) 困っている時の状況

困っている時の目的は、「遊び・趣味・習い事等 (34.2%)」、「買い物 (30.9%)」及び「通院 (27.5%)」の順が多い。

困っている時の対応は、「家族・友人などに送迎してもらおう」が50.6%と最も多く、次いで「徒歩または自転車で移動する (37.5%)」、「タクシーを利用する (20.5%)」となっている。

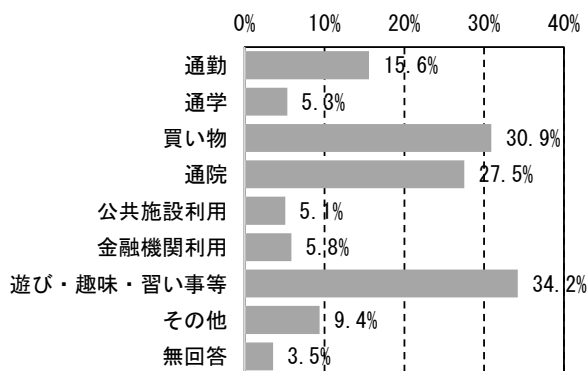


図 外出時に困る時の目的 (n=789)

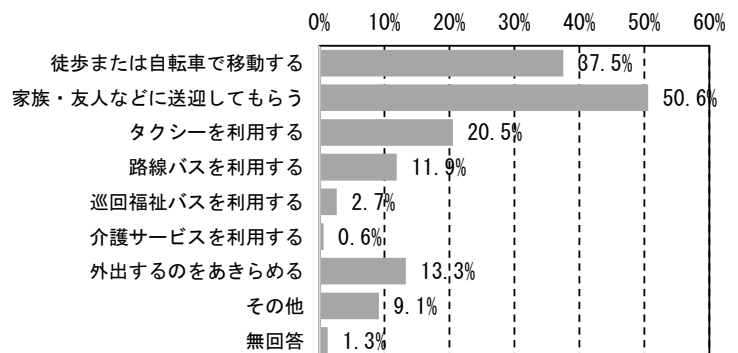


図 困っている時の対応 (n=789)

(5) 鉄道（JR 御殿場線）の利用実態

鉄道の利用頻度は、49.6%の方が利用しており、「年に数日程度（31.8%）」と低頻度の利用割合が多く、その利用目的は、「遊び・趣味・習い事等（44.5%）」が多い。

鉄道を利用しない理由は、「JR 御殿場線を利用する用事が特になから（68.5%）」、「自動車のほうが便利だから（44.4%）」が多い。

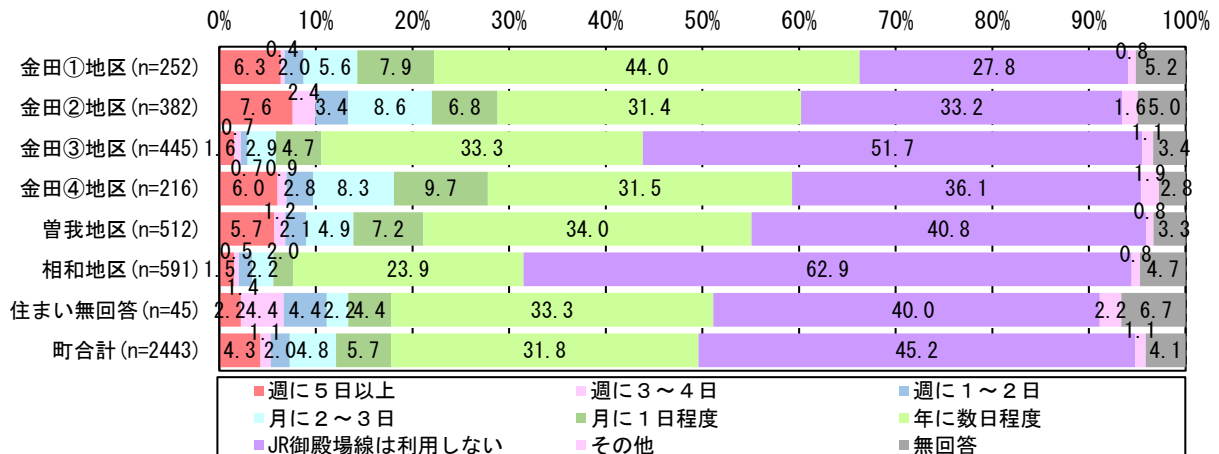


図 鉄道の利用頻度

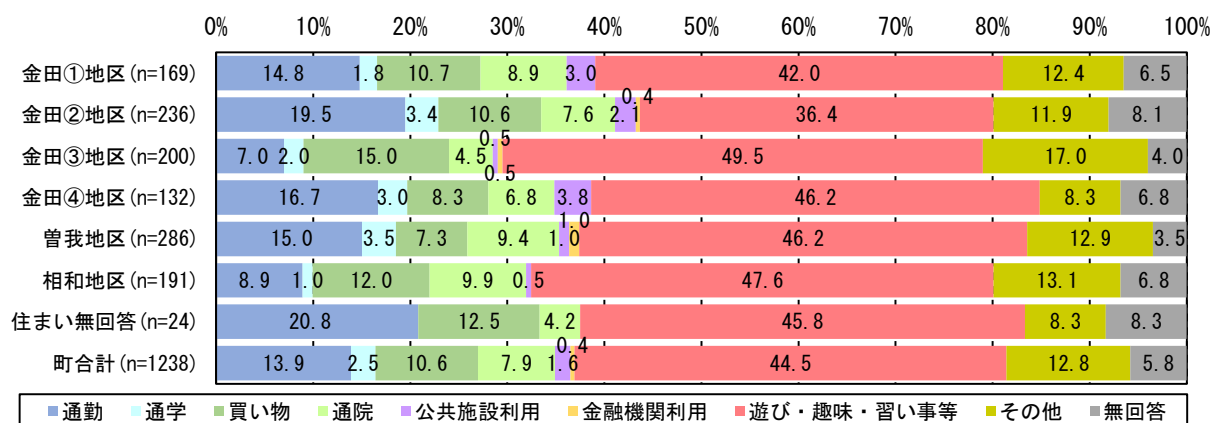


図 鉄道の利用目的

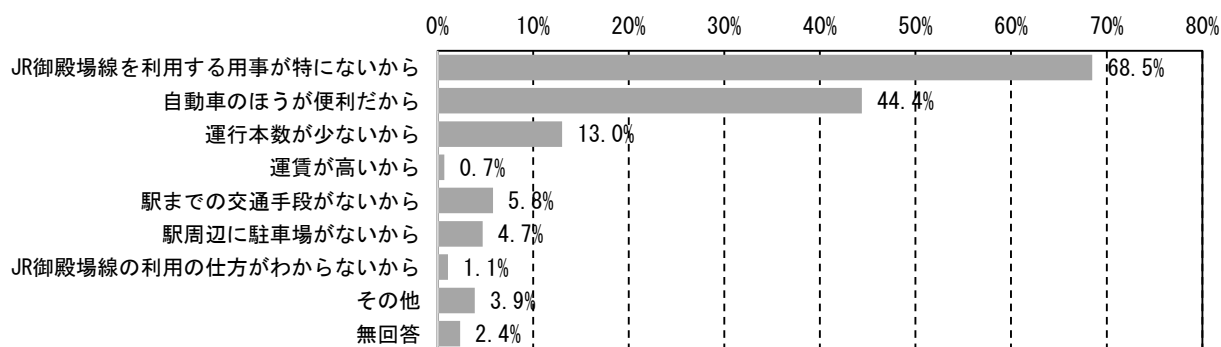


図 鉄道を利用しない理由（n=1,104）

（6）路線バスの利用実態と意識

路線バスの利用頻度は利用している方が約2割となっており、「年に数日程度」が12.6%と多い。

利用目的は、「遊び・趣味・習い事等（35.2%）」、「通院（17.8%）」、「通勤（14.8%）」の順が多い。

利用しない理由は、「路線バスを利用する用事が特にないから（57.1%）」、「家の近くにバスは通っているが自家用車のほうが便利だから（36.2%）」、「使いたい時間に運行していないから（25.3%）」が多い。

運行サービスに対する満足度（利用者）は、特に「運行本数、運行時間帯」や「バス停留所の待合空間（屋根、ベンチ）」で不満度が高い。

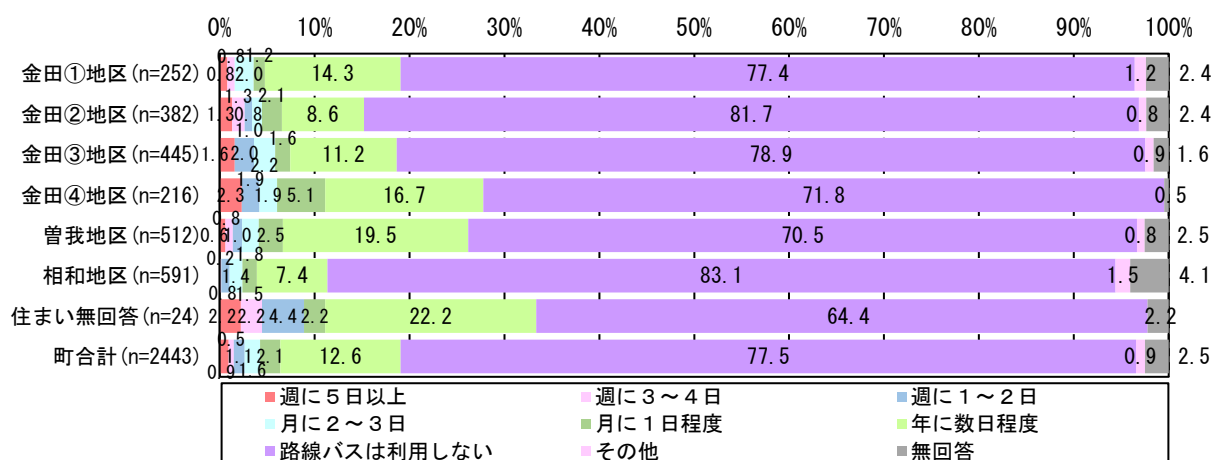


図 路線バスの利用頻度

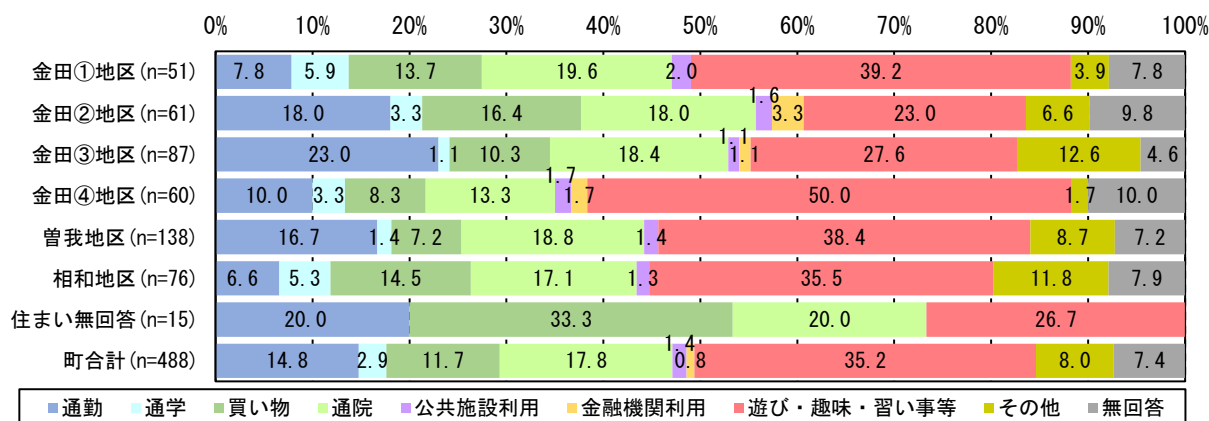


図 路線バスの利用目的

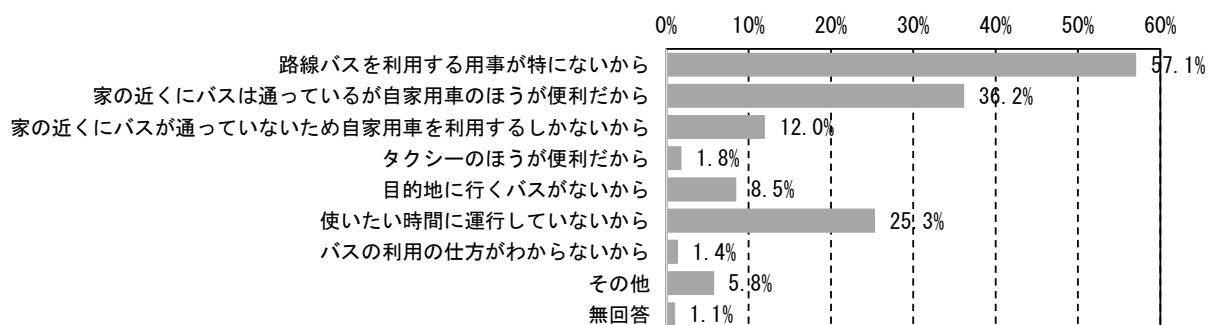
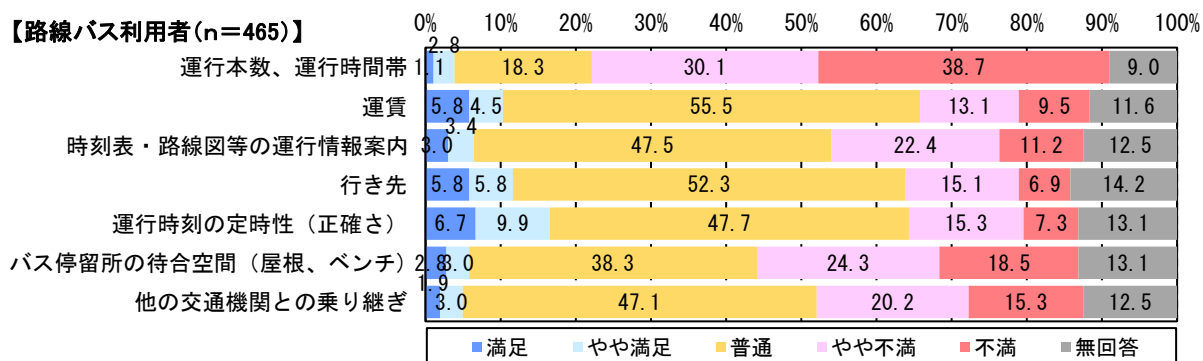
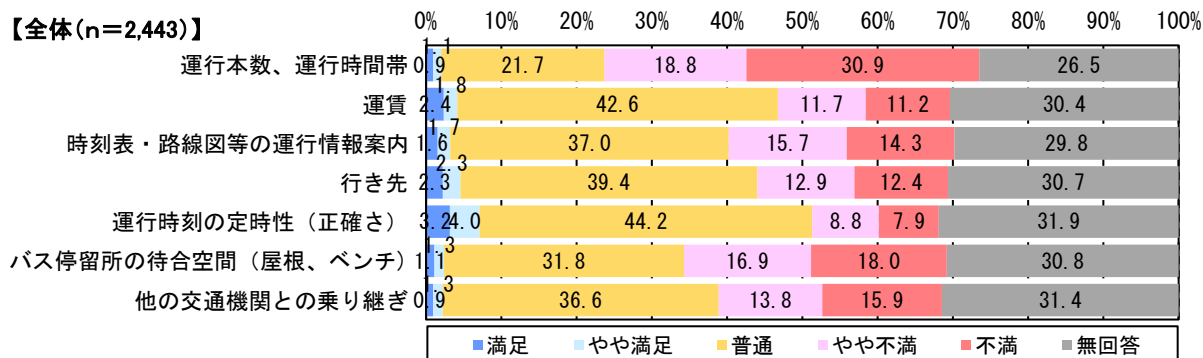


図 路線バスを利用しない理由 (n=1,894)



※利用頻度で「週に5日以上」「週に3～4日」「週に1～2日」「月に2～3日」「月に1日程度」「年に数日程度」回答者

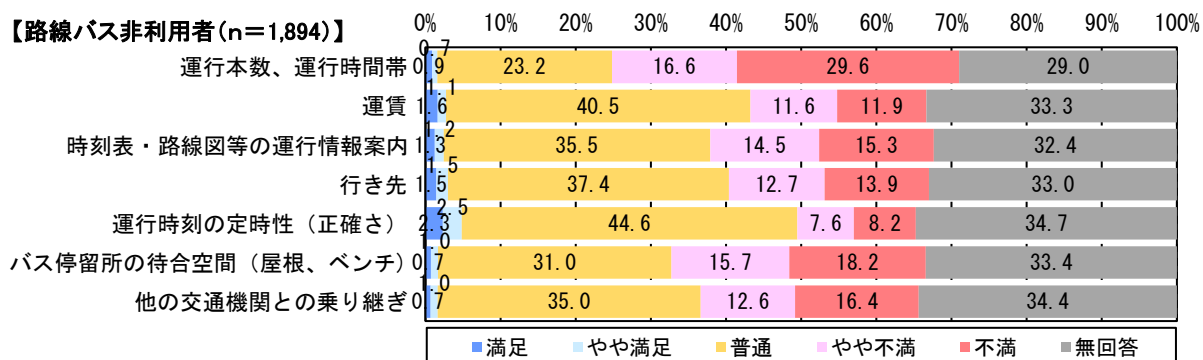


図 路線バスの運行サービスに対する満足度

(7) タクシーの利用実態

タクシーの利用頻度は、約4割の方が利用しており、「年に数日程度」が31.8%と低頻度の利用割合が多く、利用目的は「遊び・趣味・習い事等（46.6%）」が多い。

タクシーを利用しない理由は、「タクシーを利用する用事が特にないから（63.2%）」、「自動車のほうが便利だから（51.5%）」が多い。

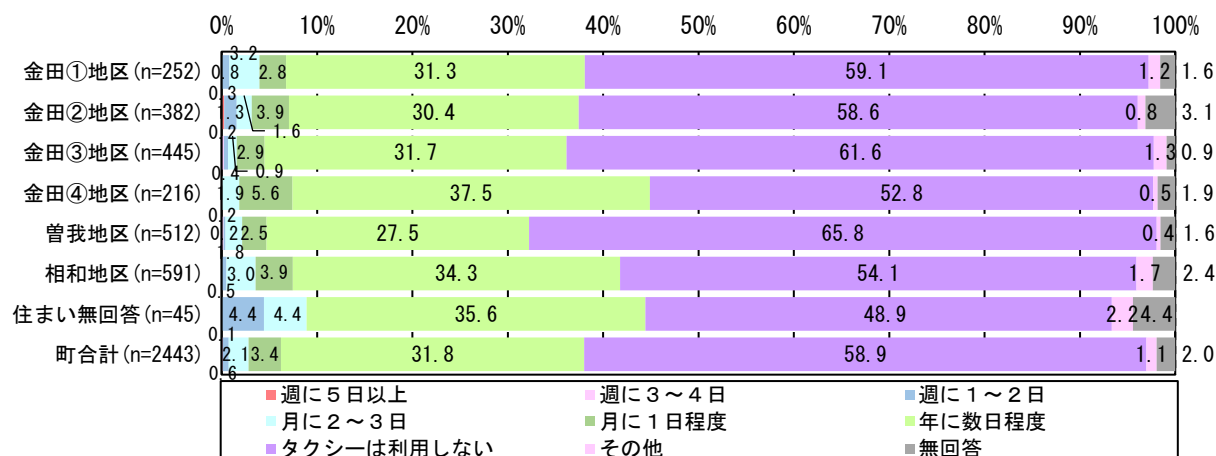


図 タクシーの利用頻度

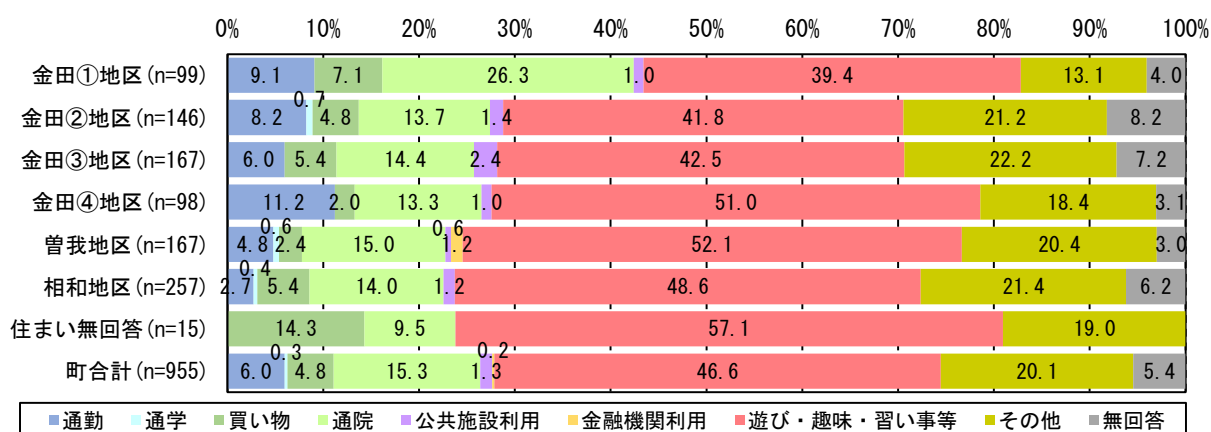


図 利用目的

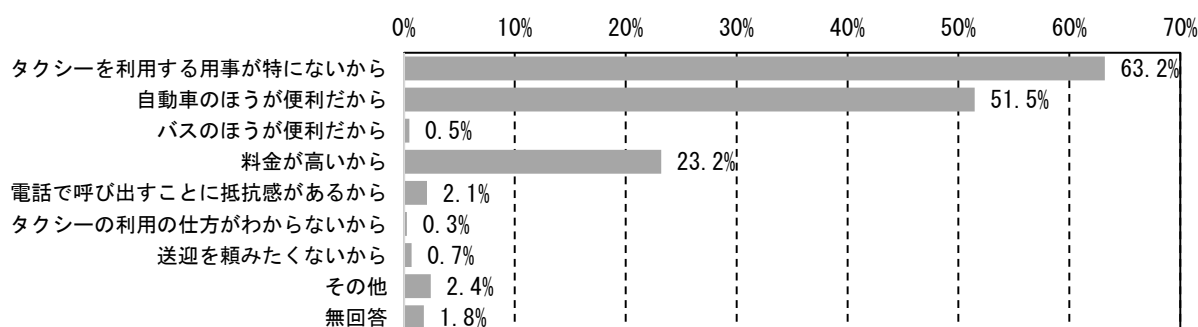


図 タクシーを利用しない理由 (n=1,440)

(8) 巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の利用実態と意識・要望

巡回福祉バスの認知度は、「知っていた」方が 35.2%で、相和地区で認知度が高く、「存在は知っていたが運行内容は知らなかった」、「存在すら知らなかった」と回答した人は 62.9%と多い。

巡回福祉バスの利用頻度は、約 1 割の方が利用しており、相和地区でその割合がやや高い。

巡回福祉バスを利用しない理由は、「巡回福祉バスを利用する用事が特にないから (61.1%)」、「家の近くにバスは通っているが自家用車のほうが便利だから (38.1%)」が多いが、「使いたい時間に運行していないから (15.5%)」といった理由も多い。

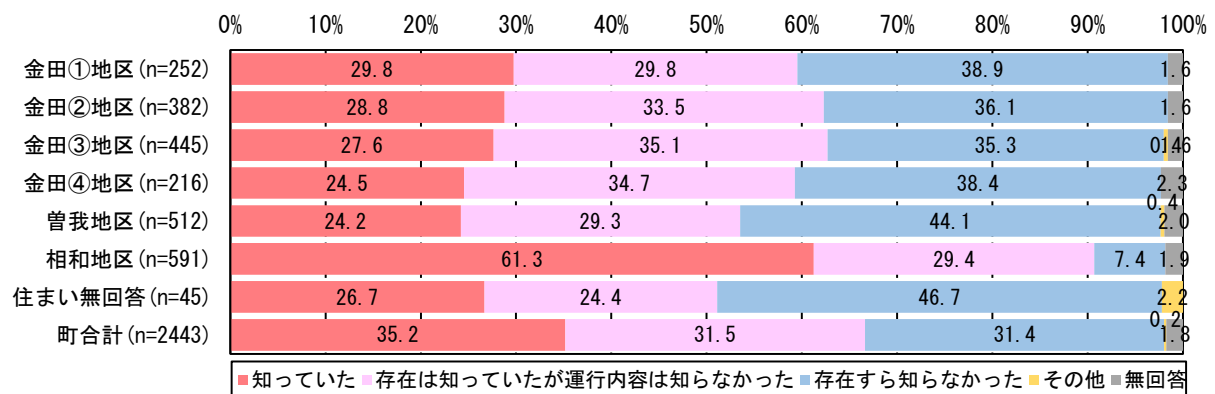


図 巡回福祉バスの認知度

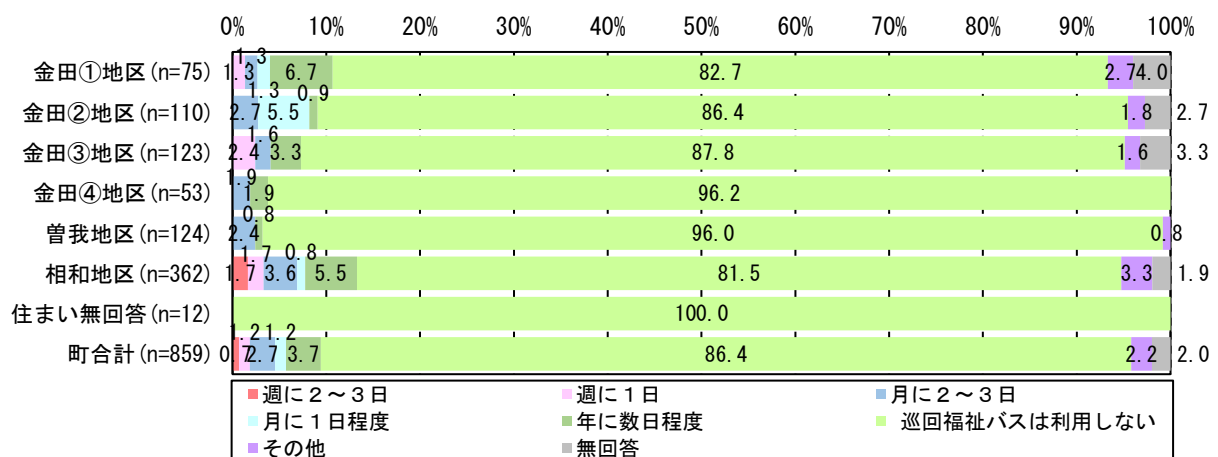


図 巡回福祉バスの利用頻度

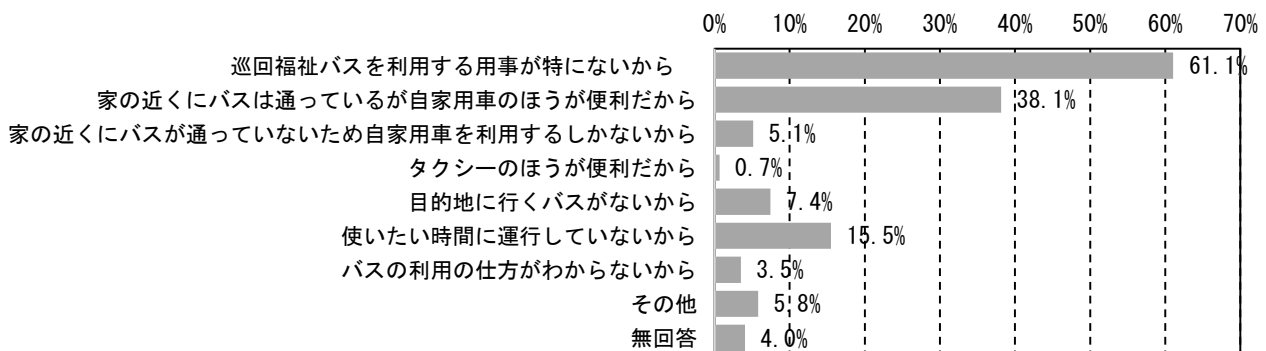


図 巡回福祉バスを利用しない理由 (n=742)

新たな公共交通システムの希望する輸送形態は、「運行ルート・ダイヤを定めた定時定路線型交通（巡回福祉バスと同様）【Aタイプ】（45.1%）」、「運行エリア内で予約があった乗降ポイントを巡回するデマンド型交通・区域運行型【Cタイプ】（25.1%）」が多い。

1回（片道）の利用における適当な価格は、各輸送形態とも200円台が多いが、定時定路線型で200円未満、200円台の割合がデマンド型交通より高い。

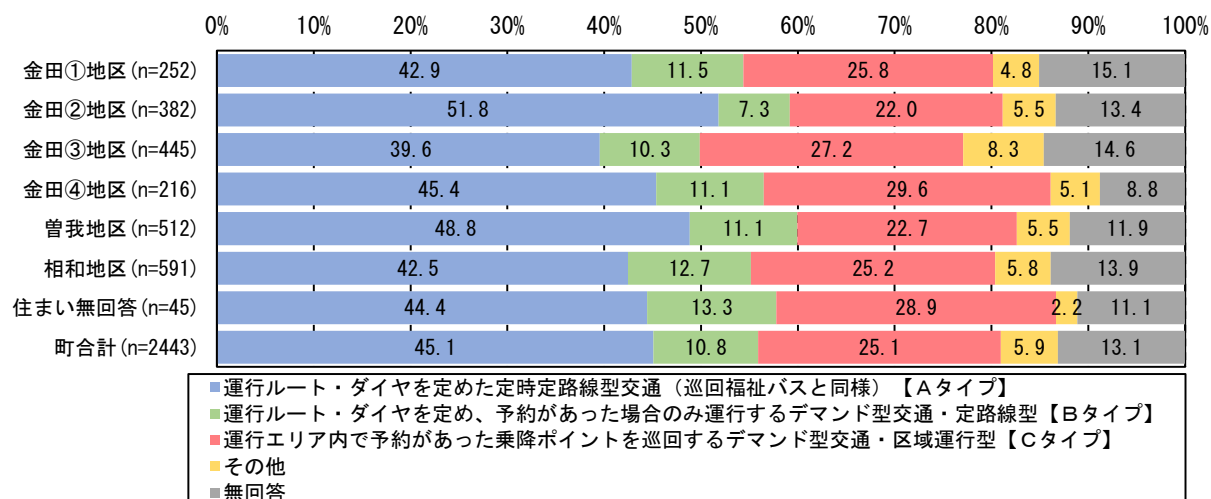


図 新たな公共交通システムの希望する輸送形態

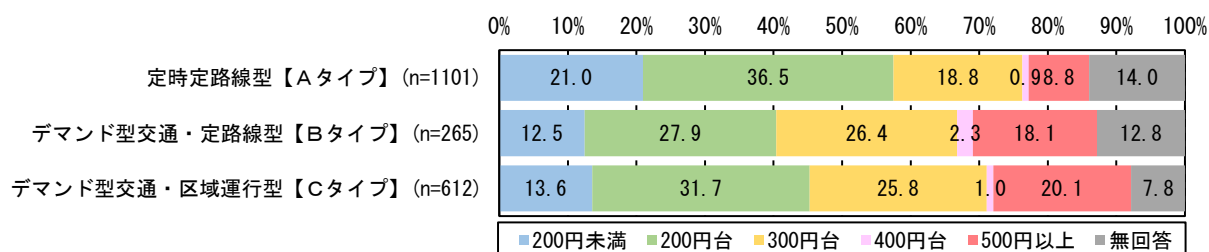


図 1回（片道）の利用における適当な価格

(9) 公共交通の利用意向

買い物や通院などの目的地へ直接移動できるバスなどの公共交通機関が運行した場合の行きたい場所は、「新松田駅（1,002件）」、「病院（536件）」及び「ヤオマサ大井町店（386件）」の順で多く、地区別に見ると、新松田駅は全ての地区で最も多い。

その利用目的は、「買い物（34.6%）」、「遊び・趣味・習い事等（23.5%）」、「通院（17.4%）」が多く、利用頻度は「年に数日程度（23.5%）」、「週に1～2日（21.4%）」となっている。

利用時間帯は、出発時間帯は、9時台、10時台が、帰宅時間帯は11時台、12時台が多い。

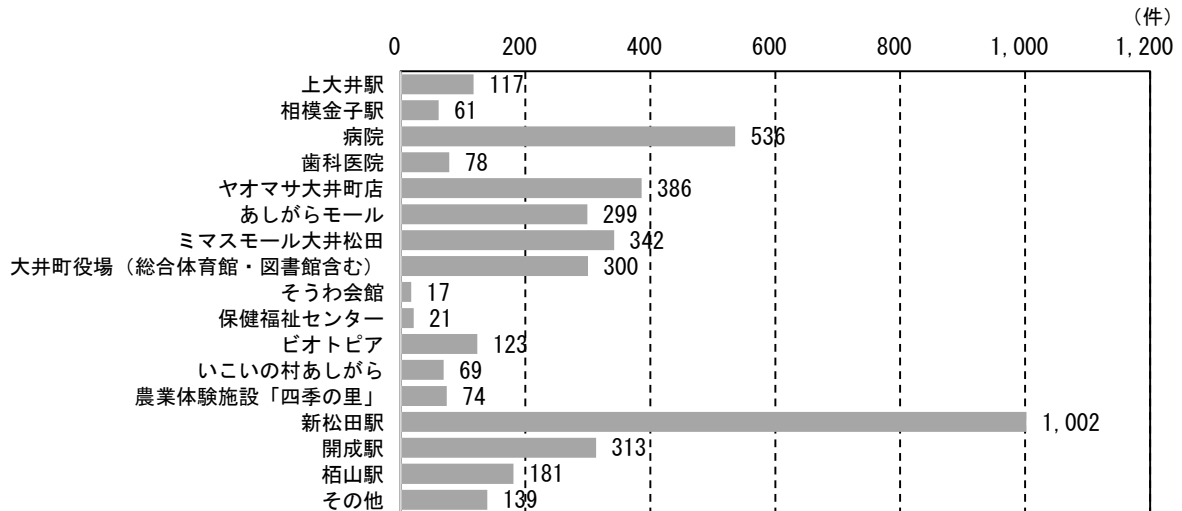
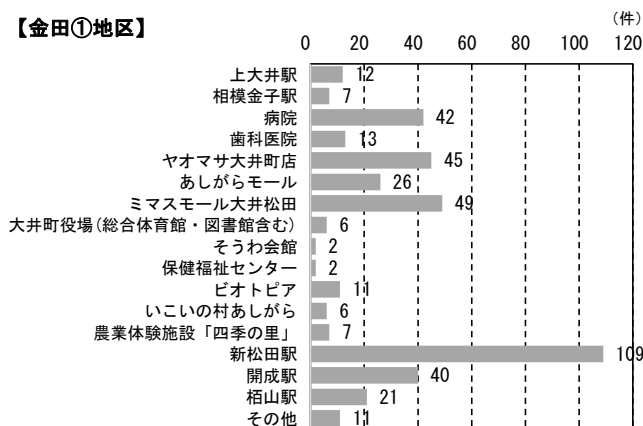
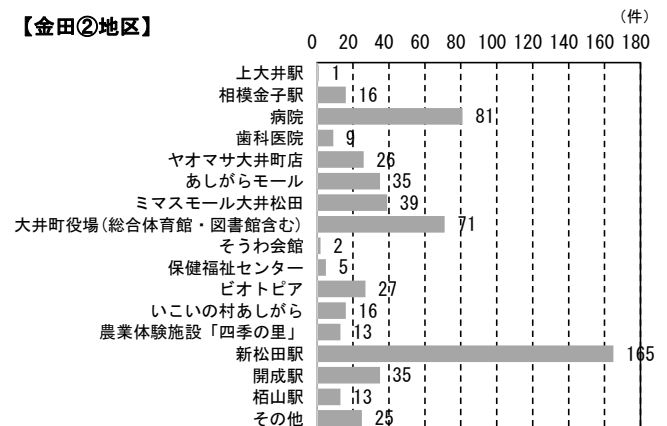


図 行きたい場所

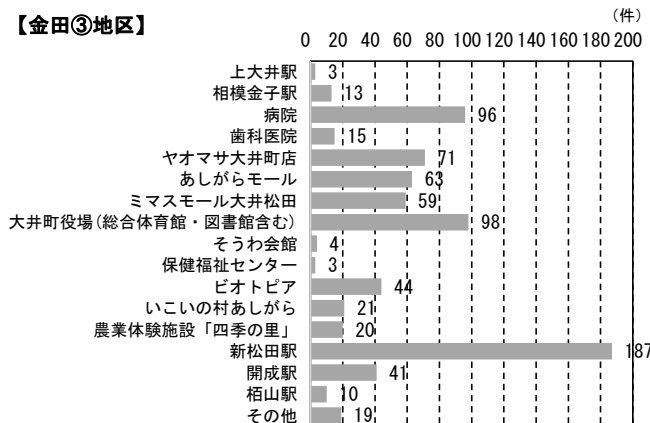
【金田①地区】



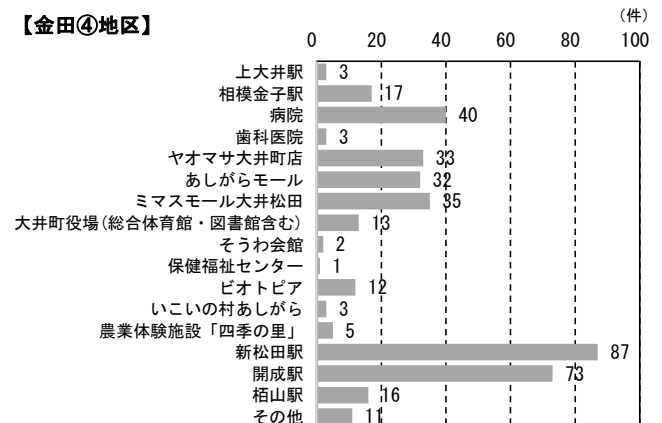
【金田②地区】



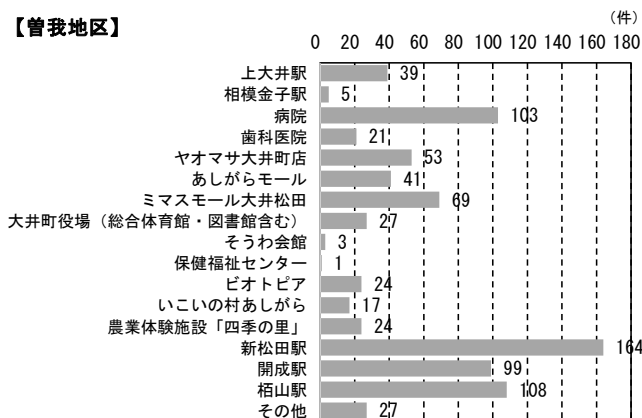
【金田③地区】



【金田④地区】



【曾我地区】



【相和地区】

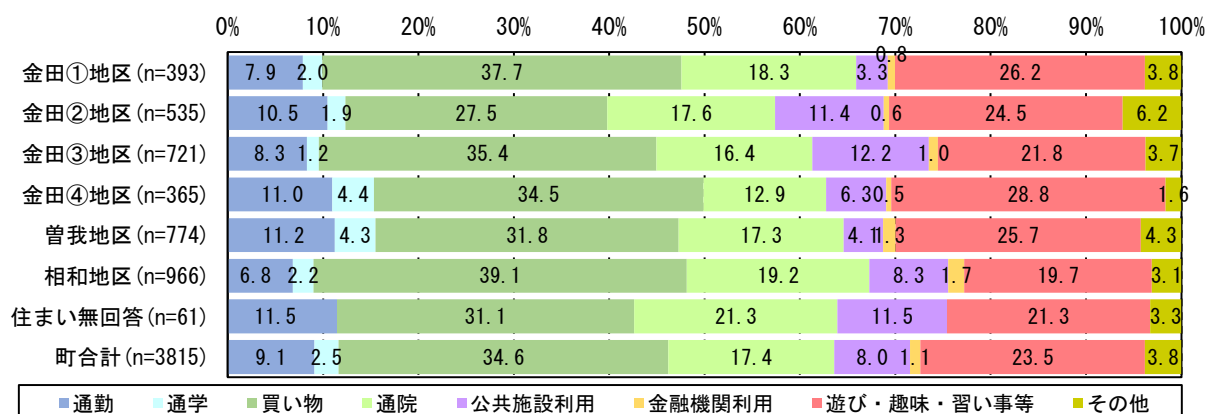
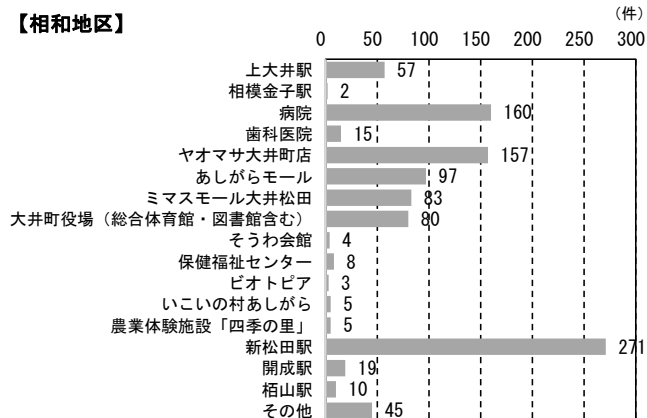


図 バスなどの公共交通機関を運行した場合の利用目的

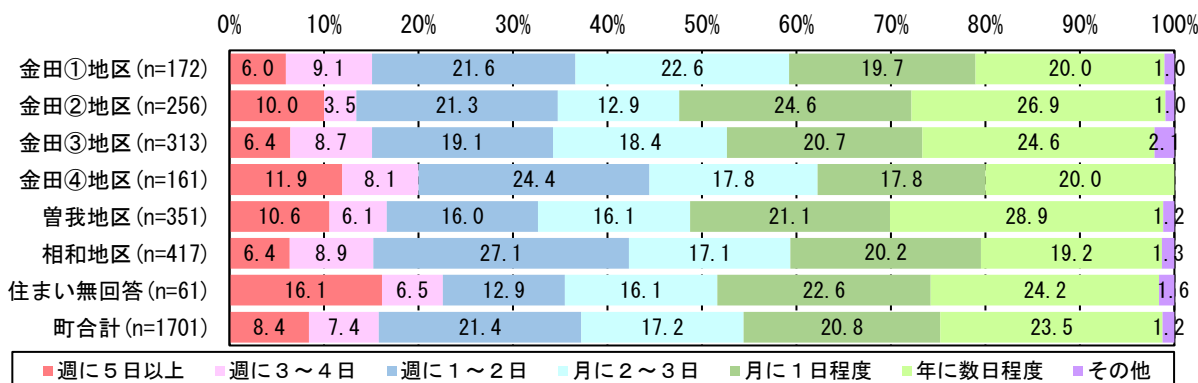


図 バスなどの公共交通機関を運行した場合の利用頻度

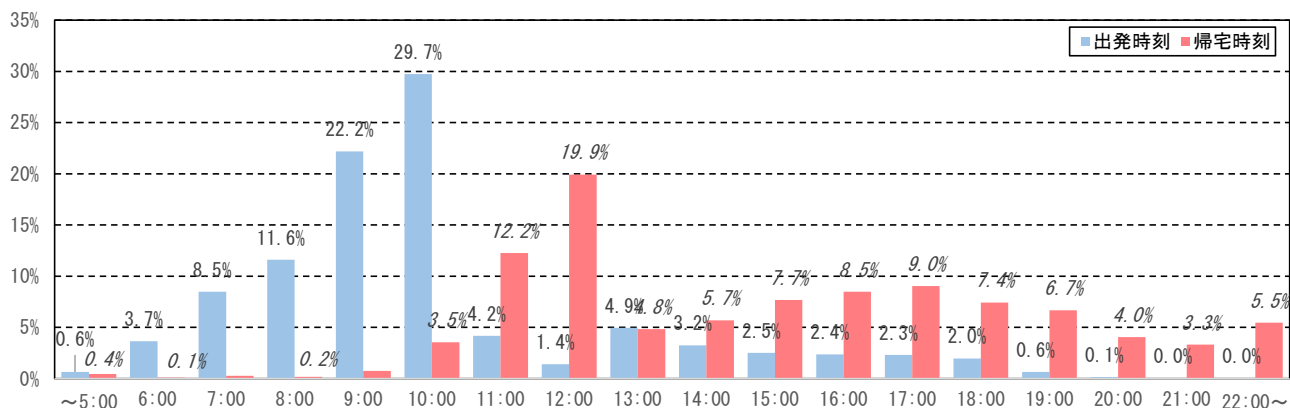


図 バスなどの公共交通機関を運行した場合の利用時間帯

(10) 公共交通の利用促進方策

公共交通の利用促進を図るための効果的な取組は、「路線バスや巡回福祉バスなどのルートや時刻表などを掲載した公共交通マップの作成・配布（51.7%）」、「自動車運転免許証返納者への公共交通割引制度などの拡充（40.1%）」、「商業施設などと連携した公共交通割引チケットなどの発行（28.4%）」の順で多い。

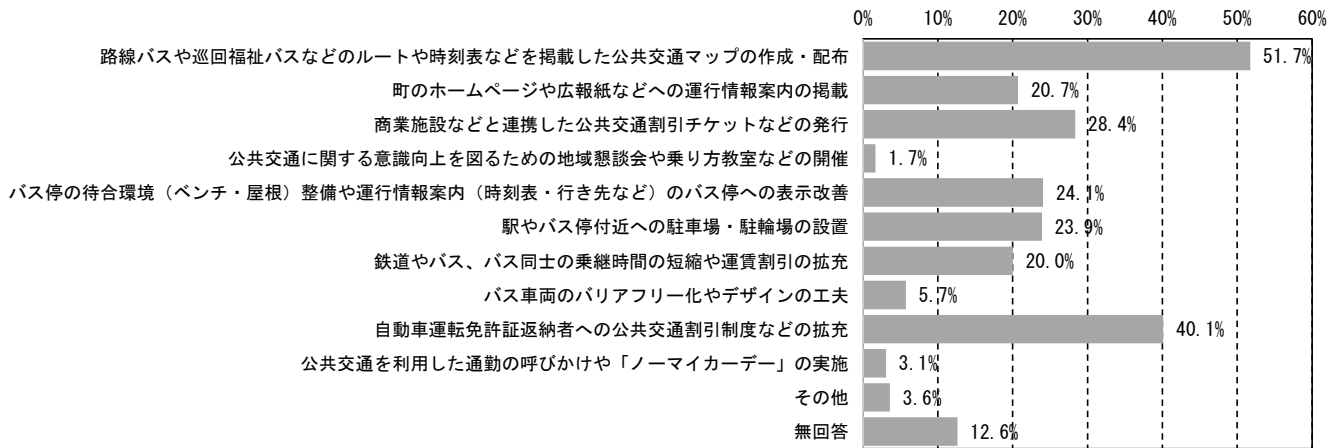


図 公共交通の利用促進を図るための効果的な取組（n=2,443）

7-2 令和元年度公共交通利用者アンケート調査

町民の公共交通の利用実態を把握し、今後の町の公共交通のあり方を検討するための基礎資料とするために行った。

調査対象者	町内全域を対象に、特に公共交通を利用していると予想される高齢者及び学生を中心に抽出。 ・65歳以上の方 300 世帯、高校生以下 300 世帯、それ以外の世帯 200 世帯を無作為抽出（合計 800 世帯）。 ・巡回福祉バス「ふれあい悠悠」利用者
調査方法	・65歳以上、高校生以下、それ以外の世帯：郵送配布、郵送回収 ※令和2年2月18日（火）～3月6日（金） ・巡回福祉バス「ふれあい悠悠」：運転手より手渡し配布、車内回収（アンケート BOX 設置） ※令和2年2月28日（金）～3月10日（火）
調査項目	①回答者の属性 ：性別、年齢、職業、住まい、世帯構成、運転免許有無、自動車の利用状況 ②路線バス・巡回福祉バス「ふれあい悠悠」・鉄道の利用状況 ：利用目的、利用バス停・最終目的地、利用頻度、バス停・駅までの移動手段と移動に掛かった時間、乗継有無、不便に感じる事、不満が改善された場合の利用意向 ③今後の地域公共交通の利用意向 ：コミュニティバス等で行きたい、または行ってほしい町内の施設、1乗車あたりの負担可能な運賃、公共交通の利便性を高めるためのアイデア

（1）回答者の属性

1）高齢者及び学生等アンケート調査

性別は「女性」が 77.2%、「男性」が 22.8%と女性の割合が多い。

年齢は「70歳代以上（46.0%）」が、「10歳代（24.2%）」、「60歳代（14.9%）」が、職業は「無職（25.0%）」、「学生（24.5%）」、「専業主婦・主夫（22.6%）」が多い。

運転免許有無は、「自動車運転免許」が 49.1%で、「持っていない」が 39.3%と多い。

自動車の利用状況は、「自分で自動車をよく運転する」が 44.2%、「家族等が送迎する自動車をよく利用している」が 36.1%、「自動車を利用することはあまりない」が 9.6%、「自動車を利用しない」が 10.1%となっており、日常的に自動車を利用している方は8割を占めている。

2）巡回福祉バス「ふれあい悠悠」利用者アンケート調査

性別は「女性」が 95.8%、「男性」が 4.2%と女性の割合が多い。

年齢は「70歳代以上」が 87.5%と大半を占め、職業は「無職（45.8%）」、「専業主婦・主夫（33.3%）」、「農業（20.8%）」が多い。

運転免許有無は、「持っていない（87.5%）」が大半を占め、自動車の利用状況は「家族等が送迎する自動車をよく利用している」が 42.9%と多い。

(2) 路線バスの利用状況

路線バスを「利用していない」と回答した方は、高齢者及び学生等アンケート調査が 71.7%、巡回福祉バス利用者アンケート調査が 60.9%を占めている。

利用の最終目的地は、「町内」が 6 件、「町外」が 50 件と町外の回答が多く、小田原市、松田町が多い。

利用頻度は「年に数日程度」が 51.7%、「月に数日程度」が 28.3%、「週に数日程度」が 13.3%と、低頻度の利用が多い。

乗継の有無は、「乗り継ぎした」が 53.6%、「乗り継ぎしていない」が 46.4%となっており、路線バスを利用した 5 割以上の方が乗り継ぎをし、そのうちの約 8 割が「鉄道」を利用している。

路線バスの不満に感じることは、高齢者及び学生等アンケート調査、巡回福祉バス利用者アンケート調査ともに、「運行本数が少ない」が最も多く、次いで高齢者及び学生等アンケート調査では「バスのダイヤやルートなどの情報が分からない」が 15.6%となっている。

不満が改善された場合の利用意向は、高齢者及び学生等アンケート調査で「新たに利用したい」が 44.6%と多い。

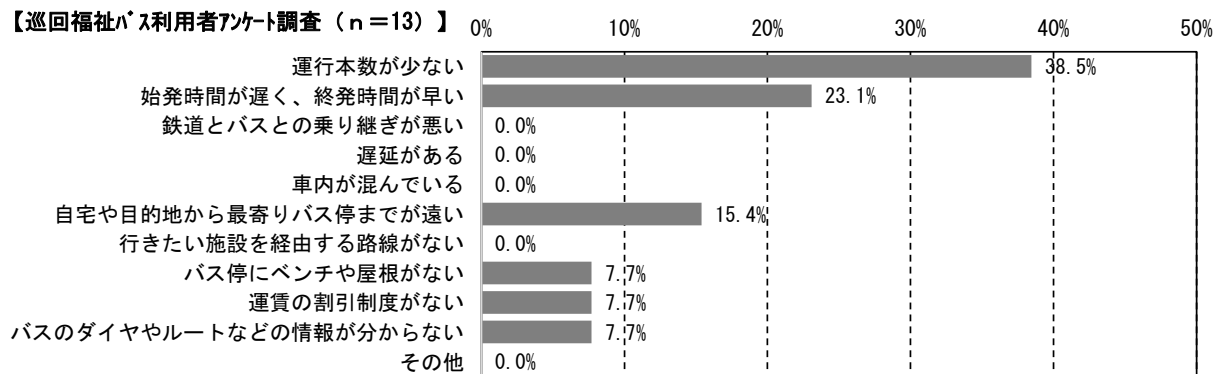
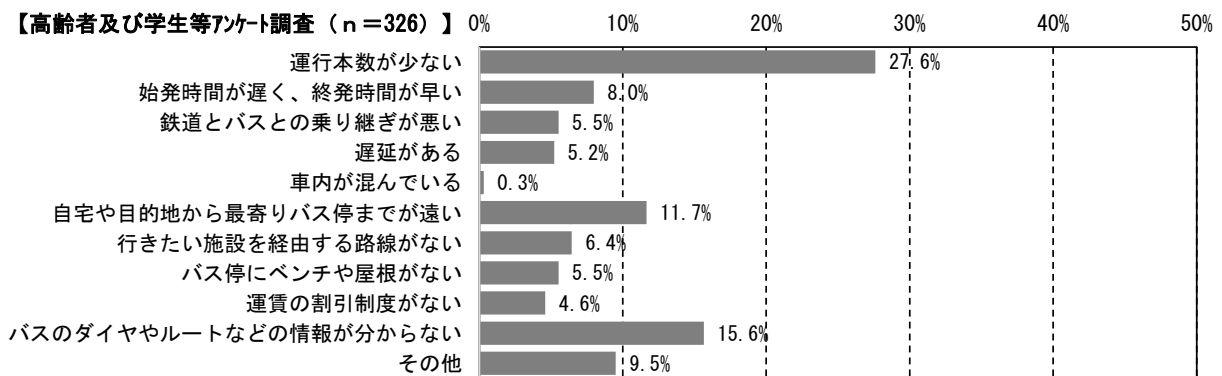


図 路線バスの不満に感じること

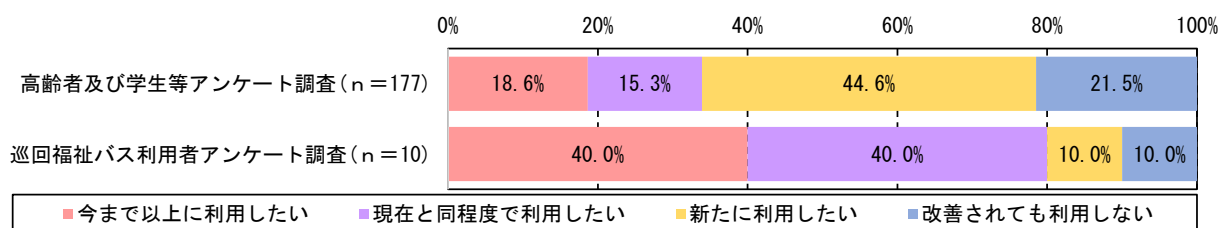


図 不満が改善された場合の利用意向

(3) 巡回福祉バス「ふれあい悠悠」の利用状況

高齢者及び学生等アンケート調査で「利用していない」と回答した方は、91.7%を占めており、巡回福祉バス利用者アンケート調査の利用目的を見ると、「通院」が50.0%、「買い物」が33.3%となっている。

利用の最終目的地は、「町内」が68.6%、「町外」が31.4%を占めている。

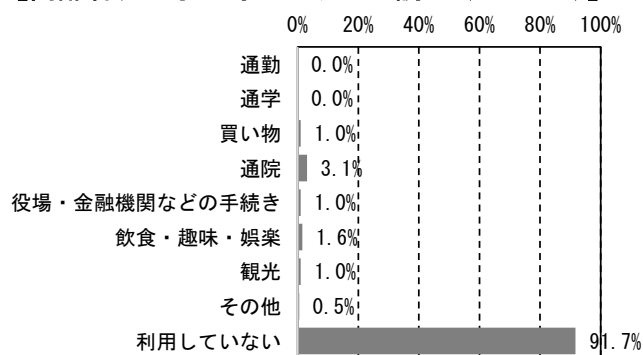
利用頻度は「月に数日程度」が46.2%、「週に数日程度」が30.8%、「年に数日程度」が15.4%と、低頻度の利用が多い。

乗継の有無は、「乗り継ぎした」が15.8%、「乗り継ぎしていない」が84.2%となっている。

巡回福祉バスの不満に感じることは、「バスのダイヤやルートなどの情報が分からない(34.0%)」、「運行本数が少ない(13.0%)」の順が多い。

不満が改善された場合の利用意向は、高齢者及び学生等アンケート調査で「新たに利用したい」が44.6%と多い。

【高齢者及び学生等アンケート調査（n=193）】



【巡回福祉バス利用者アンケート調査（n=24）】

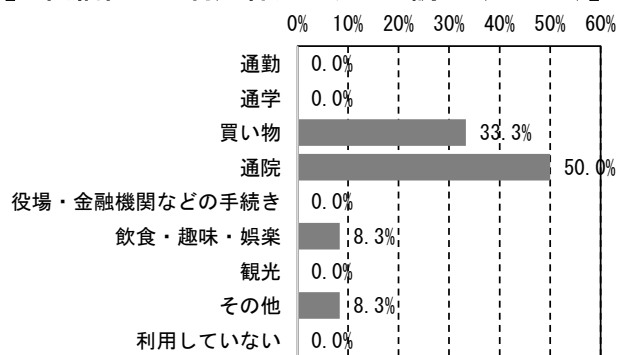


図 巡回福祉バスの利用目的

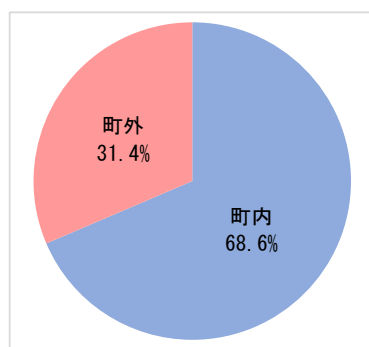


図 利用の最終目的地（n=35）

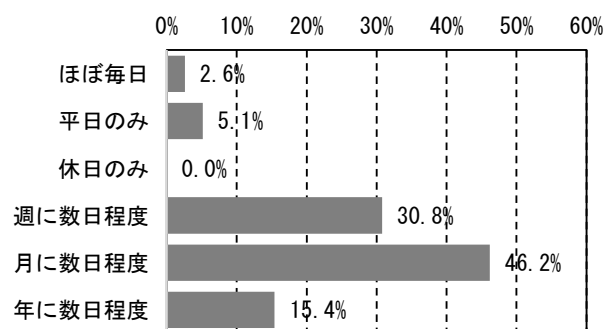


図 利用頻度（n=39）

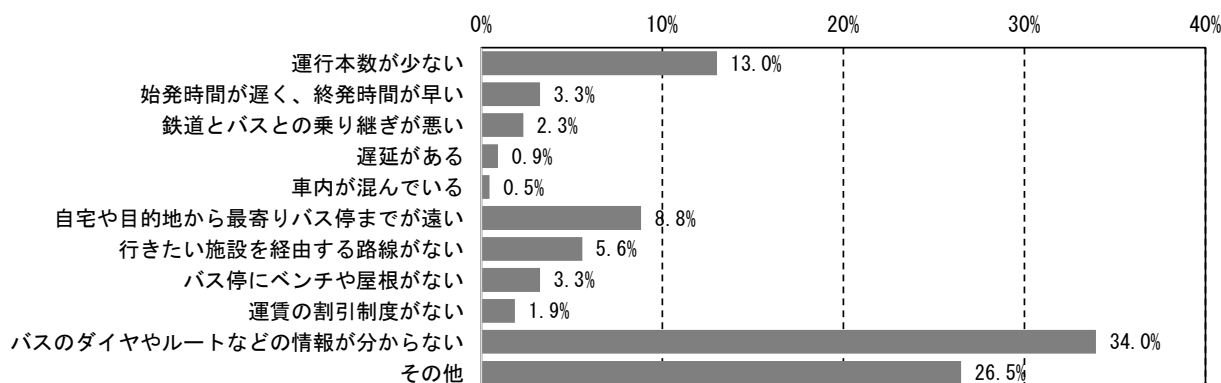


図 巡回福祉バスの不満に感じること（n=215）

※高齢者及び学生等アンケート調査と巡回福祉バス利用者アンケート調査の合算

(4) 鉄道（JR 御殿場線）の利用状況

鉄道を「利用していない」と回答した方は「高齢者及び学生等アンケート調査」が 25.1%、「巡回福祉バス利用者アンケート調査」が 65.2%を占めている。利用した目的は、「高齢者及び学生等アンケート調査」で「飲食・趣味・娯楽（20.6%）」、「買い物（17.1%）」、「通学（13.6%）」の順で多い。

利用の最終目的地は、「小田原市（49 件）」、「横浜市（27 件）」、「東京都（10 件）」の順で多い。

利用頻度は「年に数日程度」が 45.5%、「月に数日程度」が 30.5%と、低頻度の利用が多い。

自宅から利用した駅までの移動手段は、「徒歩（72.1%）」、「自転車（18.2%）」の順で多く、移動に掛かった時間は「5～10 分以内（41.1%）」、「5 分以内（29.1%）」、「10～15 分以内（23.4%）」と 10 分以内が 7 割を占めている。

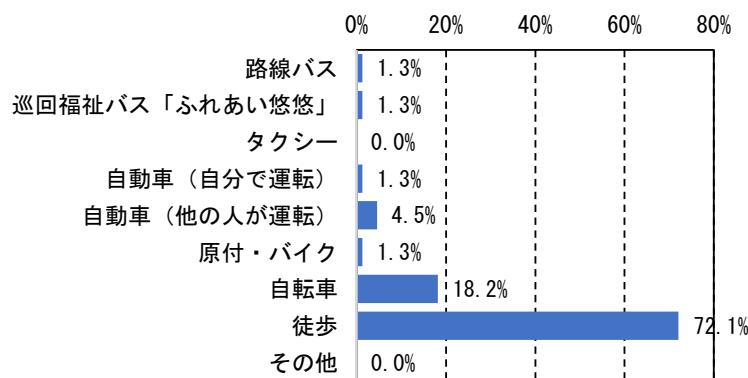


図 自宅から利用した駅までの移動手段

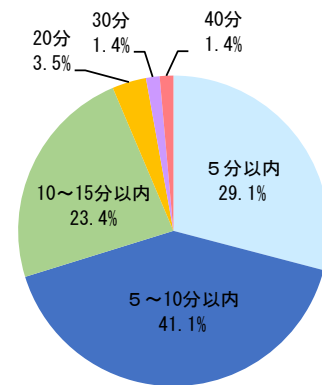


図 移動に掛かった時間

(5) 今後の地域公共交通の利用意向

コミュニティバス等で行きたい、または行って欲しい施設は、「ヤオマサ大井町店」、「大井町役場」、「新松田駅」の順で多い。

負担してもよいと思う 1 乗車あたりの運賃は、200 円が最も多く、次いで 100 円となっている。

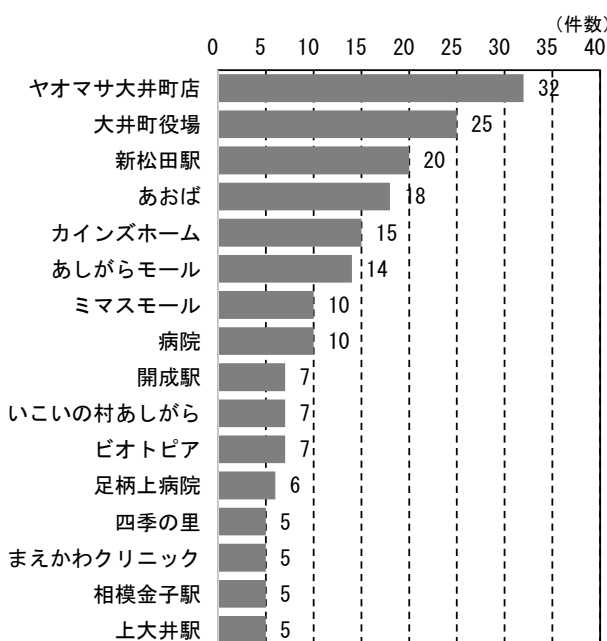
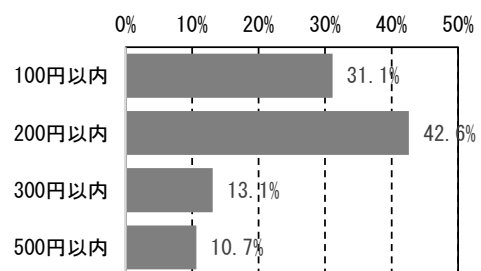


図 コミバス等で行きたい、または行って欲しい施設

【高齢者及び学生等アンケート調査（n=122）】



【巡回福祉バス利用者アンケート調査（n=13）】

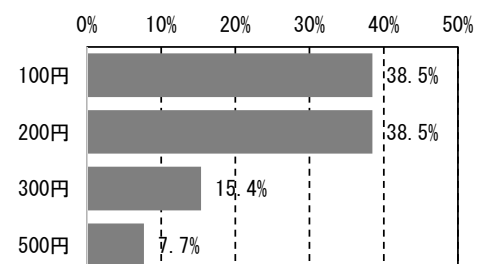


図 負担してもよいと思う 1 乗車あたりの運賃

7-3 交通事業者・関係団体アンケート調査

(1) 交通事業者アンケート調査

交通事業者を対象に、定性的な利用特性や、現在抱えている課題、利用者などから寄せられている意見・要望などを把握するためのアンケート調査を行った。

調査対象関係者	・路線バス：富士急湘南バス(株) ・タクシー：近隣タクシー事業者
調査方法	・調査方法…メールによる配布、FAX回収 ・調査時期…令和2年10月下旬～11月中旬

【交通事業者アンケート調査結果のまとめ】

路線バス	・コロナウイルスの感染拡大により、大井町内も含めて、乗合バス全体で利用者数は落ち込んでおり、対前年度比約40%減で推移。 ・大井町内で運行中の路線バスは、人口や運行エリア、主要駅の位置、現状運行本数などバランスが取れていない部分があり、採算ラインを維持するのが厳しい。 ・走行環境の問題点として、ルート上に狭隘部分があり、運行に支障を及ぼすことがある。 ・新たな公共交通を導入した場合、運行委託料について適正利潤も含め、金額面で折り合いがつけば参入の可能性はある。 ・ビオトピアへの集客をブルックスと連携しながら、もっと集客力を高められればバス運行維持も積極的に行っていきたい。 ・また、今後、地方の公共交通を維持していくには、バスより小回りのきく、タクシーの参画を視野に入れたらどうかと思う。
タクシー	・乗務員不足や、景気動向やコロナ禍の影響等による業績悪化、IT等への設備投資の増加が課題。 ・新たな公共交通を導入した場合、協議内容により、参入可能性有。 ・行政への要望として、持続可能な公共交通をめざすためには継続的な行政からの財政的な支援が必須と考えている。 ・高齢者タクシー券などを発行してはどうか。

(2) 関係団体アンケート調査

関係団体を対象に、まちづくりを取り巻く問題点・課題や、公共交通との連携・協力の可能性、公共交通に対する意見・要望などを把握するためのアンケート調査を行った。

調査対象関係者	(社)神奈川大井の里体験観光協会、足柄上商工会大井支部、大井町社会福祉協議会
調査方法	・調査方法…メールによる配布、FAX回収 ・調査時期…令和2年10月下旬～11月中旬

【関係団体アンケート調査結果のまとめ】

1) (社)神奈川大井の里体験観光協会

- ・令和元年度の観光客の利用状況や主な観光客層について
→今年度は前半コロナ禍でイベントは実施できなく、8月頃からコロナ対応ガイドラインに沿い、屋外での体験イベントを実施
- ・平日はコロナ禍の中、修学旅行中止の代替として、中学生の体験旅行（例：横浜市立中学校 160人、大型バス8台、11:30～14:00滞在）を実施（令和2年12月）
- ・土日祝は体験プログラムの実施（令和元年～2年の8～9月に3回）や、みかんもぎ体験（例：80人単位で午前・午後、土日4日間で640人）（令和2年12月）
- ・観光を取り巻く現状や問題点・課題として、コロナ禍の中ではイベント活動は難しい。ガイドラインによる制約で、特に室内体験イベントなどは規模が半減する。
- ・公共交通との連携・協力した取り組みとしては、町内観光バスはどうか（はとバスならず「めじろバス」など、大井町の名所めぐり（ビオトピア、四季の里、了義寺、酒匂川、酒蔵など）。バスの提供があれば、企画・運営（ガイドなど）は協会でも可能。
- ・観光客や観光施設（里山（四季の里）付近）などから、定期バスに乗れないのか（タクシーだけ）、駐車場が足りない、町内大型バスが通れる道路が限定されるといった声が寄せられている。
- ・公共交通に対する意見・要望として、
 - ・車（バス）時代に必要なのは、大型駐車場（Uターンできる場所含む）が欲しい（里山に）。
 - ・大型バスの町内行程から、上大井駅付近から役場方面（小田原・松田線）に抜ける道がない。

2) 足柄上商工会大井支部

- ・高齢化・公共交通網の脆弱性など構造的な課題に加え、新型コロナウイルスの影響による自粛・外出控えにより、町内商工業者は売上が大きく減少するなど大きなダメージを受けている。
- ・公共交通との連携・協力した取り組みや可能性としては
 - ・ひょうたん祭りでの巡回福祉バス（取組み）及び公共交通機関へのアクセス改善による更なる活性化（可能性）
 - ・今後増加していく高齢者の移動手段の確保として、商店、スーパー、医療施設、駅など生活に密着する場所を巡回するグリーンスローモビリティの導入による高齢者が住みやすい街づくりを進めて欲しい。
 - ・県内一部地域で、タクシーを活用した宅配サービスがあるように、乗降りするだけではない公共交通の活用方法を導入できれば、商業の活性化につながると思う。
- ・来訪者や商業施設などから、鉄道を使っでの移動が不便、高齢者などが移動・買物する手段の確保といった声が寄せられている。
- ・東西方向のアクセスが道路を含め不便なため、この改善により町全体の活性化を促して欲しい。

3) 大井町社会福祉協議会

- ・移動販売車の利用状況について
 - ・相和地区方面…5/13 : 58 名、5/27 : 52 名、6/10 : 42 名、6/24 : 34 名、7/8 : 33 名、7/22 : 26 名
 - ・金田・曽我地区方面…5/20 : 80 名、6/3 : 31 名、6/17 : 34 名、7/1 : 32 名、7/15 : 36 名、7/29 : 25 名
- ・移動販売車に対し利用者等から寄せられている声について
 - ・隔週ではなく、毎週実施して欲しい。
 - ・思った以上に商品が多く揃っていた。
 - ・移動販売のニーズは多いと思う。
 - ・新型コロナで店頭へ行くのは心配で、来てくれれば自分のペースで買い物ができて助かる。
 - ・町や自治会のイベントが中止となり、外出機会が無かったが、移動販売で皆に会えて嬉しい
 - ・移動販売だけでは全ての買物は賄えないが、足りない食材を調達できて助かる。
 - ・テスト販売後も継続して実施して欲しい など
- ・高齢者や障がい者などから公共交通に対する声や感じている課題について
 - ・ふれあい悠悠は週 3 回運行しているため、通院や買い物で利用しており、とても助かる。
 - ・ふれあい悠悠は大きいバスでなく、10 人乗り車両などで細かく多く運行して欲しい。
 - ・ふれあい悠悠は金手や新宿の方もルートに入れて欲しい。
 - ・ふれあい悠悠のバス停に目印を付けて欲しい。また、ヤオマサなど利用者が多いバス停は椅子を置いて欲しい。
 - ・路線バスの運行本数が少ない。
 - ・松田町のように高齢者へタクシー券を配布して欲しい。
 - ・大井町は車がないと本当に不便。免許を返納したいが、その後の生活を考えると返納できない。
- ・大井町の公共交通に対する意見・要望について
 - ・少人数が乗れる車で、30 分間隔で運行して欲しい。
 - ・主要道にプラスし、路地にも入ってくれれば、歩くのが不自由な人には助かる。
 - ・移動手段の問題は通院、買い物、余暇活動など目的が異なるとともに、利用する時間帯や行き先により移動距離など様々である。今後増大するこの問題に対して、公共交通としてどの範囲までの支援を想定するのか、その他の社会資源とどう連携するのかなど重要なポイントとなると思う。
 - ・町民の移動手段の問題は、健康維持、生活維持、介護予防など複数の要素があるため、関係課や団体と連携し、新しい仕組みの検討を進めて欲しい。
 - ・本会では、平成 11 年より要介護者の通院などの支援策として、住民参加型在宅福祉サービス「移送サービス」を実施中である。主な担い手は「運転ボランティア」で、インフォーマルサービスの特徴により不安定さはあるものの、令和元年度は 735 件の利用があり、公共交通の検討にあたっては、このような既存事業との調整をして欲しい。

7-4 地区別ヒアリング

自治会長や老人クラブ代表者などを対象に、公共交通に関する課題や改善点など生の意見を把握するため、6地区別にヒアリングを行った。

表 地区別ヒアリングの開催概要

対象者	自治会長や老人クラブ代表者など			
調査日時 ・開催場所 ・参加者数	自治会	開催日時	開催場所	参加者数
	篠窪、柳、高尾、赤田、上山田、中屋敷、下山田	令和2年11月25日(水) 16:00～17:30	そうわ会館 多目的室	7名
	根岸上、根岸下、市場	令和2年11月25日(水) 18:30～20:00	生涯学習センター 第1・2会議室	6名
	馬場、宮地、坊村	令和2年11月26日(木) 16:00～17:30	生涯学習センター 第1・2会議室	6名
	西大井、上大井	令和2年11月26日(木) 18:00～19:30	同上	9名
	河原、金手	令和2年11月28日(土) 13:15～14:45	生涯学習センター 視聴覚室	8名
	新宿、吉原	令和2年11月28日(土) 14:45～16:15	同上	5名

【地区別ヒアリング結果のまとめ】 ※太字下線は複数の自治会で意見が出た内容を示す

(1) 篠窪、柳、高尾、赤田、上山田、中屋敷、下山田

(巡回福祉バス(新たな公共交通システム含む)について)

- ・高校生の通学はバスの便が悪く、親が送迎で大変なため、通学の移動手段を何とかして欲しい。
- ・渋沢駅～開成駅など駅同士を結ぶ公共交通が欲しい。
- ・巡回福祉バスは特定の利用者が多く、利用したくても乗りにくい。巡回福祉バスは利用してはいけないものと思っていた。多少料金を払ってでも良いと思う。例えば、1回500円で、高齢者は無料券を配布するなど色々な方が利用できるようにして欲しい。
- ・通勤目的まで利用出来れば理想だが、通院や通学目的に対応可能なダイヤにして欲しい。朝、昼、晩に便があり、日中は循環にして欲しい。
- ・巡回福祉バスのバス停まで遠いため、フリー乗降を導入して欲しい。
- ・新たな公共交通システムは、デマンド型交通と定時定路線型の組合せが良いのではないかな。

(公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)

- ・町単独で公共交通を取組むのは難しいため、小田原市など周辺自治体と連携し、検討して欲しい。
- ・路線バスだけで対応するのは難しいため、小型バスの導入や、巡回福祉バスの利便性を上げるなどの対策を検討して欲しい。
- ・地域の移動手段は、地域全体で考えることが大事だと思う。定年退職者が運行を手伝うなど、互助による送迎など地域で支える組織づくりを検討して欲しい。ボランティアだと機運が高まらないため、金銭ではなく、何らかの特典やポイントでも良い。
- ・町では各世帯を訪問するなど、地域が何を必要としているのか、車を持っている世帯がどれ位いるのか地域の現状をしっかりと把握する必要があるのではないかな。
- ・「利便性の高い交通インフラ」をめざすことが重要だと思う。

(2) 根岸上、根岸下、市場

(巡回福祉バス (新たな公共交通システム含む) について)

- ・巡回福祉バスはもっと情報発信すれば利用するのではないかな。
- ・巡回福祉バスは、ビオトピアやひょうたん祭りなどイベント時に町外の方も利用出来るようにしたらどうか。
- ・せせらぎコースは利用者が少ないため、有効活用を図る上で見直しが必要ではないかな。
- ・大井町と南足柄市を連絡する東西方向のバスが欲しい。
- ・新たな公共交通システムは、回数券や交通系 IC カード、家族が利用可能な定期券があれば利用すると思う。また、車内で大井町の良い所をテレビモニターで流したらどうか。
- ・運行ダイヤは御殿場線の運行の間に運行したら、利用し易くなると思う。
- ・巡回福祉バスは知らない人がほとんどで、広報誌は見ないため、回覧で回したらどうか。
- ・ツアーや試乗会などを開催したら口コミで広がるのではないかな。
- ・四季の里やビオトピアへ行くバスが欲しい。

(公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)

- ・公共交通がないのは当たり前となっており、高齢者ほど運転免許が必要で、歩いて移動出来ないため、車を使わざるを得ない。
- ・後期高齢者以上になると、バス停まで行くのが大変なため、公共交通のターゲット、年齢層をどこにするのか検討することが重要だと思う。

(3) 馬場、宮地、坊村

(巡回福祉バス (新たな公共交通システム含む) について)

- ・巡回福祉バスのバス停が遠いため、フリー乗降を導入して欲しい (馬場)。
 - ・巡回福祉バスの運行日は何故毎日運行しないのか。
 - ・巡回福祉バスはどこで停まるのか分からないため、立て看板があれば利用しやすいと思う。
 - ・巡回福祉バスは無料でもなくて良い。受益者負担は原則で、少しでも料金を払った方が気分が良い。
 - ・せせらぎコースは利用者が少ないが、周知不足か不要なのか。
 - ・住宅は渥美医院の裏側にあり、運行することが出来ないか。
 - ・大井町内だけを回るルートが欲しい (10~13 時)。
- (公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)
- ・人は動かないといけませんが、街づくりは現状維持で機能を追加するか、人口が集中する役場周辺に駅を整備するなど街を改造するかどうかだと思う。
 - ・短期的には即効的な対策を、中長期には夢があるものを描くことが必要ではないかな。
 - ・社会福祉協議会で実施中の移送サービスと、公共交通とのすみ分けが必要ではないかな。
 - ・高齢者など対象者や年齢で分けて、カテゴリーごとにどのような公共交通を提供するのか検討することが必要ではないかな。
 - ・路線バスを利用する際、遅れているのか分からないため、どこを運行しているのかスマートフォンで見えるようにして欲しい。
 - ・路線バスはもっと遅くまで運行して欲しい。また、休日の運休が多い。
 - ・車を運転しなくなった時、バスの運行本数が少ないため、めったに来ないバスを待つのはつらい。
 - ・御殿場線や路線バス、巡回福祉バスなど色々な選択肢があると、利用しやすいと思う。
 - ・ビオトピアは活かされておらず、行く気がしないため、定期的な催し物を開催するなど魅力なものにしたら、町外の方も利用するのではないかな。
 - ・情報は教えてくれるものという受け身だと集まらない。

(4) 西大井、上大井

(巡回福祉バス (新たな公共交通システム含む) について)

- ・巡回福祉バスはほとんど乗っていない。必要な時に利用できなかったら意味がない。
 - ・巡回福祉バスは受益者負担が原則で、無料でもなくとも良い。
 - ・巡回福祉バスはいつも運行していなくても良いので、中井町のふれあいバスのようなデマンド交通を導入して欲しい。運賃は 200~300 円位。
 - ・空バスを運行するより、デマンド型交通の方が良い。
 - ・病院への移動手段を確保するのは一番必要だと思う。
 - ・車の年間維持費は、ガソリン代を除いても 10 万円位掛かっているため、年間 3 万円の乗り放題券があれば利用すると思う。
 - ・巡回福祉バスを利用して行っても、ダイヤがなく、帰れない。
 - ・巡回福祉バスに一度利用したことがあるが、すごい時間が掛かった。
 - ・巡回福祉バスはどこで乗ったらいいのかわからないため、情報を発信して欲しい。広報誌は見ない。
 - ・車両は単なるバスでなく、会話が弾むような、形や色など特色を持たせ、目立つようにすることも大事だと思う。
 - ・巡回福祉バスの運賃はワンコイン 500 円でも利用すると思う。
 - ・時刻表を表示したバス停を設置して欲しい。
 - ・フリー乗降を導入して欲しい。
 - ・人気の車種やラッピング、アンティークな車体など乗ってみたいものに变化させ、里山の中を運行するなど観光利用に繋がたらどうか。
 - ・運行本数を増やすことは難しいなら、繋ぎを良くすることや、待ち時間を楽しめる工夫、ダイヤを 00 分や 30 分とか分かりやすくしたらどうか。
- (公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)
- ・以前、御殿場線の事故で運転見合わせとなり、バスを使った経験があるが、町ともっとタイアップし情報を発信して欲しい。
 - ・紫水大橋の整備や、開成駅の急行停車により生活スタイルが変化した (西大井)。
 - ・母親 (90 歳) が足柄上病院へ車で行くのに、無事帰って来られるか心配。
 - ・社会福祉協議会で実施中の移送サービスの対象者を拡大し、他にも使えるようにしたら、巡回福祉バスは要らないのではないかな。

(5) 河原、金手

(巡回福祉バス (新たな公共交通システム含む) について)

- ・巡回福祉バスは高齢者でない自分にとっては、無料のバスに乗る勇気がない。
- ・巡回福祉バスは、無料に対する抵抗があり、料金を払った方が乗りやすい。
- ・大井町役場前に現在公園が整備中であるが、子供と楽しみながらバスに乗って公園やいこいの村の花見などへ行けるようになったら良い。
- ・良いことが感じられ、楽しむためのバスにして欲しい。
- ・地域によりニーズが違うため、困っている地域を先に運行したらどうか。
- ・巡回福祉バスの情報提供は、広報誌でなく、転居者へ配布するごみ収集と同じように、目立つ方法で周知して欲しい。
- ・巡回福祉バスの行きは良いが、ダイヤの関係で帰りが無い。

(公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)

- ・路線バスの便数が少ないため。無料乗車券の配布や適正な運賃にして利用者数を増やしたらどうか。
- ・土地区画整理事業や都市計画道路・金子開成和田河原線が整備中で、街が進化しており、これらまちづくりに対応し公共交通を検討すべきではないか。
- ・御殿場線は Suica を使えるようにして欲しい。

(6) 新宿、吉原

(巡回福祉バス (新たな公共交通システム含む) について)

- ・開成駅で急行が停車するようになったため、小田原方面へ行く場合、開成駅までのバスがあると便利。町外へ出かける時は、開成駅を利用しており、徒歩で駅まで行く方もいる。
- ・巡回福祉バスは開成駅まで行けるようになったら、助かると思う。
- ・ワンボックスカーなど小さな車両で、回数を増やした方が良い。
- ・巡回福祉バスはお金を払っても良い (300 円位)。30 分間隔が嬉しい。
- ・巡回福祉バスの行きは良いが、帰るダイヤがない。時間をつぶせる場所があると使いやすい。

(公共交通全般や巡回福祉バス以外の公共交通について)

- ・相模金子駅は TOICA しか使えず、Suica は使えず不便。
- ・公共交通の対象者は、現役世代と高齢者で方向性が違うと思う。
- ・町内の買物などの移動は今自転車を使っているが、これから先は不安を感じている。
- ・御殿場線は 30 分に 1 本欲しい。
- ・町内は狭い道路が多く、最近電動車椅子が増えたため、道路整備を進めて欲しい。



▲地区別ヒアリングの様子①



▲地区別ヒアリングの様子②

7-5 広報による意見募集

町民の皆さんが暮らしやすく、活力ある地域づくりを進めるにあたって、どのような地域公共交通が望ましいのか、地域公共交通を通してどのようなまちづくりを進めたら良いのか、広報誌に掲載し、意見・提案を募集した。

募集期間	令和3年2月15日（月）～2月26日（金）
募集方法	郵送・FAX・メールのいずれかで企画財政課へ提出
提出意見数	6

課題	主な意見・提案
①高齢者・障がい者及び児童・生徒など交通弱者への対応	車両について ○高齢者や障がい者に配慮したバリアフリー車両の導入 ○車両の小型化によるこまめに動くコミュニティバスの導入 巡回福祉バスについて ○巡回福祉バスの増便とコースと見直し（使いやすい手段） ○時刻表を記載したバス停留所の設置、町民への周知徹底 ○巡回福祉バスの受益者負担（運賃有料化） ○巡回福祉バスの買い物での利用 ○巡回福祉バスの通勤・通学者向けの利用
②家族等による送迎の負担の軽減	○路線バスや巡回福祉バス等を活用した児童・生徒の移動手段の確保
③公共交通同士の接続と広域アクセスの改善	○送迎空白地帯を解消し、緻密な公共交通ネットワークの形成 ○公共交通マップの作成（乗継のための時刻表） ○近隣自治体の連携による便利な交通体系の実現
④過度な車利用の抑制と地域の輸送資源の維持	様々な輸送資源の活用について ○介護タクシー、企業送迎バス、移送サービス（社会福祉協議会）、巡回福祉バス、バス・タクシー会社等地域の輸送資源の活用 ○お年寄りやバス停までの歩行困難な方のためのデマンド型バス・タクシーの導入 ○タクシー券の補助 ○車をシェアする仕組みづくり 運営体制の構築について ○ICTを活用した運営の仕組みづくりの構築 ○賃金と補償がセットになった運営体制の構築（社会福祉協議会で実施中の移送サービス）

上記課題以外の意見・提案

課題	主な意見・提案
観光振興	公共交通の導入について ○来訪者・観光客向けダイヤや、デマンドバスの導入による観光振興 ○観光地巡回バスの導入 ○観光客、町民に使いやすい公共交通の導入 ○上大井駅を利用した観光客の移動手段の確保 企画・情報発信について ○分かりやすい観光情報案内の充実 ○観光地とコラボしたタクシーツアー ○手ぶらで気軽に観光の実現（レンタル衣装や靴の用意による農作業体験等） ○町民の理解と協力による観光振興 →町民への観光クーポン券発行（どんな観光が出来るのか知る） ○企業や観光地など町ぐるみの協力による町の発展
公共交通全体	○どの世代も利用しやすい公共交通の実現 ○みんなが安心して住み続けられるまちづくり ○少しでも快適な生活を送るために ○誰でも住みやすい愛される街に